

医療費分析結果報告書

令和 3 年度版

全国土木建築国民健康保険組合

目次

1 被保険者の状況

(1) 被保険者数の推移	1
(2) 年齢階級別被保険者数	2
(3) 前期高齢者の被保険者数	4
(4) 扶養率分析	5

2 医療費の状況

(1) 医療費	7
(2) 診療区分別の医療費	8
(3) 1人当たり医療費	9
(4) 年齢階級別1人当たり医療費	10
(5) 診療区分別1人当たり医療費	12
(6) 診療区分別各指標一覧	13
(7) 医科入院	14
①入院1人当たり医療費／②入院1人当たり日数／③入院1日当たり医療費／ ④推計新規入院件数／⑤100人当たり新規入院件数／⑥推計平均在院日数／ ⑦推計1入院当たり医療費	
(参考) 入院医療費の3要素分析と新3要素分析	27
(8) 医科入院外	28
①入院外1人当たり医療費／②入院外1人当たり日数／③入院外1日当たり医療費	
(9) 歯科	34
①歯科1人当たり医療費／②歯科1人当たり日数／③歯科1日当たり医療費	
(10) 調剤	40
①調剤1人当たり医療費／②調剤1人当たり回数／③調剤1回当たり医療費	
(11) ジェネリック医薬品の使用状況(数量ベース)	46

3 疾病の状況

(1) 疾病分類別・年齢階級別医療費	47
①全体(医科+歯科)／②入院(医科+歯科)：組合員／③入院(医科+歯科)：家族／ ④入院外(医科+歯科)：組合員／⑤入院外(医科+歯科)：家族	
(2) 疾病分類別1人当たり医療費(医科)	52
①全体(入院+入院外)／②入院／③入院外	
(3) 前期高齢者に係る疾病分類比較分析(医科)	55
①疾病分類別1人当たり医療費／②疾病分類別新3要素分析(医科入院：1人当たり 医療費上位10疾病分類)	
(参考) 新型コロナウイルス感染症の影響	58

－ は じ め に －

本組合の事業運営につきましては、日頃格別のご配意を賜り、厚くお礼申しあげます。

さて、このたび令和３年度版の「医療費分析結果報告書」を作成いたしました。

本報告書は、本組合被保険者の受診や疾病の状況を、組合員・家族別、年齢階級別、疾病分類別等の切り口から観察したもので、本組合の医療費等の現状を把握していただくとともに、分析結果を保険給付等の適正化及び保健事業の推進に活用することを目的としています。

被保険者の状況、医療費の状況及び疾病の状況の３部構成とし、各項目に図表を掲載して簡潔に説明を加え、また、分析に際して組保管掌健康保険と比較することにより、本組合の水準を把握することが可能となっております。

ご一読のうえ、今後も本組合の事業運営にご理解、ご協力を賜りますようお願い申しあげます。

令和 ５ 年 ７ 月

－ 報告書の留意事項 －

- ・ 本報告書は、原則として令和３年度の実績に基づき作成していますが、本組合が保有するデータ及び比較対象元の公開データ等の有無のため、項目によっては異なる期間を分析しています。その場合は該当項目にいつ時点の内容かを明示しています。
- ・ 本報告書では組合健保を比較対象としていますが、組合健保は70歳以上の加入者が「被保険者」であるか「被扶養者」であるか区別できないことから、「被保険者」及び「被扶養者」については70歳未満の加入者の実績となっており、本組合の「組合員」及び「家族」と比較を行うため、本組合においても「組合員」及び「家族」は、70歳未満の実績としています。ただし、年齢階層を掲載している場合は、各表の年齢階層別加入者の実績としています。
- ・ 本報告書でいう医療費とは、医科、歯科及び調剤の費用額（診療（調剤）報酬明細書に記載された点数を10倍した金額）です。なお、総医療費には入院時食事・生活療養費及び訪問看護療養費を、医科入院及び歯科には入院時食事・生活療養費の費用額を含んでいます。ただし、「3 疾病の状況」の項目では、入院時食事・生活療養費及び訪問看護療養費を除いています。
- ・ 本報告書では入院医療費の新3要素分析を用いており、推計新規入院件数（前月以前に退院した者が当月再入院した場合を含む）と推計平均在院日数（入院の1件当たり日数から算定した平均在院日数）の積が入院受診延日数となります。

したがって、入院医療費は推計新規入院件数（入院発生）、推計平均在院日数（入院期間）及び入院の1日当たり医療費（入院単価）の3要素の積に分解でき、さらに、推計新規入院件数と推計1入院当たり医療費（推計平均在院日数に入院の1日当たり医療費を乗じて得た1入院当たり医療費）の積に分解できます。

- ・ 本報告書の疾病分類別の医療費は、診療報酬明細書に複数の疾病が記載されているものは按分して集計しています。医療費按分は、推定ロジックを利用して医療費を疾病ごとに配分しています。

— 診療報酬改定率 —

	平成30年度	令和元年度 (10月1日実施)	令和2年度	令和3年度
全体改定率 (①+②)	△1.19%	△0.07%	△0.46%	
診療報酬本体 (①)	0.55%	0.41%	0.55%	
医 科	0.63%	0.48%	0.53%	
歯 科	0.69%	0.57%	0.59%	
調 剤	0.19%	0.12%	0.16%	
薬価等【医療費ベース】 (②) (③+④)	△1.74%	△0.48%	△1.01%	△0.90% (※)
薬価 (③) (括弧内は薬価ベース)	△1.65% (△7.48%)	△0.51% (△2.40%)	△0.99% (△4.38%)	
材料価格 (④)	△0.09%	0.03%	△0.02%	

(※) 令和3年度から薬価改定を毎年実施。3年度の概算医療費から、削減額(△4,300億円)を医療費に対する率へ換算した値。

(注) 薬価改定における医療費ベースでの改定率とは、診療報酬総額の増減率をいう。
薬価ベースでの改定率とは、薬価の引上げ又は引下げによる当該診療報酬総額中の薬剤費の増減率をいう。

1 被保険者の状況

(1) 被保険者数の推移

令和3年度における被保険者数（組合健保においては加入者数）は401,881人であり、前年度と比較して0.53%減少している。このうち70歳未満の組合員数は193,622人、家族数は197,705人であり、前年度と比較して組合員数は0.68%増加しており、家族数は2.00%減少している。

平成29年度からの推移をみると、全体の被保険者数は減少傾向にある。組合員、家族別でみると、組合員数は増加傾向にあるが、令和2年度以後の増加率はやや鈍化している。家族数は減少し続けており、3年度は20万人を割った。

対前年度増減率を組合健保と比較すると、組合員数（組合健保においては被保険者数）については、全国土木は先述のとおり増加している一方、組合健保は2年度までの増加傾向から一転し3年度はやや減少している。家族数（組合健保においては被扶養者数）については、全国土木、組合健保のいずれも減少傾向にあり、3年度の減少率は組合健保の方が高くなっている。

なお、組合健保では平成31年4月1日に大規模健保2組合が解散したため、令和元年度の加入者数は平成30年度と比較し大きく減少している。

(表-1) 被保険者数の推移（年度平均）

(人、%)

	全 国 土 木						組 合 健 保					
	組 合 員 数		家 族 数				被 保 険 者 数		被 扶 養 者 数			
	対前年度 増減率		対前年度 増減率		対前年度 増減率		対前年度 増減率		対前年度 増減率		対前年度 増減率	
平成29年度	△ 0.37	410,776	1.33	187,427	△ 2.13	216,213	0.64	29,497,265	2.11	12,840,457	△ 1.28	16,379,948
平成30年度	△ 0.76	407,635	0.80	188,924	△ 2.59	210,608	0.21	29,560,664	1.31	12,667,533	△ 1.35	16,594,357
令和元年度	△ 0.38	406,101	1.02	190,843	△ 2.10	206,182	△ 2.21 (0.01)	28,906,037	△ 2.08 (1.30)	12,337,039	△ 2.61 (△ 1.64)	16,249,981
令和2年度	△ 0.52	404,005	0.77	192,312	△ 2.16	201,733	△ 0.32	28,812,965	0.57	12,127,007	△ 1.70	16,342,327
令和3年度	△ 0.53	401,881	0.68	193,622	△ 2.00	197,705	△ 1.01	28,523,241	△ 0.13	11,842,344	△ 2.35	16,321,098

※組合健保の令和元年度の対前年度増減率の括弧内は、平成31年4月1日付で解散した大規模健保2組合の影響を除いた数値である。

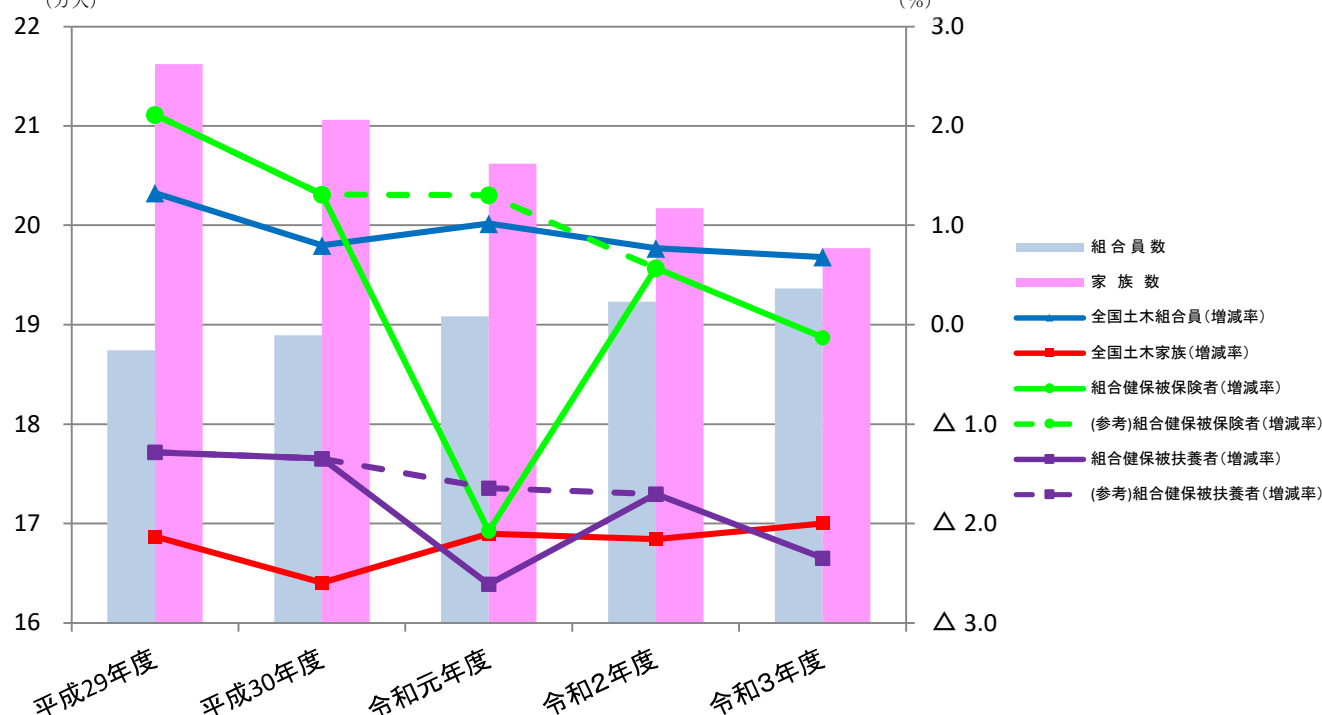
(出典 健康保険組合連合会「令和元年度健保組合決算見込資料編」、「令和2年度健保組合決算見込資料編」)

出典 令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

(図-1) 被保険者数の推移

(万人)

(%)



※組合健保の増減率の推移の点線部分は、大規模健保2組合の解散の影響を除いた場合。

(2) 年齢階級別被保険者数

令和3年9月末現在の年齢階級別被保険者数を構成比でみると、組合員では、男女ともに50歳から54歳（男性16.03%、女性14.79%）の構成比が最も高く、男女ともに15歳から19歳（男性0.94%、女性0.64%）の構成比が最も低くなっている。家族では、男性は15歳から19歳（22.27%）、女性は50歳から54歳（10.82%）の構成比が最も高く、男性は45歳から49歳（0.54%）、女性は25歳から29歳（2.69%）が最も低くなっている。

全体の構成比を組合健保と比較すると、25歳から49歳までは組合健保が高く、50歳以降は全国土木が高くなっている。

平均年齢では、全国土木（37.7歳）が、組合健保（35.7歳）より2.0歳高くなっている。

(表-2) 年齢階級別被保険者数（令和3年9月末現在）

年齢別	全 国 土 木												組合健保 構成比
	組 合 員 数						家 族 数						
	男 性		女 性		男 性		女 性						
歳 歳	人	%	人	人	%	人	%	人	人	%	人	%	%
0 - 4	19,586	4.87						19,586	10,079	15.61	9,507	6.83	5.46
5 - 9	20,408	5.08						20,408	10,514	16.29	9,894	7.11	6.08
10 - 14	23,994	5.97						23,994	12,144	18.81	11,850	8.51	6.10
15 - 19	30,218	7.51	1,777	1,584	0.94	193	0.64	28,441	14,377	22.27	14,064	10.10	6.44
20 - 24	32,075	7.98	13,127	10,556	6.27	2,571	8.55	18,948	10,097	15.64	8,851	6.36	7.19
25 - 29	25,940	6.45	20,558	16,454	9.78	4,104	13.65	5,382	1,637	2.54	3,745	2.69	7.45
30 - 34	21,574	5.36	15,625	12,609	7.50	3,016	10.03	5,949	829	1.28	5,120	3.68	7.46
35 - 39	22,408	5.57	15,340	12,586	7.48	2,754	9.16	7,068	519	0.80	6,549	4.70	8.39
40 - 44	24,463	6.08	16,164	13,244	7.87	2,920	9.71	8,299	367	0.57	7,932	5.70	8.73
45 - 49	39,074	9.72	25,877	21,669	12.88	4,208	14.00	13,197	351	0.54	12,846	9.22	10.40
50 - 54	46,847	11.65	31,410	26,964	16.03	4,446	14.79	15,437	365	0.57	15,072	10.82	9.95
55 - 59	34,729	8.64	22,580	19,606	11.65	2,974	9.89	12,149	381	0.59	11,768	8.45	7.64
60 - 64	30,223	7.52	19,260	17,443	10.37	1,817	6.04	10,963	474	0.73	10,489	7.53	5.13
65 - 69	19,743	4.91	12,108	11,398	6.78	710	2.36	7,635	856	1.33	6,779	4.87	2.29
70 - 74	10,819	2.69	4,469	4,114	2.45	355	1.18	6,350	1,570	2.43	4,780	3.43	1.29
計	402,101	100.00	198,295	168,227	100.00	30,068	100.00	203,806	64,560	100.00	139,246	100.00	100.00

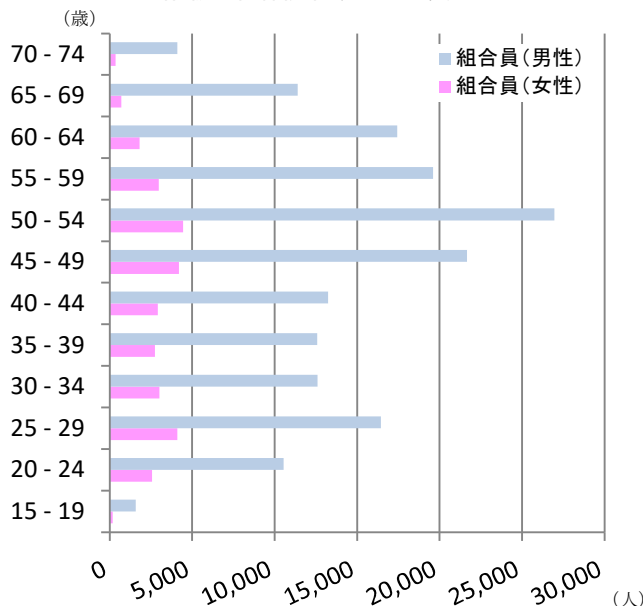
※「組合健保構成比」については「健康保険・船員保険被保険者実態調査」の調査要綱に基づき、一定の条件により抽出した調査客体から算出している。

(表-3) 加入者平均年齢（令和3年9月末現在）

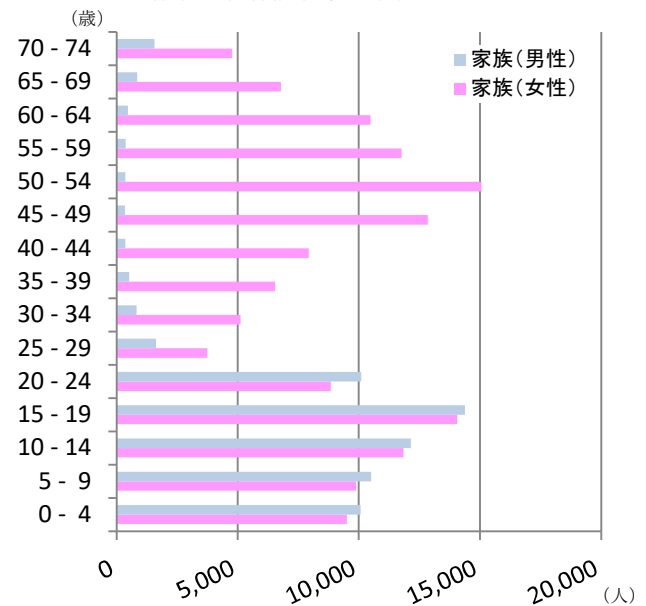
全 国 土 木							組 合 健 保							(歳)	
組 合 員				家 族			被 保 険 者				被 扶 養 者				
		男 性	女 性			男 性	女 性			男 性	女 性			男 性	女 性
37.7	45.8	46.4	42.5	29.8	16.5	36.0	35.7	43.4	44.4	41.5	25.0	12.7	31.4		

出典：厚生労働省「健康保険・船員保険被保険者実態調査」

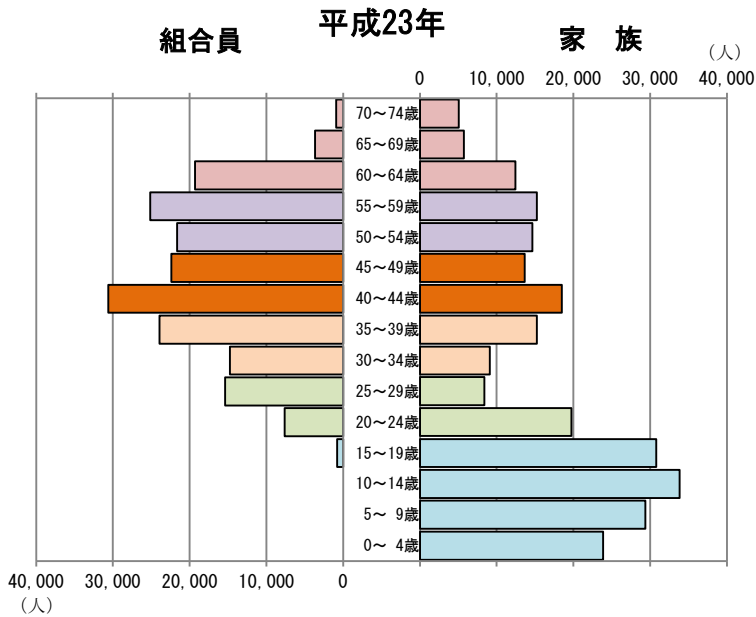
(図-2) 年齢階級別被保険者数（組合員）



(図-3) 年齢階級別被保険者数（家族）



(参考) 組合員・家族別年齢階級別被保険者数の5年ごとの推移(平成23年・平成28年・令和3年)



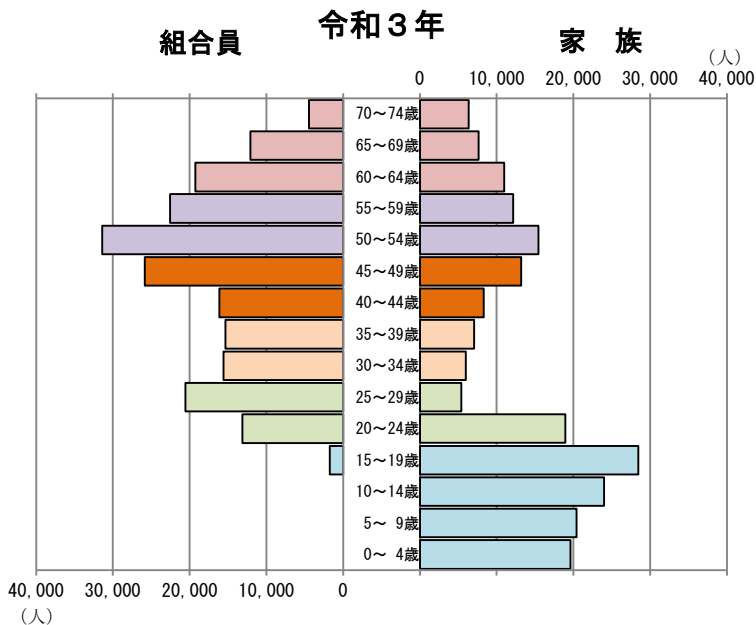
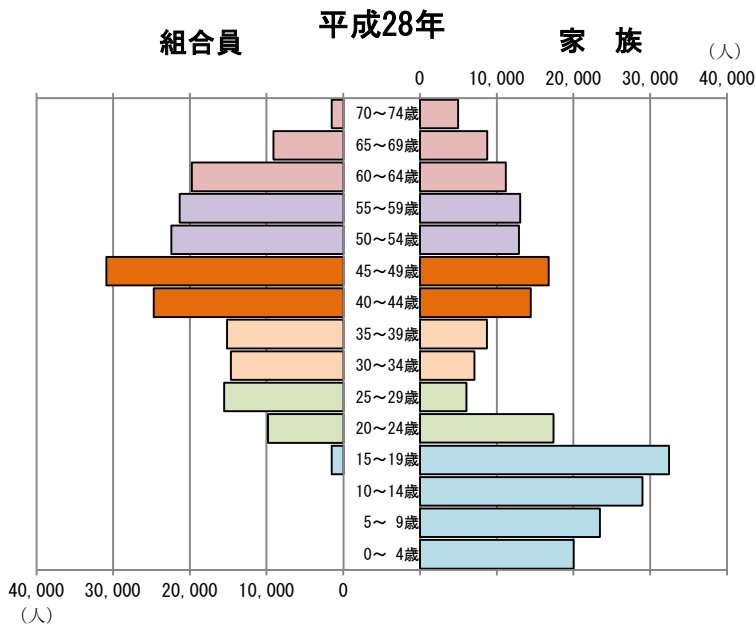
平成23年 平成28年 令和3年

団塊の世代 : 62歳~64歳 67歳~69歳 72歳~74歳
(昭和22年~24年生まれ)

団塊ジュニア : 37歳~40歳 42歳~45歳 47歳~50歳
(昭和46年~49年生まれ)

[被保険者数及びその年齢構成に影響を与えたと考えられる制度改正や主な出来事]

- ・平成18年4月
「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」の改正
→60歳から64歳に支給される「特別支給の老齢厚生年金」の定額部分の支給開始年齢引き上げに伴い、段階的に65歳までの雇用確保措置が義務付けられた。
- ・平成23年3月
東日本大震災の発生 → 復旧・復興事業
- ・平成28年10月
「公的年金制度の財政基盤及び最低保障機能の強化等のための国民年金法等の一部を改正する法律」の一部改正
→特定適用事業所に勤務する短時間労働者に対し、健康保険・厚生年金保険の適用が拡大された。
- ・平成29年4月
特定適用事業所の範囲拡大(任意適用開始)



(3) 前期高齢者の被保険者数

令和3年度における前期高齢者（65歳～74歳）の被保険者数は30,103人（組合員16,281人、家族13,822人）であり、前年度と比較すると1.94%（組合員4.07%、家族△0.46%）増加している。

平成29年度からの推移をみると、組合員については増加傾向にあり、この要因については、建設業界において東日本大震災の復興事業や国土強靱化計画事業のほか民間投資の回復等、建設需要の増加に伴う人材不足から、組合員が65歳に到達した後も引き続き加入しているためと推察される。また、平成28年10月から組合員の適用対象を短時間労働者にも拡大したことも一因と思われる。70歳以上の再掲については、組合員、家族ともに増加傾向にあり、特に組合員は3年度の増加率が10.77%と高い値を示している。

前期高齢者の加入率を組合健保と比較すると、全国土木の方が高く、その差は年々広がっている（29年度は3.08ポイント差、3年度は3.95ポイント差）。同様に、70歳以上についても全国土木の方が高く、その差が年々広がっている（29年度は0.80ポイント差、3年度は1.37ポイント差）。

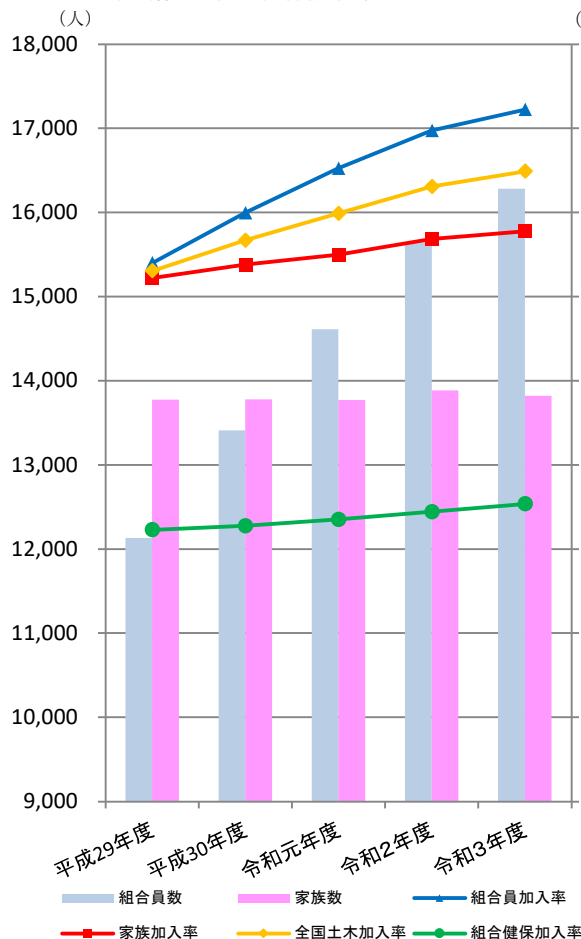
(表-4) 前期高齢者の被保険者数（年度平均）

	前期高齢者数						前期高齢者加入率						組合健保 前期高齢者加入率	
	組合員数		家族数				組合員		家族					
	人	70歳以上 再掲	人	70歳以上 再掲	人	70歳以上 再掲	%	70歳以上 再掲	%	%	70歳以上 再掲	%	%	70歳以上 再掲
平成29年度	25,904	7,136	12,131	2,052	13,773	5,084	6.31	1.74	6.40	1.08	6.22	2.30	3.23	0.94
平成30年度	27,188	8,103	13,409	2,697	13,779	5,406	6.67	1.99	7.00	1.41	6.38	2.50	3.28	1.01
令和元年度	28,381	9,076	14,611	3,339	13,770	5,737	6.99	2.23	7.52	1.72	6.50	2.71	3.35	1.10
令和2年度	29,530	9,960	15,644	3,909	13,886	6,051	7.31	2.47	7.97	1.99	6.68	2.91	3.44	1.19
令和3年度	30,103	10,554	16,281	4,330	13,822	6,224	7.49	2.63	8.22	2.19	6.78	3.05	3.54	1.26

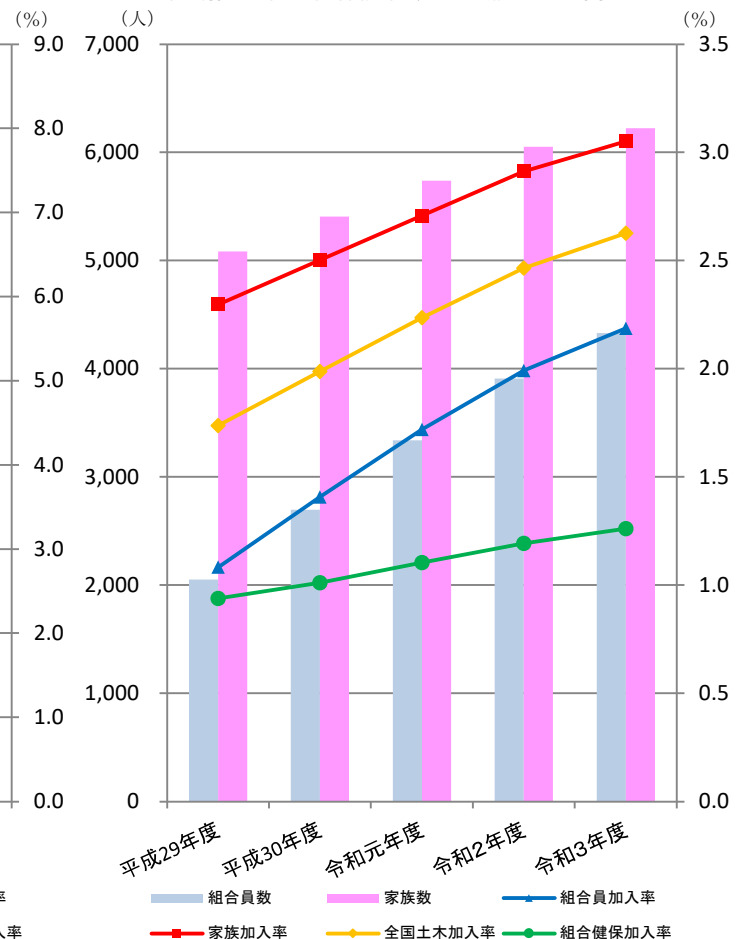
◎全保険者の平均前期高齢者加入率（令和3年度）：15.6%

出典 令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

(図-4) 前期高齢者の被保険者数



(図-5) 前期高齢者の被保険者数（70歳以上再掲）



(4) 扶養率分析

令和3年度における扶養率は1.03人となっており、前年度と比較すると2.66%減少している。

平成29年度からの推移をみると減少傾向にあり、4年間で0.14人減少した。

組合健保と比較すると、全国土木の扶養率が高く、3年度では0.30人の差となっている。この差の要因は、①扶養率が高い男性組合員（被保険者）の割合（全国土木は84.8%）が組合健保（65.9%）より18.9ポイント高いことに加え、②組合員と同一世帯であれば収入の多寡にかかわらず家族被保険者となることが影響していると推察される。（組合員（被保険者）の性別や年齢構成の差異の影響を除くと、全国土木の扶養率は0.89となり、差は0.16と元の差の0.30からおおよそ半分程度となると試算される。詳細は次ページ参照。）

年齢階級別でみると、全国土木、組合健保ともに40歳から44歳（全国土木1.59、組合健保1.13）が最も高い。

(表-5) 扶養率年度別推移 (9月末現在)

(人、%)

	全 国 土 木		組 合 健 保	
		対前年度 増減率		対前年度 増減率
平成29年度	1.17	△ 3.83	0.78	△ 2.84
平成30年度	1.12	△ 3.55	0.76	△ 2.10
令和元年度	1.09	△ 3.17	0.76	△ 0.92
令和2年度	1.05	△ 3.13	0.74	△ 2.68
令和3年度	1.03	△ 2.66	0.73	△ 1.51
組合健保との 差(率)	0.30 (41.35%)	△ 1.15 ^P		
令和3年度	0.89	男女割合、年齢構成を組合 健保と揃えた場合		
組合健保との 差(率)	0.16 (23.00%)			

出典：厚生労働省「健康保険・船員保険被保険者実態調査」

※全国土木は、後期高齢被保険者である組合員及びその家族を除いている。

(表-6) 組合員の年齢階級別、性別、扶養率 (令和3年9月末現在)

(人)

組合員 (被保険者) 年齢別	全 国 土 木		組 合 健 保	
	男 性	女 性	男 性	女 性
歳 - 歳				
15 - 19	0.17	0.17	0.01	0.01
20 - 24	0.14	0.16	0.04	0.05
25 - 29	0.31	0.37	0.15	0.23
30 - 34	0.88	1.04	0.53	0.78
35 - 39	1.42	1.66	0.95	1.36
40 - 44	1.59	1.85	1.13	1.58
45 - 49	1.53	1.76	1.10	1.54
50 - 54	1.35	1.54	0.96	1.33
55 - 59	0.99	1.12	0.73	0.99
60 - 64	0.81	0.88	0.58	0.77
65 - 69	0.83	0.86	0.62	0.77
70 - 74	0.79	0.84	0.65	0.78
計	1.03	1.17	0.73	1.04

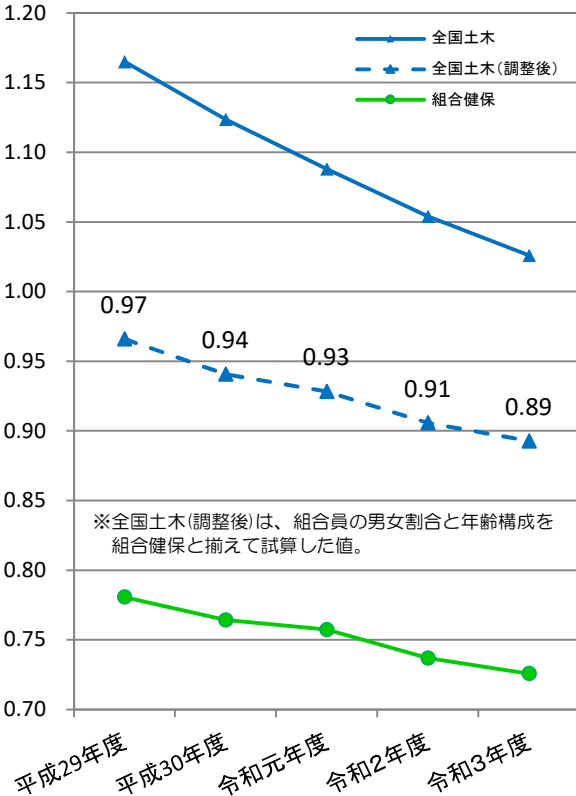
※組合員（被保険者）性別比

性 別 比	全 国 土 木		組 合 健 保	
	男 性	女 性	男 性	女 性
	84.8%	15.2%	65.9%	34.1%

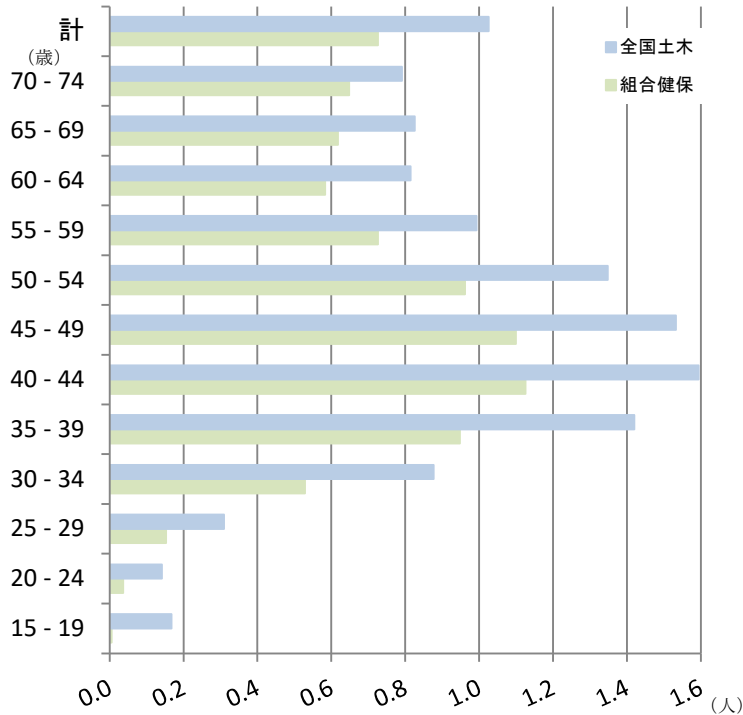
出典：厚生労働省「健康保険・船員保険被保険者実態調査」

(図-6) 扶養率年度別推移

(人)



(図-7) 年齢階級別、扶養率



（参考）扶養率の寄与度分析

全国土木と組合健保の扶養率の差の要因を、①組合員（組合健保にあっては被保険者）の男女割合の差異、②組合員（被保険者）の年齢構成の差異、③その他に分解し、それぞれの寄与度を分析したものが下の表・グラフである。

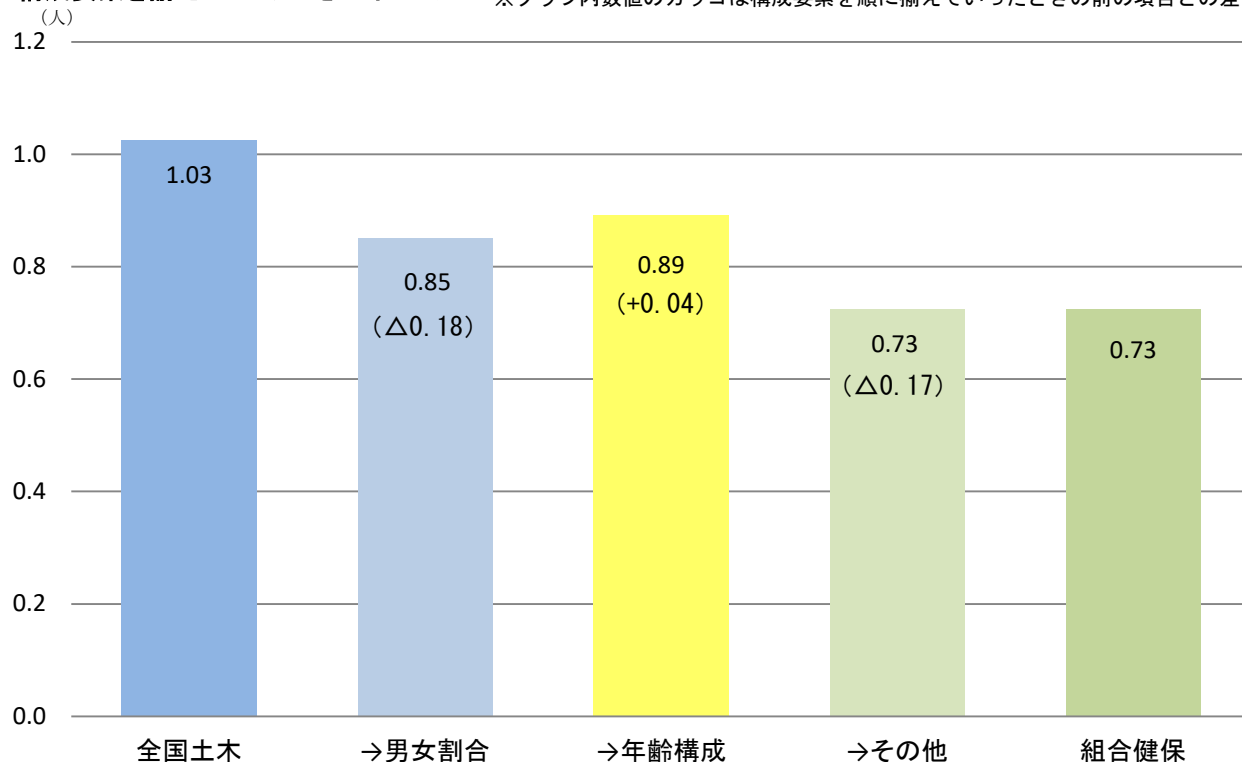
全国土木と組合健保の扶養率の差を 100%として要因別の寄与率をみると、男女割合の違いによる影響が最も大きく、58.31%と全体の6割弱を占めている。年齢構成の違いによる影響は△13.93%とマイナス要因であり、全国土木の年齢構成では組合健保よりも扶養率が下がることとなる。男女割合、年齢構成以外のその他の影響が 55.62%と全体の約半数であり、これには様々な要因があるが、主なものとして、国民健康保険と健康保険の制度の違い（扶養認定の有無）があると考えられる。

組合健保の被保険者の男女割合、年齢構成と順に揃えていった場合の全国土木の扶養率

		順次、組合健保と同じにすると			
	全国土木	→男女割合	→年齢構成	→その他	組合健保
扶養率(人)	1.03	0.85	0.89	0.73	0.73
差(人)		△ 0.18	0.04	△ 0.17	0.30
寄与率(%)		58.31	△ 13.93	55.62	100.00
寄与度(%)		24.11	△ 5.76	23.00	41.35

構成要素を揃えていったときのイメージ

※グラフ内数値のカッコは構成要素を順に揃えていったときの前の項目との差



2 医療費の状況

(1) 医療費

令和3年度における医療費は約774億円であり、前年度と比較して8.37%増加している。このうち70歳未満の組合員は約366億円、家族は約352億円であり、前年度と比較して組合員は8.76%、家族は8.46%それぞれ増加している。

平成29年度からの推移をみると、医療費は増加傾向にあるが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い医療機関への受診控えがあったものと推察され、この影響により医療費の伸びはマイナスとなった。3年度は一転して大幅に増加し、新型コロナ感染拡大前の元年度と比較しても3.62%の増加となっている。

医療費の動向を組合健保と比較すると、組合員は組合健保と同様に増加傾向にある。家族は前述（1ページ）のとおり加入者数が減少しているため、これを反映し医療費はやや減少傾向にあり、組合健保も同様の傾向となっている。

(表-7) 医療費

(億円、%)

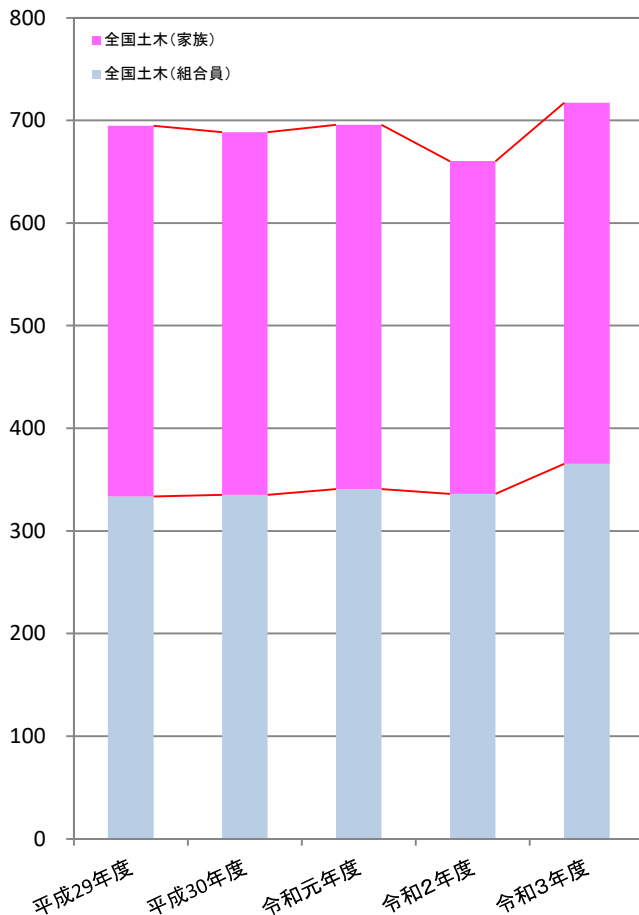
	全 国 土 木					組 合 健 保				
		組 合 員		家 族			被 保 険 者		被 扶 養 者	
		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率
平成29年度	737	2.50	334	4.51	361 △ 0.30	45,870	2.95	24,375	4.95	19,990 0.53
平成30年度	734	△ 0.34	335	0.40	353 △ 2.12	46,577	1.54	25,037	2.72	19,959 △ 0.16
令和元年度	747	1.76	341	1.72	355 0.43	46,732	0.33	25,299	1.04	19,725 △ 1.17
令和2年度	714	△ 4.39	336	△ 1.39	324 △ 8.60	44,364	△ 5.07	24,842	△ 1.81	17,782 △ 9.85
令和3年度	774	8.37 (3.62)	366	8.76 (7.25)	352 8.46 (△0.87)	48,125	8.48 (2.98)	26,769	7.76 (5.81)	19,455 9.41 (△1.37)

※令和3年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナ感染拡大前の
対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

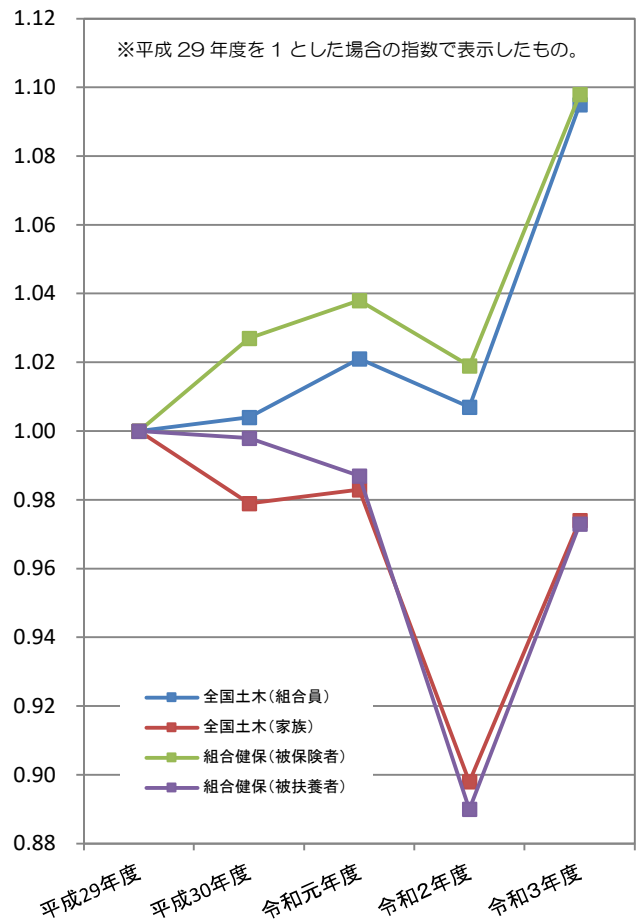
出典：令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

(図-8) 医療費

(億円)



(図-9) 医療費の動向



(2) 診療区分別の医療費

令和3年度における診療区分別の医療費は、全国土木は医科入院外が320億円（41.74%）となっており、組合健保も同様に医科入院外2兆403億円（42.82%）、医科入院1兆1,639億円（24.42%）の順となっている。

構成比を組合健保と比較すると、組合員は医科入院が2.64ポイント高く、歯科が1.40ポイント低くなっており、家族はほぼ同様の割合となっている。

70歳未満の組合員と家族の割合をみると、全国土木は元年度までは家族の割合の方が高かったが、2年度に逆転し、3年度では組合員（51.14%）が家族（48.86%）より2.28ポイント高くなっている。組合健保では被保険者（58.10%）と被扶養者（41.10%）との差が17.0ポイントと大幅に高いが、これは、前述（5ページ）のとおり組合健保は全国土木よりも扶養率が低いためである。

(表-8) 診療区分別医療費（令和3年度）

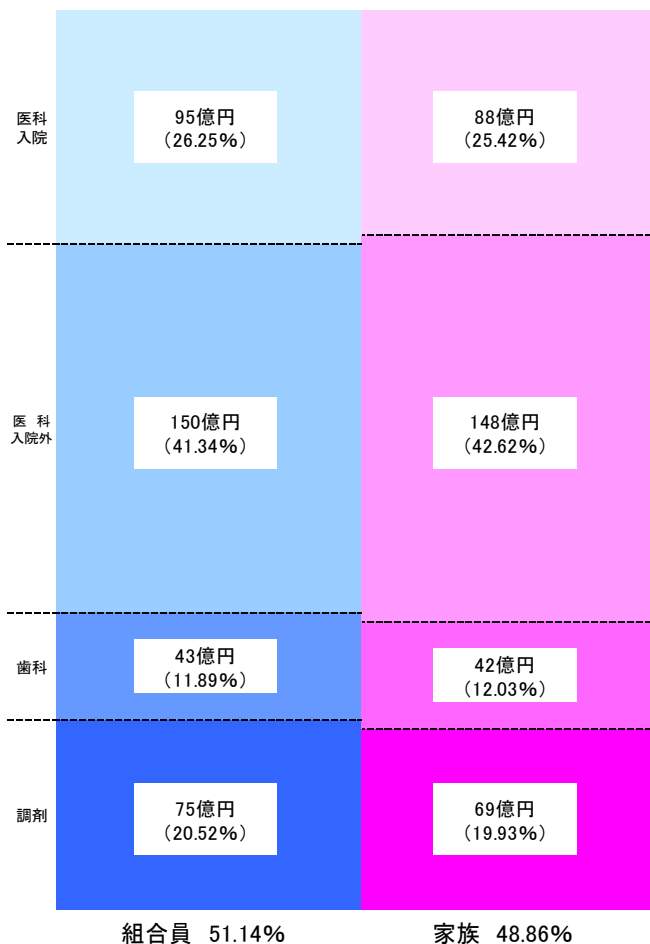
(億円、%)

	全 国 土 木						組 合 健 保						
	構成比		組 合 員		家 族		構成比		被保険者		被扶養者		
			構成比	構成比	構成比	構成比			構成比	構成比			
医 科 院	203	26.51	95	26.25	88	25.42	11,639	24.42	6,281	23.61	4,709	24.55	
医 科 入院外	320	41.74	150	41.34	148	42.62	20,403	42.82	11,350	42.67	8,318	43.37	
歯 科	89	11.59	43	11.89	42	12.03	6,008	12.61	3,535	13.29	2,344	12.22	
調 剤	154	20.16	75	20.52	69	19.93	9,602	20.15	5,433	20.43	3,810	19.86	
計	766	100.00	363	100.00	347	100.00	47,652	100.00	26,598	100.00	19,181	100.00	

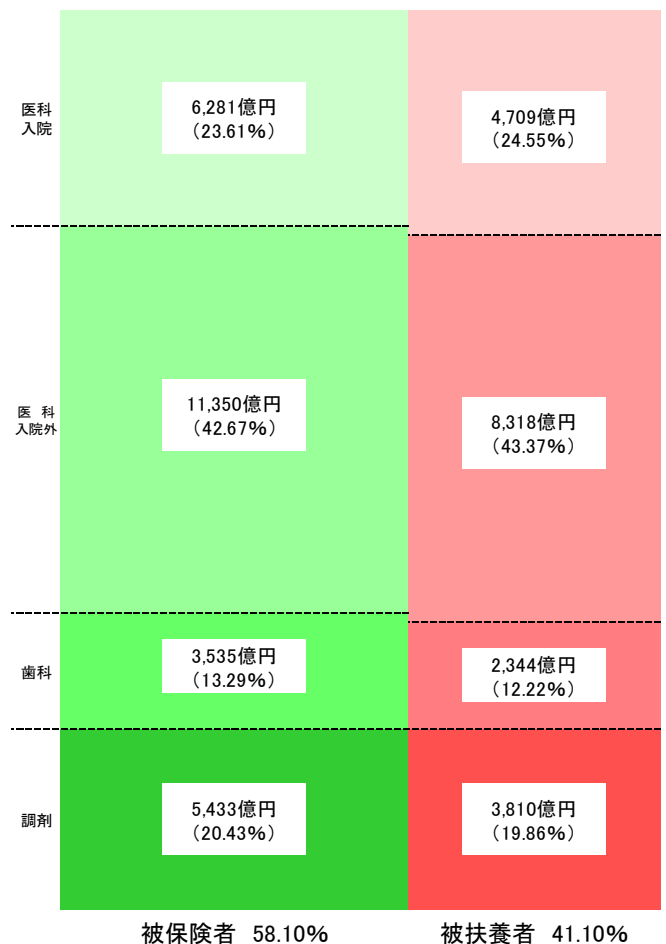
※「医科入院」及び「歯科」は入院時食事・生活療養費を除く。

出典：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

(図-10) 診療区分別医療費（全国土木）



(図-11) 診療区分別医療費（組合健保）



(3) 1人当たり医療費

令和3年度における1人当たり医療費は192,607円であり、前年度と比較して8.94%増加している。このうち70歳未満の組合員は188,784円、家族は177,949円であり、前年度と比較して組合員は8.03%、家族は10.67%それぞれ増加している。

平成29年度以降の推移をみると、多少の増減はあるものの組合員、家族ともに毎年増加傾向にあったが、2年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため元年度から減少した。3年度はその反動により大幅な増加となっている。

1人当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が高くなっており（組合員24,770円（15.10%）、家族13,666円（8.32%））、特に組合員の差が大きくなっている。

なお、全国土木の1人当たり医療費を、本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えて計算すると、組合健保との差は僅かとなり、実質的な差はそれほどない（詳細は次ページ参照）。

(表-9) 1人当たり医療費

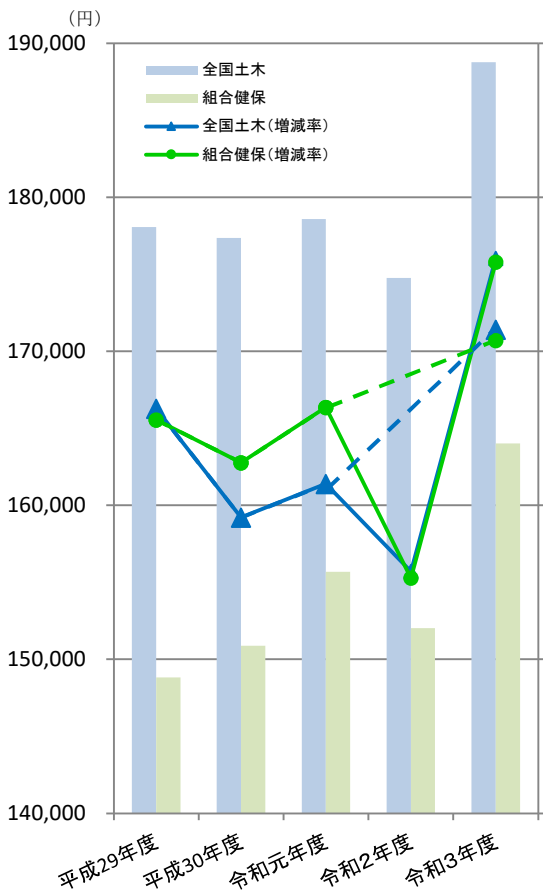
(円、%)

	全 国 土 木							組 合 健 保						
		組 合 員		家 族		年齢調整後			被保険者		被扶養者			
		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率		対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率		
平成29年度	179,311	2.88	178,061	3.14	166,985	1.87	156,976	1.17	155,507	2.30	148,812	2.78	155,682	1.84
平成30年度	180,084	0.43	177,355	△ 0.40	167,790	0.48	158,072	0.70	157,563	1.32	150,877	1.39	157,561	1.21
令和元年度	183,948	2.15	178,586	0.69	172,131	2.59	160,877	1.77	161,670	2.61	155,684	3.19	159,883	1.47
令和2年度	176,794	△ 3.89	174,755	△ 2.15	160,792	△ 6.59	153,771	△ 4.42	153,971	△ 4.76	152,010	△ 2.36	146,630	△ 8.29
令和3年度	192,607	8.94 (4.71) ^P	188,784	8.03 (5.71) ^P	177,949	10.67 (3.38) ^P	—	—	168,721	9.58 (4.36) ^P	164,014	7.90 (5.35) ^P	164,283	12.04 (2.75) ^P
組合健保との 差(率)	23,886 (14.16%)	△ 0.64 ^P	24,770 (15.10%)	0.13 ^P	13,666 (8.32%)	△ 1.37 ^P			出典：令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

※令和3年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナウイルス感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

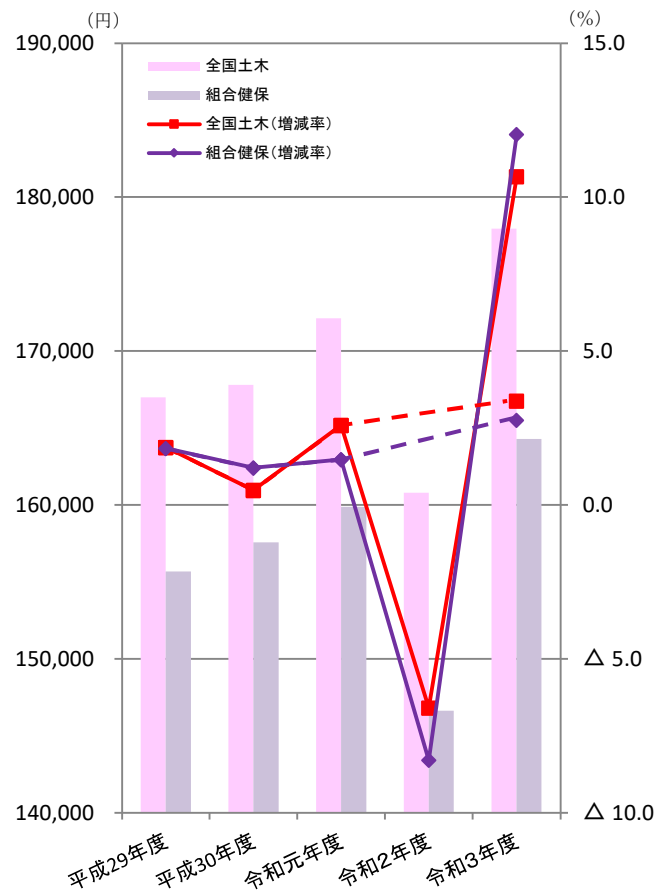
※全国土木の「年齢調整後」は、本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えて計算した値である。

(図-12) 1人当たり医療費（組合員）



※破線は対令和元年度の増減率である。

(図-13) 1人当たり医療費（家族）



(4) 年齢階級別 1 人当たり医療費

令和 2 年度における年齢階級別 1 人当たり医療費は、0 歳から 4 歳の乳幼児層及び 50 歳以降の中高齢層で高くなる傾向となっており、特に前期高齢者納付金に影響する前期高齢者（65 歳～74 歳）が高い。

組合健保と比較すると、55 歳未満の年齢階級では全国土木の方が低いか概ね同程度だが、55 歳以降は全国土木の方が高く、特に 70 歳から 74 歳の年齢階級では差が 88,827 円（17.40%）と高い。加えて、この年齢階級の加入者構成比は全国土木の方が大きいこと全体で 1 人当たり医療費を押し上げ、全国土木（176,794 円）が組合健保（153,971 円）より 22,823 円（14.82%）高くなっている。

全国土木の本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えて計算すると、153,771 円となる。加入者構成の違いによる差が 23,023 円（14.95%）であり、これを調整すると組合健保との差は△200 円（△0.13%）とほぼ同水準となる。その内訳を診療区分別にみると、医科入院の差が最も大きい（15、29、35、41 ページ参照）。

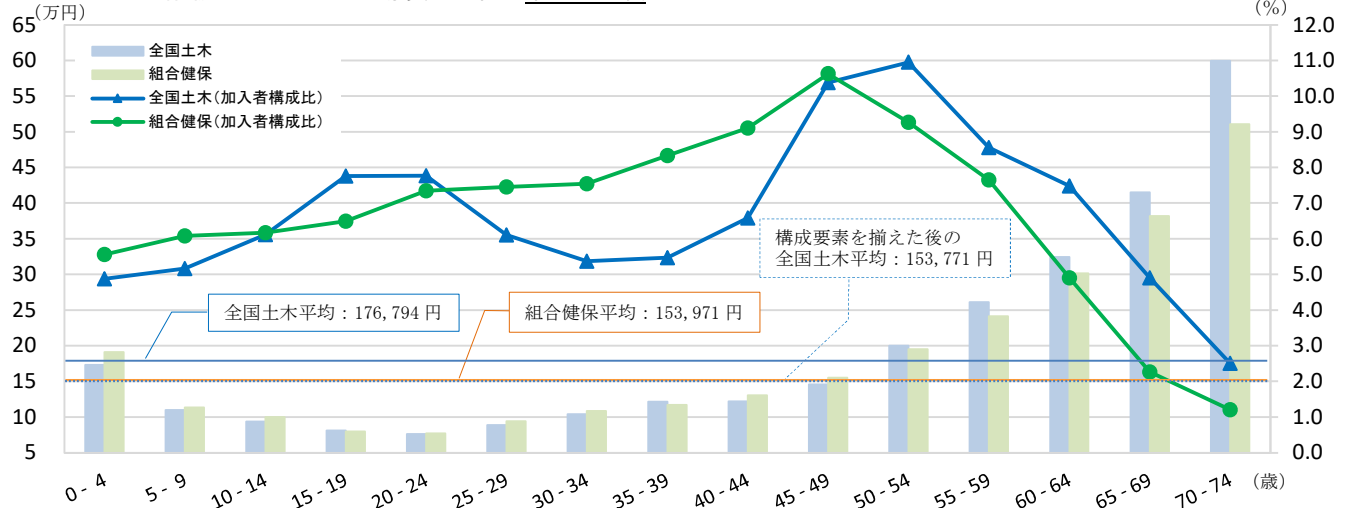
全国土木と組合健保の 1 人当たり医療費の差を 100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が 95.33%と高い割合を占めており、特に「本人：男性」の年齢構成の違いによる影響が 46.53%と大きい。また、本人割合は△3.42%、男女割合は 8.96%の影響であり、本人割合、男女割合、年齢構成以外のその他医療費等（医療費水準等）の影響は△0.88%である。

(表-10) 年齢階級別 1 人当たり医療費：全体（令和 2 年度）

年齢階級	1 人当たり医療費			加入者構成比		
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）	全国土木	組合健保	組合健保との差
0 - 4	173,019	190,938	△ 17,919 (△9.38%)	4.87	5.56	△ 0.69
5 - 9	109,832	113,563	△ 3,731 (△3.29%)	5.17	6.08	△ 0.91
10 - 14	93,841	99,735	△ 5,894 (△5.91%)	6.12	6.17	△ 0.05
15 - 19	81,093	79,796	1,297 (1.63%)	7.76	6.49	1.27
20 - 24	76,198	77,101	△ 903 (△1.17%)	7.77	7.34	0.43
25 - 29	88,542	93,894	△ 5,352 (△5.70%)	6.10	7.45	△ 1.34
30 - 34	103,973	108,650	△ 4,677 (△4.30%)	5.37	7.54	△ 2.17
35 - 39	121,508	116,936	4,572 (3.91%)	5.47	8.33	△ 2.86
40 - 44	121,880	130,247	△ 8,367 (△6.42%)	6.58	9.11	△ 2.53
45 - 49	145,834	155,175	△ 9,341 (△6.02%)	10.38	10.63	△ 0.25
50 - 54	200,072	195,093	4,979 (2.55%)	10.95	9.27	1.69
55 - 59	260,943	241,481	19,462 (8.06%)	8.55	7.65	0.90
60 - 64	324,580	301,659	22,921 (7.60%)	7.48	4.91	2.58
65 - 69	415,229	381,780	33,449 (8.76%)	4.91	2.27	2.64
70 - 74	599,377	510,550	88,827 (17.40%)	2.51	1.21	1.30
全 体	176,794	153,971	22,823 (14.82%)	100.00	100.00	-
全 体 (調整後)	153,771	153,971	△ 200 (△0.13%)	本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えた場合		

※「1 人当たり医療費」は、基礎資料である年齢階級別医療費に訪問看護療養費が含まれていないことから、表-9「1 人当たり医療費」に合わせるため金額を補正し、算出している。

(図-14) 年齢階級別 1 人当たり医療費：全体（令和 2 年度）



(参考) 組合健保の本人割合、男女割合、年齢構成と順に揃えていった場合の全国土木の1人当たり医療費

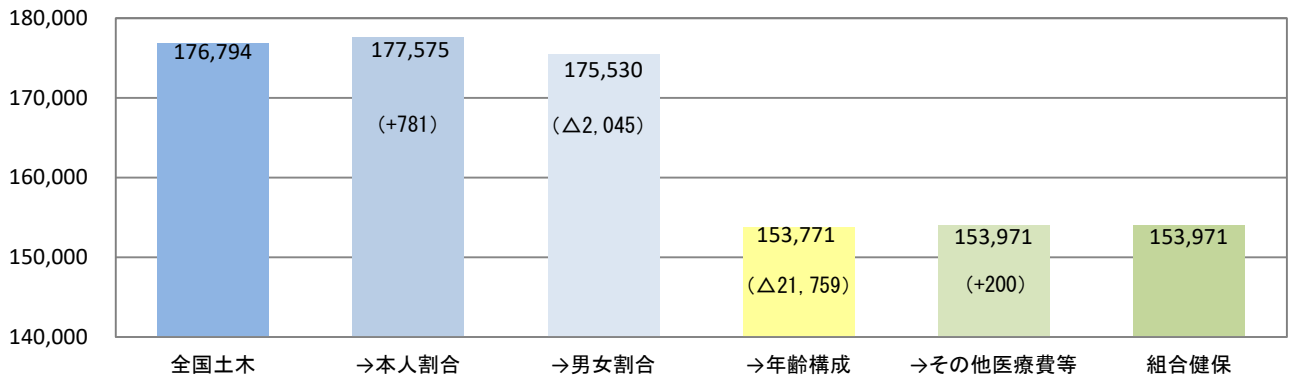
	全国土木	順次、組合健保と同じにすると				組合健保
		→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他医療費等	
加入者1人当たり医療費(円)	176,794	177,575	175,530	153,771	153,971	153,971
差(円)		781	△ 2,045	△ 21,759	200	△ 22,823
寄与率(%)		△ 3.42	8.96	95.33	△ 0.88	100.00
寄与度(%)		△ 0.51	1.33	14.13	△ 0.13	14.82

	年齢構成内訳			
	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者1人当たり医療費(円)	164,911	163,248	159,856	153,771
差(円)	△ 10,619	△ 1,663	△ 3,392	△ 6,085
寄与率(%)	46.53	7.29	14.86	26.66
寄与度(%)	6.90	1.08	2.20	3.95

構成要素を揃えていったときのイメージ

(円)

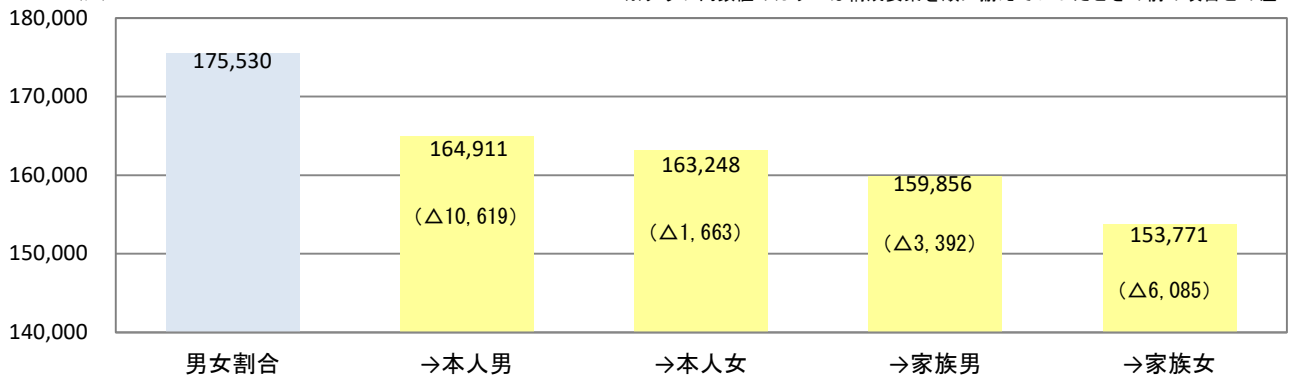
※グラフ内数値のカッコは構成要素を順に揃えていったときの前の項目との差



年齢構成をそろえたときの内訳

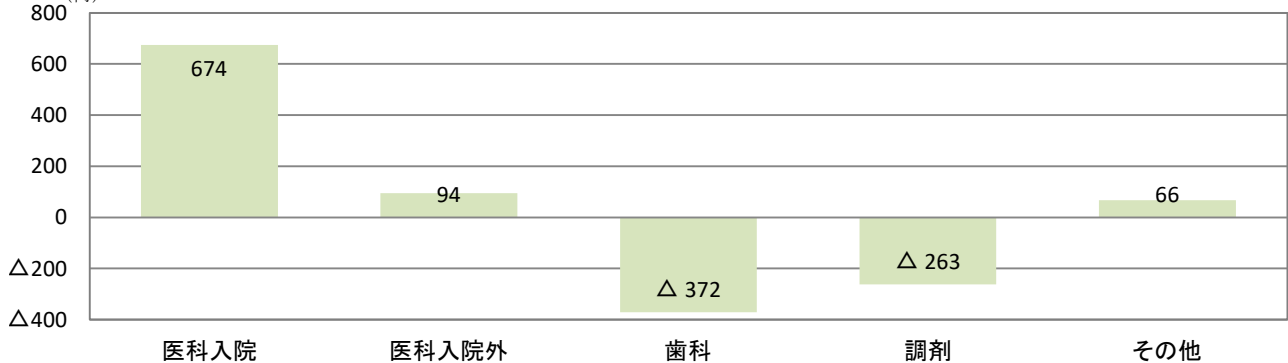
(円)

※グラフ内数値のカッコは構成要素を順に揃えていったときの前の項目との差



その他医療費等(200円)の内訳

(円)



(5) 診療区分別 1 人当たり医療費

令和 3 年度の診療区分別の 1 人当たり医療費の詳細については後述(医科入院 14 ページ、医科入院外 28 ページ、歯科 34 ページ、調剤 40 ページ) のとおりであるが、各診療区分の 1 人当たり医療費を一覧にして平成 29 年度からの推移をみると全体的に増加傾向にあり、2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため歯科を除き元年度から減少したが、3 年度はその反動のため大きく増加し、感染拡大前の元年度を上回る水準となっている。

このうち調剤については、薬価のマイナス改定とその反動の影響も受け増減を繰り返している。

1 人当たり医療費を組合健保と比較すると、いずれの診療区分についても全国土木が高く、特に医科入院で差が大きくなっているが、これは加入者構成の違いによるためであり、実質的な差はそれほどない。

(表-11) 診療区分別 1 人当たり医療費

(円、%)

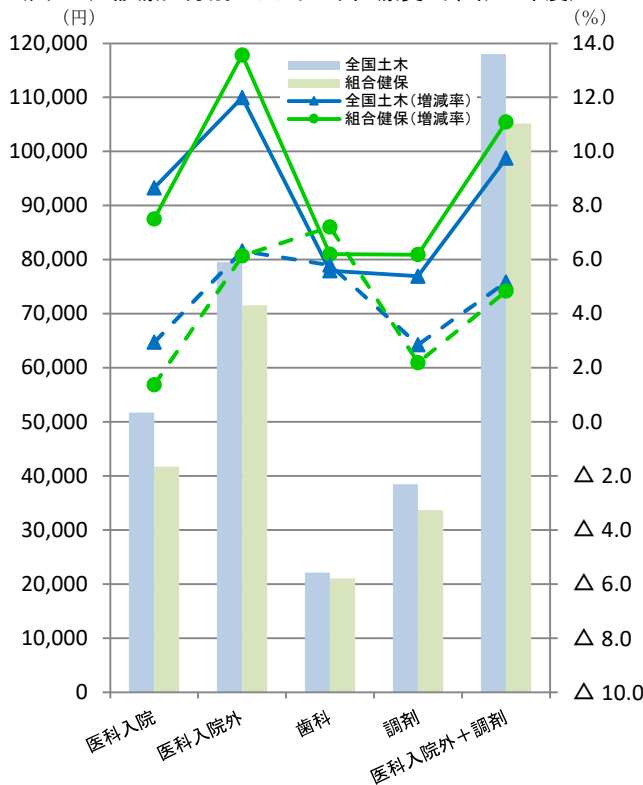
全国土木	医 科 入 院	対前年度		医 科 入院外	対前年度		歯 科	対前年度		調 剤	対前年度		(医科入院外 + 調剤)		
		増減額	増減率		増減額	増減率		増減額	増減率		増減額	増減率	増減額	増減率	
平成29年度	50,001	1,290	2.65	72,744	2,024	2.86	20,000	471	2.41	36,061	1,162	3.33	108,805	3,186	3.02
平成30年度	50,146	145	0.29	73,458	714	0.98	20,360	360	1.80	35,614	△ 447	△ 1.24	109,072	267	0.25
令和元年度	50,264	118	0.24	74,822	1,364	1.86	20,882	522	2.57	37,369	1,755	4.93	112,192	3,120	2.86
令和 2 年度	47,622	△ 2,642	△ 5.26	71,035	△ 3,787	△ 5.06	20,923	41	0.20	36,472	△ 897	△ 2.40	107,506	△ 4,686	△ 4.18
令和 3 年度	51,743	4,121 (1,479)	8.65 (2.94)	79,554	8,519 (4,732)	11.99 (6.32)	22,093	1,170 (1,211)	5.59 (5.80)	38,438	1,966 (1,069)	5.39 (2.86)	117,991	10,485 (5,799)	9.75 (5.17)

組合健保	医 科 入 院	対前年度		医 科 入院外	対前年度		歯 科	対前年度		調 剤	対前年度		(医科入院外 + 調剤)		
		増減額	増減率		増減額	増減率		増減額	増減率		増減額	増減率	増減額	増減率	
平成29年度	39,404	409	1.05	64,952	1,317	2.07	18,848	430	2.33	31,923	1,291	4.22	96,875	2,608	2.77
平成30年度	40,380	976	2.48	65,959	1,007	1.55	19,213	365	1.94	31,560	△ 363	△ 1.14	97,519	644	0.67
令和元年度	41,164	784	1.94	67,391	1,432	2.17	19,654	441	2.29	32,941	1,381	4.38	100,333	2,814	2.89
令和 2 年度	38,813	△ 2,351	△ 5.71	62,985	△ 4,406	△ 6.54	19,841	187	0.95	31,702	△ 1,239	△ 3.76	94,687	△ 5,646	△ 5.63
令和 3 年度	41,728	2,915 (564)	7.51 (1.37)	71,530	8,545 (4,139)	13.57 (6.14)	21,071	1,230 (1,417)	6.20 (7.21)	33,664	1,962 (723)	6.19 (2.19)	105,193	10,506 (4,860)	11.10 (4.84)

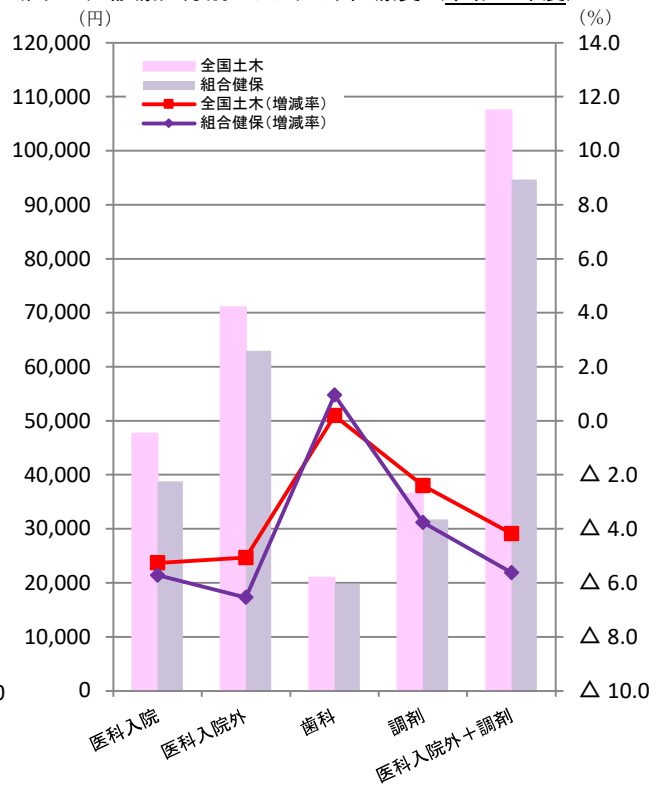
組合健保との 差 (率)	医 科 入 院	対前年度	医 科 入院外	対前年度	歯 科	対前年度	調 剤	対前年度	(医科入院外 + 調剤)	対前年度
		増減率		増減率		増減率		増減率		増減率
令和 3 年度	10,015 (24.00%)	1.14 ^P	8,024 (11.22%)	△ 1.58 ^P	1,022 (4.85%)	△ 0.61 ^P	4,774 (14.18%)	△ 0.80 ^P	12,798 (12.17%)	△ 1.35 ^P

※令和 3 年度の対前年度増減額及び増減率の括弧内は、新型コロナウイルス感染拡大前の対令和元年度の増減額及び増減率を参考に掲載している。

(図-15) 診療区分別 1 人当たり医療費 (令和 3 年度)



(図-16) 診療区分別 1 人当たり医療費 (令和 2 年度)



※破線は対令和元年度の増減率である。

(6) 診療区分別各指標一覧

令和2年度における診療区分別の各指標の詳細については後述のとおりであるが、一覧にして組合健保と比較すると、医科入院1人当たり医療費を除き全国土木の方が高くなっている。特に、医科入院1人当たり医療費及び医科入院1人当たり日数で組合健保との差が大きくなっており、率にしてそれぞれ22.52%、26.67%と大幅に高くなっている。

しかしながら、医療費は年齢によって大きく影響されるため(10ページ参照)、実質的な差をみるためには、年齢構成の違いを除いて比較する必要がある。

全国土木の医療費の各指標について、構成要素を組合健保と揃えて比較すると、医科入院1人当たり医療費では1.78%、医科入院1人当たり日数では1.86%それぞれ組合健保より低くなる。その他の指標についても組合健保と概ね同程度の値となり、全国土木と組合健保の医療費に実質的な差はあまりない。

(表-12) 診療区分別各指標一覧 (令和2年度)

【医科入院】

指 標	全国土木			組合健保	全国土木実績値の 組合健保との差 (率)	全国土木調整後の 組合健保との差 (率)	掲載頁
	実績値		調整後				
入院1人当たり医療費	46,445 円	⇒	37,235 円	37,909 円	8,536 円 (22.52%)	△ 674 円 (△1.78%)	P15
入院1人当たり日数	0.78 日		0.60 日	0.62 日	0.16 日 (26.67%)	△ 0.02 日 (△1.86%)	P17
入院1日当たり医療費	59,519 円		61,650 円	61,538 円	△ 2,019 円 (△3.28%)	112 円 (0.18%)	P19
100人当たり新規入院件数	6.36 件		5.76 件	5.46 件	0.90 件 (16.36%)	0.30 件 (5.38%)	P22
推計平均在院日数	12.28 日		10.36 日	11.28 日	1.00 日 (8.86%)	△ 0.92 日 (△8.14%)	P24
推計1入院当たり医療費	730,663 円		631,706 円	693,959 円	36,704 円 (5.29%)	△ 62,253 円 (△8.97%)	P26

【医科入院外】

指 標	全国土木			組合健保	全国土木実績値の 組合健保との差 (率)	全国土木調整後の 組合健保との差 (率)	掲載頁
	実績値		調整後				
入院外1人当たり医療費	71,035 円	⇒	62,891 円	62,985 円	8,050 円 (12.78%)	△ 94 円 (△0.15%)	P29
入院外1人当たり日数	7.81 日		7.30 日	7.36 日	0.45 日 (6.11%)	△ 0.06 日 (△0.82%)	P31
入院外1日当たり医療費	9,095 円		8,625 円	8,556 円	539 円 (6.29%)	69 円 (0.81%)	P33

【歯科】

指 標	全国土木			組合健保	全国土木実績値の 組合健保との差 (率)	全国土木調整後の 組合健保との差 (率)	掲載頁
	実績値		調整後				
歯科1人当たり医療費	20,915 円	⇒	20,206 円	19,834 円	1,081 円 (5.45%)	372 円 (1.87%)	P35
歯科1人当たり日数	2.70 日		2.61 日	2.60 日	0.10 日 (3.50%)	0.01 日 (0.35%)	P37
歯科1日当たり医療費	7,761 円		7,735 円	7,617 円	144 円 (1.88%)	118 円 (1.55%)	P39

【調剤】

指 標	全国土木			組合健保	全国土木実績値の 組合健保との差 (率)	全国土木調整後の 組合健保との差 (率)	掲載頁
	実績値		調整後				
調剤1人当たり医療費	36,472 円	⇒	31,966 円	31,702 円	4,770 円 (15.04%)	264 円 (0.83%)	P41
調剤1人当たり回数	4.22 回		3.95 回	3.96 回	0.26 回 (6.50%)	△ 0.01 回 (△0.21%)	P43
調剤1回当たり医療費	8,642 円		8,066 円	8,000 円	642 円 (8.02%)	66 円 (0.82%)	P45

(7) 医科入院

①入院 1 人当たり医療費

令和 3 年度における入院 1 人当たり医療費は51,743円であり、前年度と比較して8.65%増加している。このうち70歳未満の組合員は50,224円、家族は45,811円であり、前年度と比較して組合員は11.37%、家族は7.25%それぞれ増加している。

平成29年度からの推移をみると、組合員は減少傾向にあり、家族は大きな変動なく推移していたが、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり両者ともに減少した。3 年度はその反動により増加しており、特に組合員の増加率が高い。

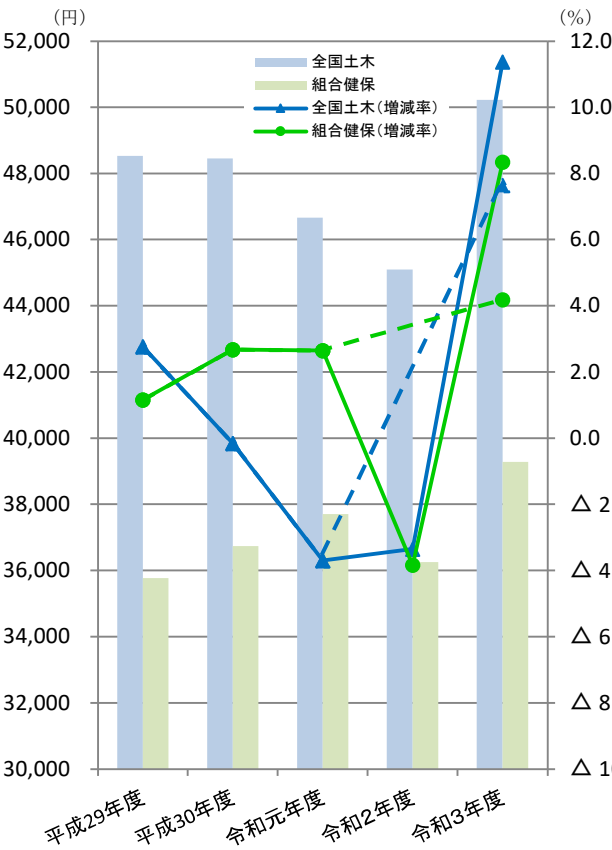
入院 1 人当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が高くなっている（組合員10,944円（27.86%）、家族5,074円（12.46%））。これは、後述のとおり両者ともに100人当たり新規入院件数が組合健保より多いためであるが、加えて、組合員については 1 日当たり医療費が高いこと、家族については推計平均在院日数が長いことが影響している。さらに、全国土木では組合員の方が家族より高いが、組合健保では被保険者の方が被扶養者より低くなっており、傾向に違いがみられる。

(表-13) 入院 1 人当たり医療費

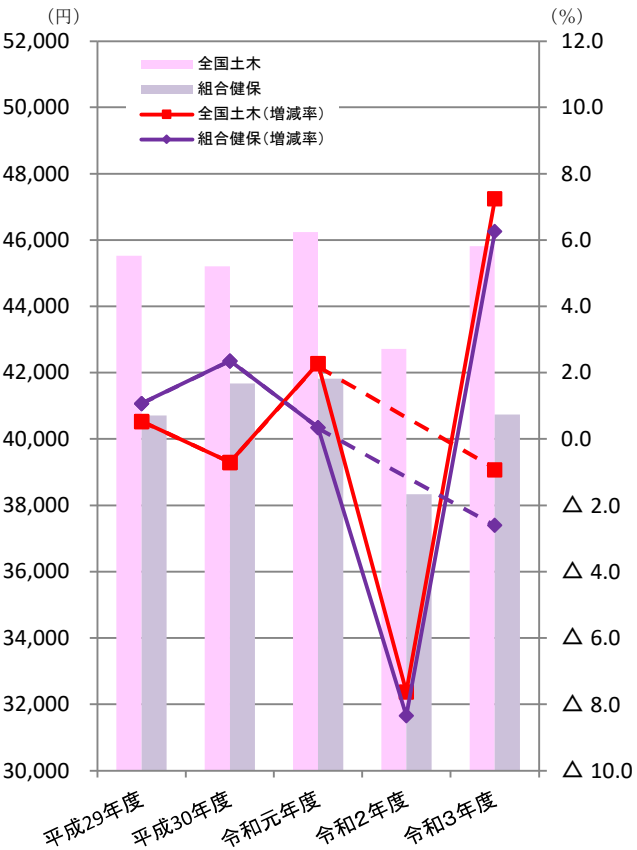
	全 国 土 木						組 合 健 保					
		組 合 員		家 族				被 保 険 者		被 扶 養 者		
		対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率			対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	
平成29年度	50,001	2.65	48,528	2.76	45,523	0.54	39,404	1.05	35,773	1.15	40,712	1.08
平成30年度	50,146	0.29	48,453	△ 0.15	45,206	△ 0.70	40,380	2.48	36,732	2.68	41,674	2.36
令和元年度	50,264	0.24	46,661	△ 3.70	46,237	2.28	41,164	1.94	37,703	2.64	41,820	0.35
令和 2 年度	47,622	△ 5.26	45,096	△ 3.35	42,714	△ 7.62	38,813	△ 5.71	36,256	△ 3.84	38,333	△ 8.34
令和 3 年度	51,743	8.65 (2.94)	50,224	11.37 (7.64)	45,811	7.25 (△0.92)	41,728	7.51 (1.37)	39,280	8.34 (4.18)	40,737	6.27 (△2.59)
組合健保との 差 (率)	10,015 (24.00%)	1.14 ^P	10,944 (27.86%)	3.03 ^P	5,074 (12.46%)	0.98 ^P	出典：令和 2 年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 令和 3 年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

※令和 3 年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナ感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

(図-17) 入院 1 人当たり医療費（組合員）



(図-18) 入院 1 人当たり医療費（家族）



※破線は対令和元年度の増減率である。

令和2年度における医科入院の年齢階級別1人当たり医療費を組合健保と比較すると、15歳未満の年齢階級を除き、概ね同程度か全国土木の方が高い傾向にあり、全体では、全国土木（46,445円）が組合健保（37,909円）より8,536円（22.52%）高い。

全国土木の入院1人当たり医療費を、本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えて計算すると、37,235円となる。加入者構成の違いによる差が9,210円（24.29%）であり、これを調整した後は組合健保より674円（1.78%）低くなる。

全国土木と組合健保の1人当たり医療費の差を100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が87.12%と大きい。

このことから、全国土木は主に医療費の高い高齢者の人数割合が多いために1人当たり医療費が高くなっているが、医療費水準は約2%低いと言える。

（表-14）年齢階級別1人当たり医療費：医科入院（令和2年度）

	1人当たり医療費			順次、組合健保と同じにすると					
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他医療費等	組合健保
加入者1人当たり医療費（円）	46,445	37,909		46,445	46,478	44,671	37,235	37,909	37,909
差（円）					34	△ 1,808	△ 7,436	674	△ 8,535
寄与率（％）					△ 0.39	21.18	87.12	△ 7.90	100.00
寄与度（％）					△ 0.09	4.77	19.61	△ 1.78	22.52

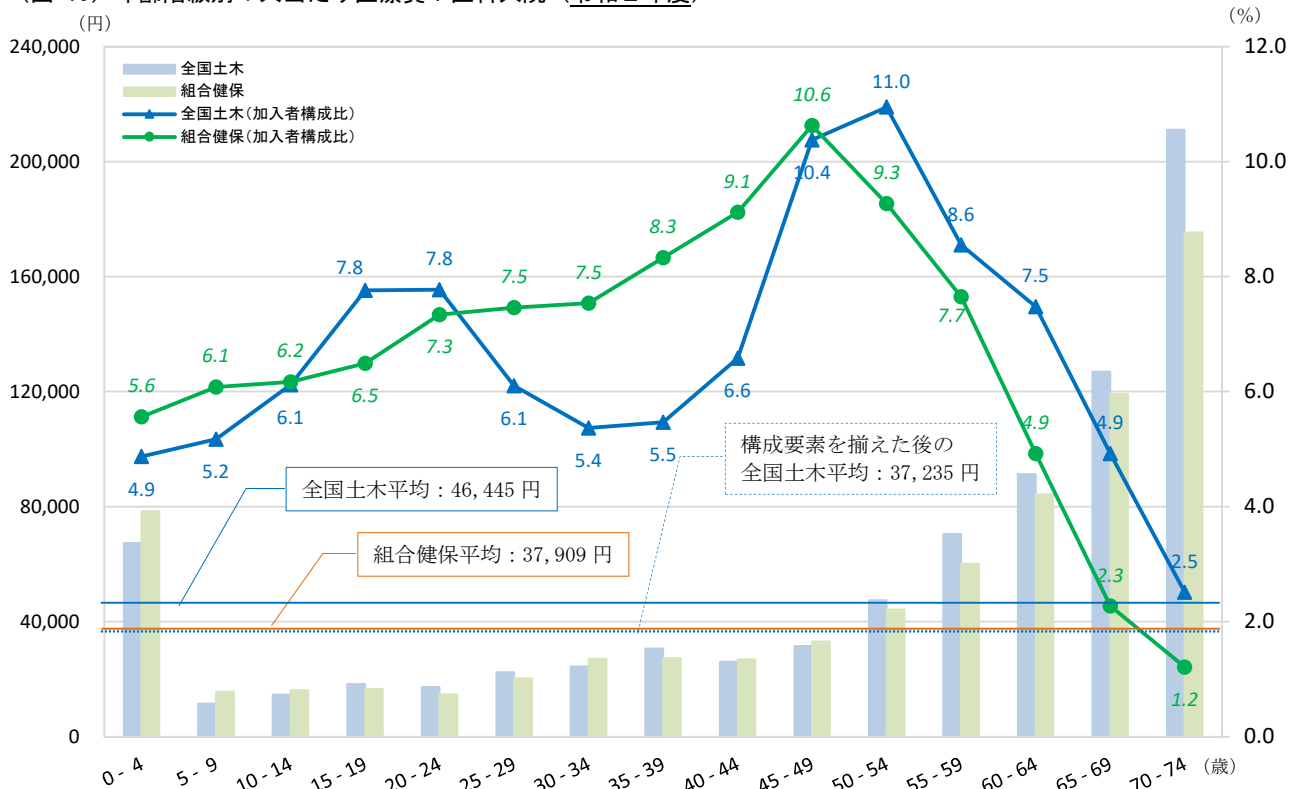
年齢構成内訳

	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者1人当たり医療費（円）	41,087	40,770	39,013	37,235
差（円）	△ 3,583	△ 318	△ 1,757	△ 1,778
寄与率（％）	41.98	3.72	20.58	20.83
寄与度（％）	9.45	0.84	4.63	4.69

	1人当たり医療費		
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）
歳 歳	円	円	円
0 - 4	67,408	78,448	△ 11,040 （△14.07%）
5 - 9	11,498	15,582	△ 4,084 （△26.21%）
10 - 14	14,551	16,107	△ 1,556 （△9.66%）
15 - 19	18,221	16,628	1,593 （9.58%）
20 - 24	17,234	14,763	2,471 （16.74%）
25 - 29	22,365	20,292	2,073 （10.21%）
30 - 34	24,367	27,073	△ 2,706 （△10.00%）
35 - 39	30,607	27,247	3,360 （12.33%）
40 - 44	26,061	26,889	△ 828 （△3.08%）
45 - 49	31,578	33,066	△ 1,488 （△4.50%）
50 - 54	47,459	44,223	3,236 （7.32%）
55 - 59	70,452	60,179	10,273 （17.07%）
60 - 64	91,291	84,337	6,954 （8.25%）
65 - 69	126,945	119,140	7,805 （6.55%）
70 - 74	211,073	175,361	35,712 （20.36%）
全 体	46,445	37,909	8,536 （22.52%）
全 体 （調整後）	37,235	37,909	△ 674 （△1.78%）

※組合健保の入院時食事・生活療養費を医科歯科別、本人家族別、男女別、年齢階級別に区分できないため、入院時食事・生活療養費を除いている。

（図-19）年齢階級別1人当たり医療費：医科入院（令和2年度）



②入院 1 人当たり日数

令和 3 年度における入院 1 人当たり日数は 0.80 日であり、前年度と比較して 2.58%増加している。このうち 70 歳未満の組合員は 0.66 日、家族は 0.81 日であり、前年度と比較して組合員は 6.15%、家族は 2.23%それぞれ増加している。

平成 29 年度からの推移をみると、組合員、家族ともに減少傾向にあり、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため特に大きく減少した。3 年度はその反動のため、前年度よりやや増加している。

入院 1 人当たり日数を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が多くなっている（組合員 0.12 日（21.42%）、家族 0.14 日（20.32%））。これは、入院 1 人当たり日数は 1 人当たり新規入院件数と推計平均在院日数の積であり、後述のとおり組合員については 1 人当たり新規入院件数が、家族については両方が組合健保より大幅に多いためである。

（表-15）入院 1 人当たり日数

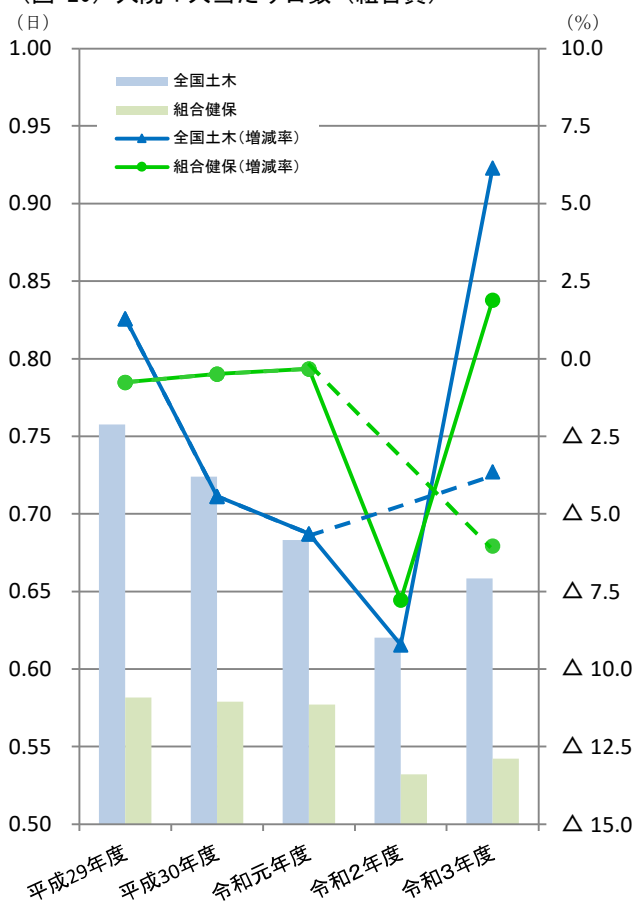
（日、%）

	全 国 土 木						組 合 健 保					
	対前年度 増 減 率		組 合 員		家 族		対前年度 増 減 率		被 保 険 者		被 扶 養 者	
平成29年度	0.92	1.76	0.76	1.29	0.94	1.05	0.70	△ 1.40	0.58	△ 0.75	0.79	△ 1.29
平成30年度	0.88	△ 4.08	0.72	△ 4.43	0.91	△ 3.34	0.69	△ 1.19	0.58	△ 0.49	0.78	△ 1.64
令和元年度	0.86	△ 2.38	0.68	△ 5.64	0.89	△ 1.53	0.68	△ 1.17	0.58	△ 0.32	0.76	△ 2.60
令和 2 年度	0.78	△ 9.28	0.62	△ 9.21	0.79	△ 11.04	0.62	△ 9.94	0.53	△ 7.77	0.66	△ 12.39
令和 3 年度	0.80	2.58 (△6.94)	0.66	6.15 (△3.63)	0.81	2.23 (△9.06)	0.63	1.99 (△8.14)	0.54	1.89 (△6.02)	0.67	1.97 (△10.66)
組合健保との 差（率）	0.17 (27.40%)	0.59 ^P	0.12 (21.42%)	4.26 ^P	0.14 (20.32%)	0.26 ^P	出典：令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

※令和 3 年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナウイルス感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

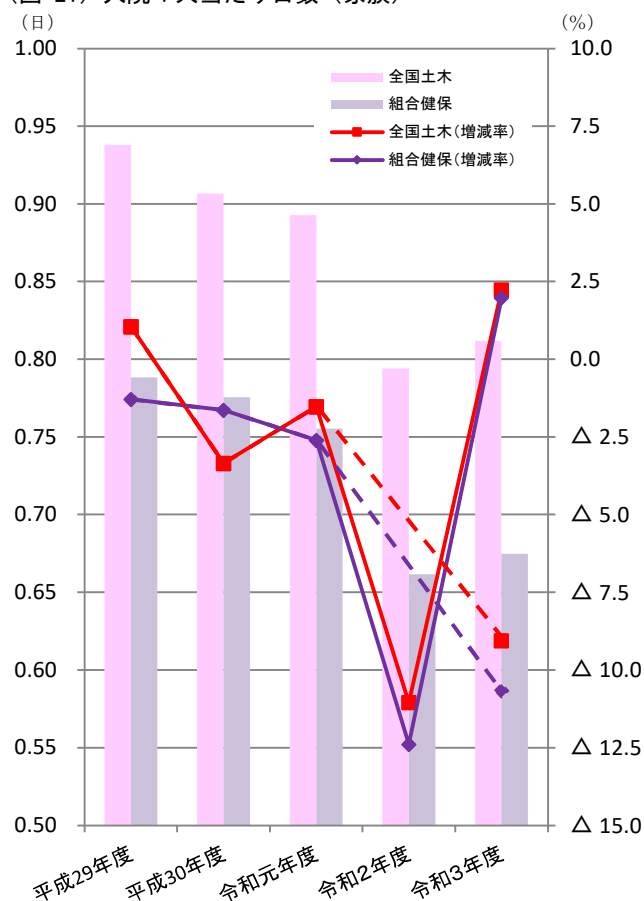
※入院 1 人当たり日数は、1 人当たり新規入院件数に推計平均在院日数を乗じて得た値である。

（図-20）入院 1 人当たり日数（組合員）



※破線は対令和元年度の増減率である。

（図-21）入院 1 人当たり日数（家族）



令和2年度の年齢階級別入院1人当たり日数を組合健保と比較すると、15歳以降の年齢階級で全国土木が多くなっており、全体では0.78日と組合健保（0.62日）より0.16日（26.67%）多い。

加入者構成を組合健保と揃えて計算すると、0.60日となる。加入者構成の違いによる差が0.18日（28.65%）であり、これを調整した後は組合健保より△0.02日（△1.86%）と僅かだが少なくなる。

全国土木と組合健保の1人当たり日数の差を100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響は83.60%である。

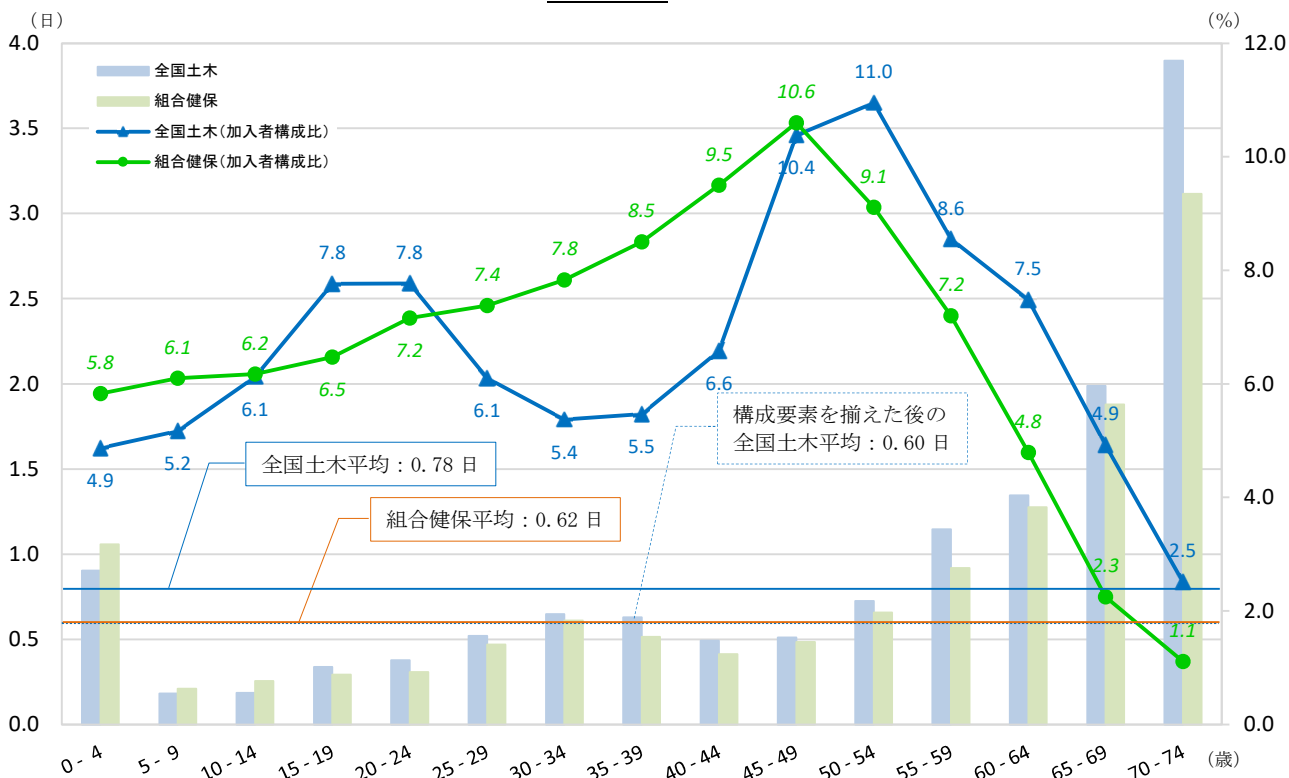
全国土木は、日数の多い50歳以上の人数割合が多いために全体の1人当たり日数が多くなっているが、日数水準は組合健保より約2%低いと言える。

（表-16）年齢階級別1人当たり日数：医科入院（令和2年度）

年齢階級	1人当たり日数			順次、組合健保と同じにすると					
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他日数等	組合健保
0 - 4	0.90	1.06	△ 0.16 (△14.61%)	0.78	0.76	0.74	0.60	0.61	0.61
5 - 9	0.18	0.21	△ 0.03 (△13.86%)		△ 0.02	△ 0.02	△ 0.14	0.01	△ 0.17
10 - 14	0.19	0.25	△ 0.06 (△26.91%)						
15 - 19	0.34	0.29	0.05 (15.87%)		11.99	9.83	83.60	△ 5.42	100.00
20 - 24	0.38	0.31	0.07 (22.65%)		3.26	2.67	22.71	△ 1.47	27.17
25 - 29	0.52	0.47	0.05 (10.59%)						
30 - 34	0.65	0.61	0.04 (6.15%)						
35 - 39	0.63	0.51	0.12 (22.04%)						
40 - 44	0.49	0.41	0.08 (18.76%)						
45 - 49	0.51	0.48	0.03 (5.66%)						
50 - 54	0.73	0.66	0.07 (10.31%)						
55 - 59	1.15	0.92	0.23 (24.85%)						
60 - 64	1.35	1.28	0.07 (5.50%)						
65 - 69	1.99	1.88	0.11 (5.79%)						
70 - 74	3.90	3.12	0.78 (25.05%)						
全 体	0.78	0.62	0.16 (26.67%)						
全 体 (調整後)	0.60	0.62	△ 0.02 (△1.86%)						

年齢構成内訳				
	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者1人当たり日数(日)	0.69	0.69	0.64	0.60
差(日)	△ 0.05	△ 0.00	△ 0.05	△ 0.04
寄与率(%)	30.25	1.23	29.13	22.99
寄与度(%)	8.22	0.33	7.91	6.25

（図-22）年齢階級別1人当たり日数：医科入院（令和2年度）



③入院 1 日当たり医療費

令和 3 年度における入院 1 日当たり医療費は64,643円であり、前年度と比較して5.92%増加している。このうち70歳未満の組合員は76,282円、家族は56,430円であり、前年度と比較して組合員は4.92%、家族は4.91%それぞれ増加している。

平成29年度からの推移をみると、組合員、家族ともに増加傾向にあるが、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大した令和 2 年度、3 年度の増加率は特に高くなっている。

入院 1 日当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員は全国土木が高くなっており (3,845円 (5.31%))、家族は全国土木が低くなっている (△3,948円 (△6.54%))。

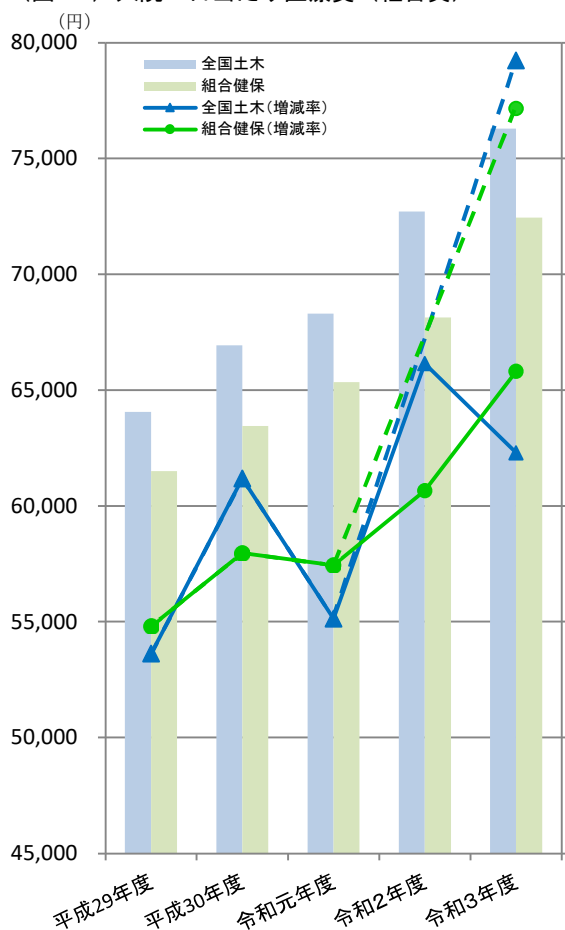
(表-17) 入院 1 日当たり医療費

(円、%)

	全 国 土 木						組 合 健 保					
			組 合 員		家 族				被 保 険 者		被 扶 養 者	
			対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率			対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率		
平成29年度	54,435	0.87	64,060	1.45	48,539	△ 0.51	56,258	2.48	61,493	1.92	51,648	2.40
平成30年度	56,916	4.56	66,924	4.47	49,868	2.74	58,344	3.71	63,453	3.19	53,746	4.06
令和元年度	58,439	2.68	68,298	2.05	51,796	3.87	60,181	3.15	65,341	2.97	55,375	3.03
令和 2 年度	61,028	4.43	72,708	6.46	53,791	3.85	63,005	4.69	68,127	4.27	57,936	4.62
令和 3 年度	64,643	5.92 (10.62)	76,282	4.92 (11.69)	56,430	4.91 (8.95)	66,416	5.41 (10.36)	72,437	6.33 (10.86)	60,378	4.21 (9.03)
組合健保との 差 (率)	△ 1,773 (△2.67%)	0.51 ^P	3,845 (5.31%)	△ 1.41 ^P	△ 3,948 (△6.54%)	0.7 ^P	出典：令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

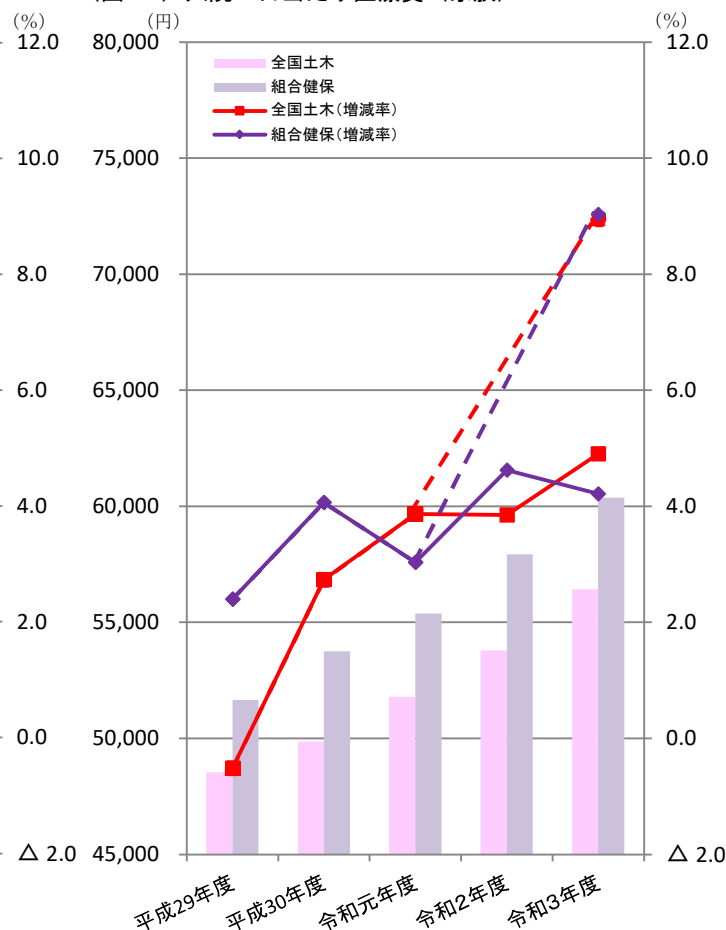
※令和 3 年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナ感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

(図-23) 入院 1 日当たり医療費 (組合員)



※破線は対令和元年度の増減率である。

(図-24) 入院 1 日当たり医療費 (家族)



令和2年度の年齢階級別入院1日当たり医療費を組合健保と比較すると、10歳から14歳の年齢階級で全国土木の方が高いが、その他の年齢階級では全国土木の方が低いか同程度となっており、全体では59,519円と組合健保(61,538円)より2,019円(3.28%)低くなっている。

加入者構成を組合健保と揃えて計算すると、61,650円となる。加入者構成の違いによる差が2,131円であり、これを調整した後は組合健保より112円(0.18%)高くなる。

全国土木と組合健保の1日当たり医療費の差を100%として要因別の寄与率をみると、本人割合の違いによる影響が105.44%、年齢構成の違いによる影響が64.51%である。

入院1日当たり医療費は本人の方が家族より高い傾向にあるが、全国土木は組合健保より扶養率が高く、加入者に占める本人の割合が組合健保より少ない。そのため、全体の入院1日当たり医療費が組合健保より低くなっている。

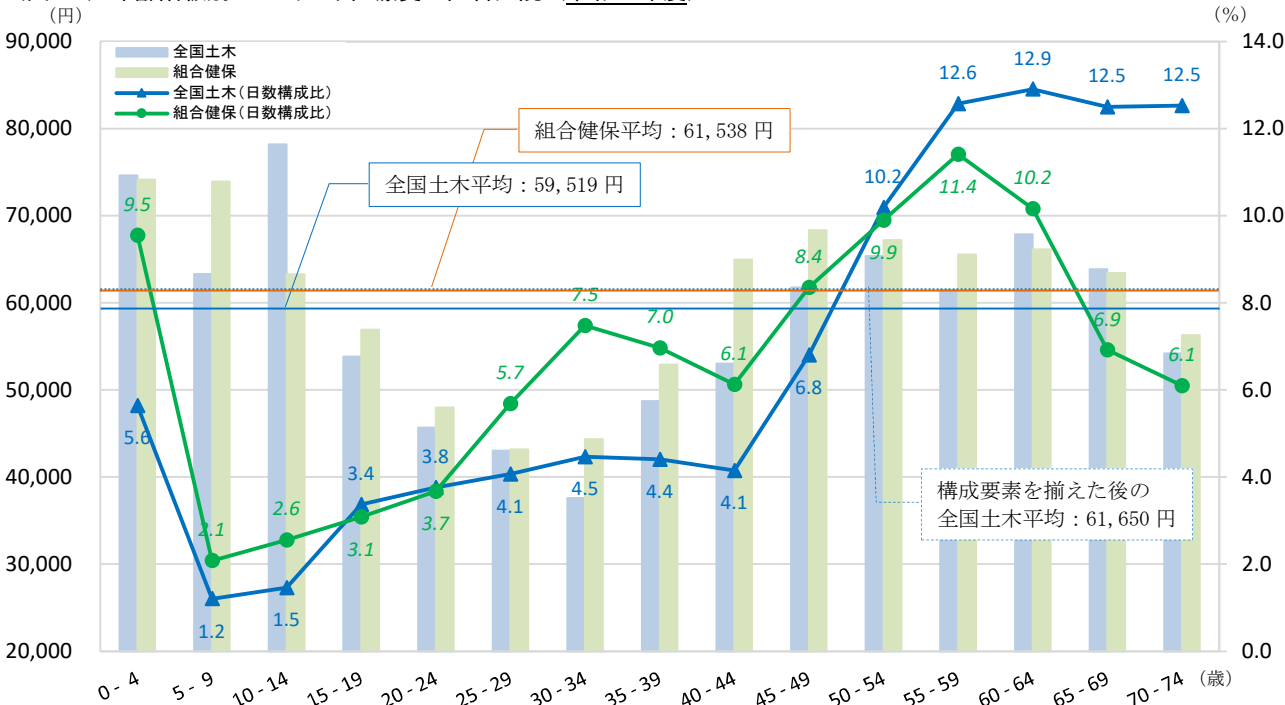
(表-18) 年齢階級別1日当たり医療費：医科入院（令和2年度）

年齢階級	1日当たり医療費			順次、組合健保と同じにすると				
	全国土木	組合健保	組合健保との差(率)	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他医療費等
加入者1日当たり医療費(円)	59,519	61,648	60,348	61,650	61,538	61,538		
差(円)		2,129	△1,300	1,303	△112	2,019		
寄与率(%)		105.44	△64.40	64.51	△5.54	100.00		
寄与度(%)		△3.46	2.11	△2.12	0.18	△3.28		

加入者1日当たり医療費(円)	年齢構成内訳			
	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者1日当たり医療費(円)	60,129	59,711	61,028	61,650
差(円)	△218	△419	1,317	622
寄与率(%)	△10.82	△20.73	65.25	30.81
寄与度(%)	0.35	0.68	△2.14	△1.01

※組合健保の入院時食事・生活療養費を医科歯科別、本人家族別、男女別、年齢階級別に区分できないため、入院時食事・生活療養費を除いている。

(図-25) 年齢階級別1日当たり医療費：医科入院（令和2年度）



④推計新規入院件数

令和3年度における推計新規入院件数は26,594件であり、前年度と比較して3.56%増加している。このうち70歳未満の組合員は12,277件、家族は12,386件であり、前年度と比較して組合員は4.34%、家族は2.82%それぞれ増加している。

平成29年度からの推移をみると、組合員は大きな変動はなく、家族は減少傾向にあるが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため両者ともに前年度から減少しており、特に家族の減少率が高い。3年度は、組合員は新型コロナウイルス感染拡大前の元年度とほぼ同程度だが、家族は元年度比で△10.76%となっている。

推計新規入院件数の動向を組合健保と比較すると、組合健保の被保険者、被扶養者も概ね同様の傾向にある。

なお、組合健保の元年度の推計新規入院件数は対前年度比で減少しているが、前述（1ページ）のとおり平成31年4月に解散した大規模健保2組合の影響が含まれている。

（表-19）推計新規入院件数

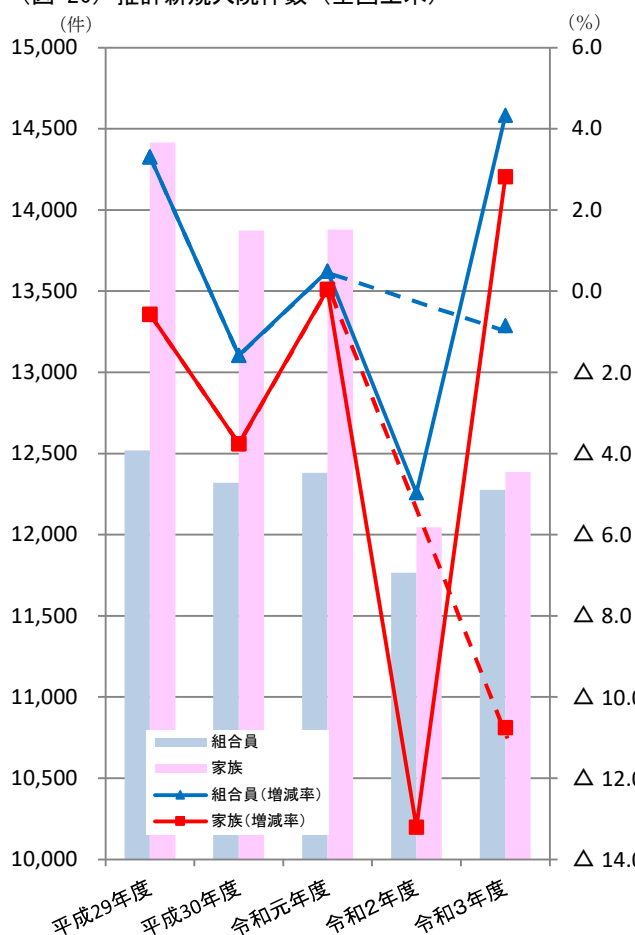
（件、%）

	全 国 土 木						組 合 健 保					
		対前年度 増 減 率	組 合 員		家 族			対前年度 増 減 率	被 保 険 者		被 扶 養 者	
				対前年度 増 減 率		対前年度 増 減 率				対前年度 増 減 率		対前年度 増 減 率
平成29年度	28,441	1.70	12,519	3.31	14,415	△ 0.57	1,778,223	0.88	877,674	2.93	846,334	△ 1.28
平成30年度	27,964	△ 1.68	12,320	△ 1.59	13,873	△ 3.76	1,775,815	△ 0.14	892,229	1.66	826,712	△ 2.32
令和元年度	28,146	0.65	12,381	0.49	13,880	0.04	1,729,707	△ 2.60	877,735	△ 1.62	792,016	△ 4.20
令和2年度	25,681	△ 8.76	11,766	△ 4.97	12,046	△ 13.21	1,573,986	△ 9.00	844,760	△ 3.76	670,309	△ 15.37
令和3年度	26,594	3.56 (△5.51)	12,277	4.34 (△0.84)	12,386	2.82 (△10.76)	1,610,035	2.29 (△6.92)	866,797	2.61 (△1.25)	681,687	1.70 (△13.93)

※令和3年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナウイルス感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

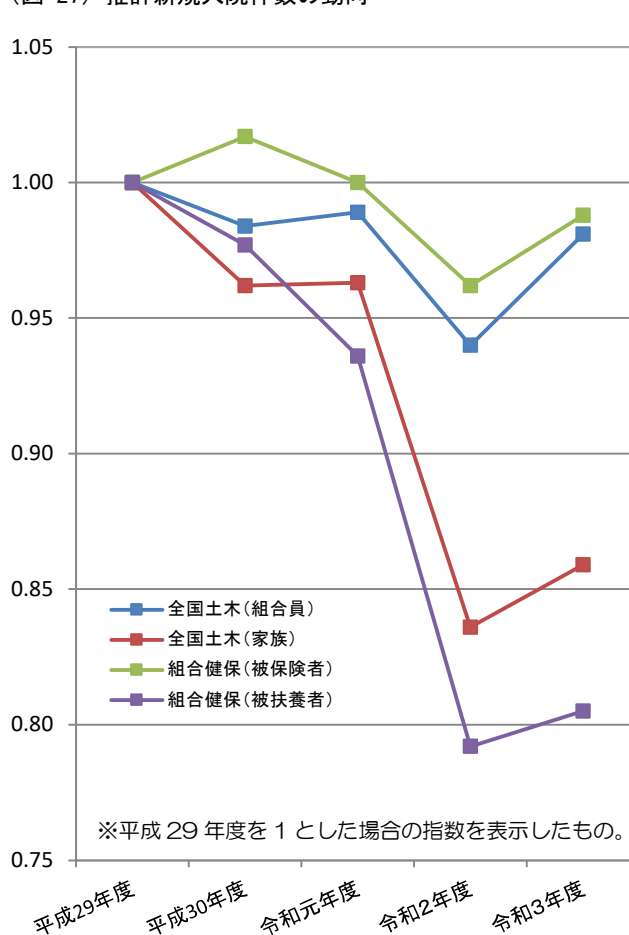
出典：令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」
令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」

（図-26）推計新規入院件数（全国土木）



※破線は対令和元年度の増減率である。

（図-27）推計新規入院件数の動向



※平成29年度を1とした場合の指数を表示したもの。

⑤100人当たり新規入院件数

令和3年度における100人当たり新規入院件数は6.62件であり、前年度と比較して4.11%増加している。このうち70歳未満の組合員は6.34件、家族は6.27件であり、前年度と比較して組合員は3.63%、家族は4.92%それぞれ増加している。

平成29年度からの推移をみると、組合員はやや減少傾向にあり、家族は概ね同程度で推移していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため、組合員、家族ともに減少し、特に家族の減少率が高い。3年度は両者ともに増加したものの、新型コロナ感染拡大前の元年度と比較するとやや少なくなっている。

100人当たり新規入院件数を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が多くなっており（組合員1.03件（19.39%）、家族0.51件（8.84%））、特に組合員の差が大きい。

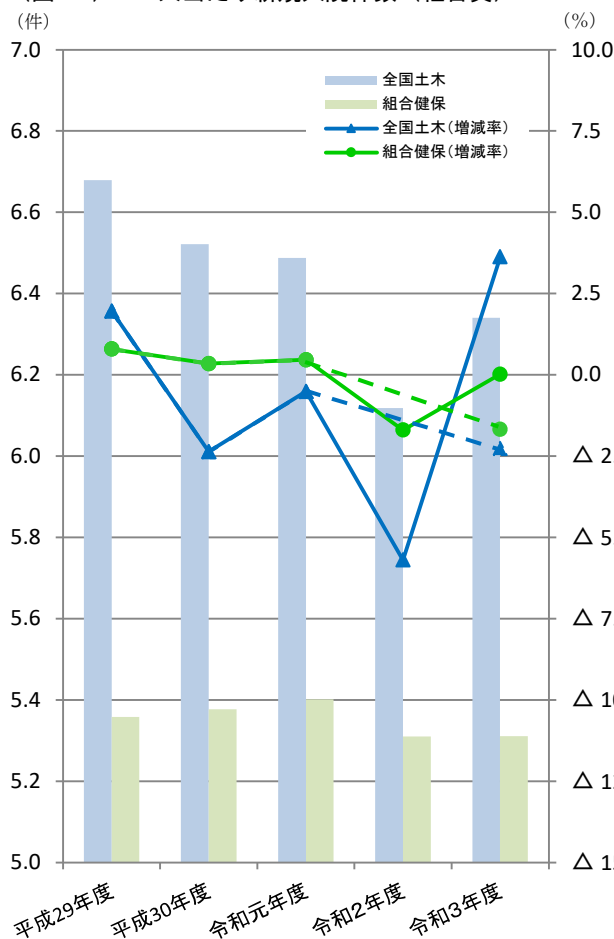
（表-20）100人当たり新規入院件数

（件、%）

(円、%)												
	全 国 土 木						組 合 健 保					
			組 合 員		家 族				被 保 険 者		被 扶 養 者	
	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	
平成29年度	6.92	2.08	6.68	1.96	6.67	1.60	6.03	0.24	5.36	0.80	6.59	0.00
平成30年度	6.86	△ 0.92	6.52	△ 2.37	6.59	△ 1.20	6.01	△ 0.35	5.38	0.34	6.53	△ 0.98
令和元年度	6.93	1.03	6.49	△ 0.52	6.73	2.19	5.98	△ 0.39	5.40	0.46	6.42	△ 1.63
令和 2 年度	6.36	△ 8.28	6.12	△ 5.69	5.97	△ 11.29	5.46	△ 8.71	5.31	△ 1.69	5.53	△ 13.90
令和 3 年度	6.62	4.11 (△4.52)	6.34	3.63 (△2.27)	6.27	4.92 (△6.93)	5.64	3.33 (△5.67)	5.31	0.02 (△1.68)	5.76	4.14 (△10.33)
組合健保との 差 (率)	0.98 (17.23%)	0.78 ^P	1.03 (19.39%)	3.61 ^P	0.51 (8.84%)	0.78 ^P	出典：令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

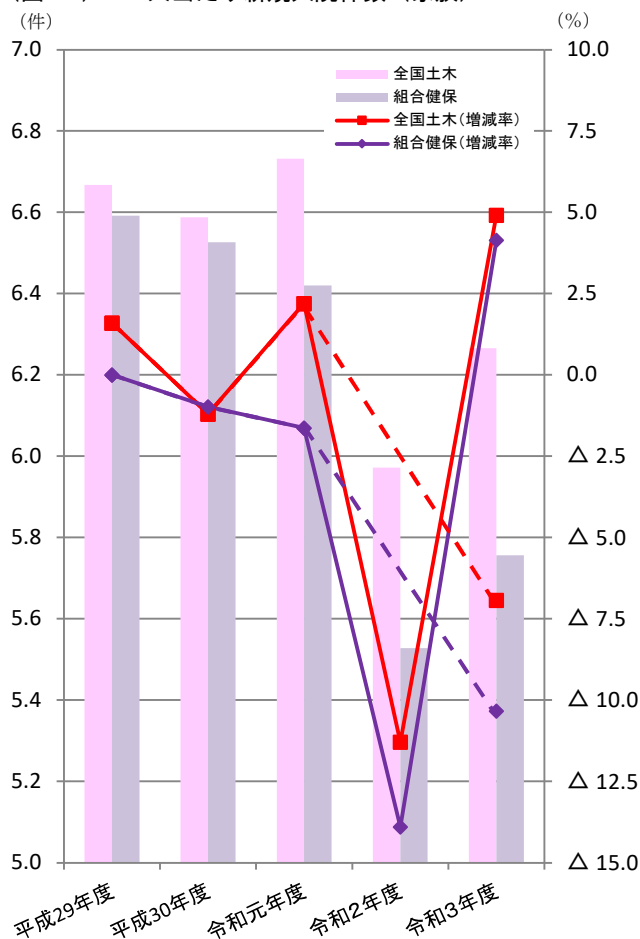
※令和3年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナ感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

（図-28）100人当たり新規入院件数（組合員）



※破線は対令和元年度の増減率である。

（図-29）100人当たり新規入院件数（家族）



令和2年度の年齢階級別 100 人当たり新規入院件数を組合健保と比較すると、10 歳未満、30 歳から 34 歳及び 40 歳から 44 歳の年齢階級を除き全国土木の方が多くっており、特に 70 歳から 74 歳の年齢階級で差が大きい。全体では 6.36 件と組合健保（5.46 件）より 0.90 件（16.36%）多くなっている。

加入者構成を組合健保と揃えて計算すると、5.76 件となる。加入者構成の違いによる差が 0.60 件（10.98%）であり、これを調整した後の組合健保との差は 0.30 件（5.38%）となる。

全国土木と組合健保の 100 人当たり新規入院件数の差を 100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が 66.54%であるが、その他件数等の違いによる影響も 32.87%ある。

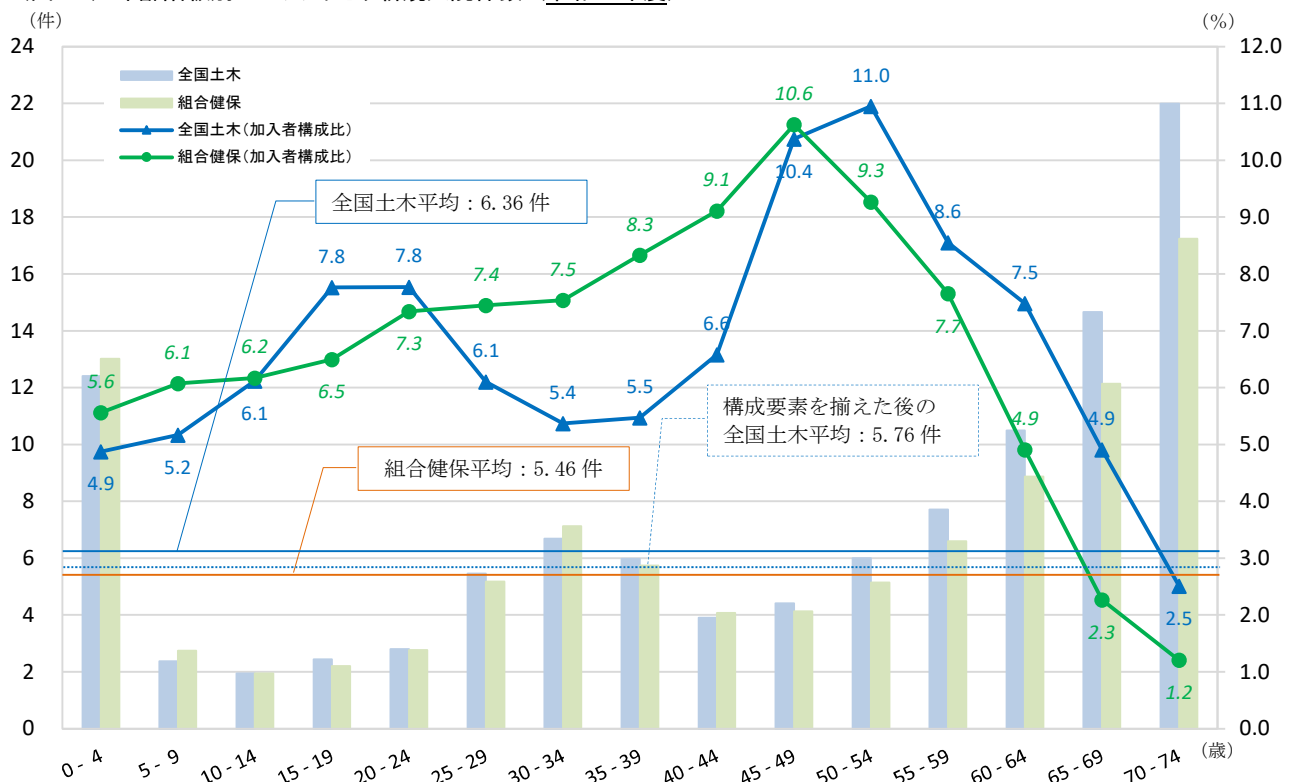
全国土木は、新規入院件数が多い 60 歳以上の人数割合が多いことに加え、元々の新規入院件数が多い傾向にあり、これらのことにより全体の新規入院件数が組合健保より多くなっている。

（表-21）年齢階級別 100 人当たり新規入院件数（令和2年度）

	100人当たり新規入院件数				順次、組合健保と同じにすると						
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）		全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他件数等	組合健保	
歳 歳	件	件	件		加入者100人当たり 新規入院件数(件)	6.36	6.36	6.35	5.76	5.46	5.46
0 - 4	12.40	13.01	△ 0.61 (△4.67%)								
5 - 9	2.37	2.74	△ 0.37 (△13.51%)		差（件）		0.00	△ 0.01	△ 0.59	△ 0.29	△ 0.89
10 - 14	1.95	1.94	0.01 (0.52%)		寄与率（％）		△ 0.49	1.09	66.54	32.87	100.00
15 - 19	2.43	2.20	0.23 (10.71%)		寄与度（％）		△ 0.08	0.18	10.89	5.38	16.36
20 - 24	2.80	2.76	0.04 (1.31%)								
25 - 29	5.46	5.17	0.29 (5.51%)								
30 - 34	6.68	7.12	△ 0.44 (△6.19%)								
35 - 39	5.97	5.73	0.24 (4.19%)								
40 - 44	3.90	4.07	△ 0.17 (△4.25%)								
45 - 49	4.40	4.13	0.27 (6.77%)								
50 - 54	6.00	5.14	0.86 (16.65%)								
55 - 59	7.71	6.59	1.12 (16.94%)								
60 - 64	10.49	8.86	1.63 (18.31%)								
65 - 69	14.65	12.14	2.51 (20.74%)								
70 - 74	22.00	17.24	4.76 (27.57%)								
全 体	6.36	5.46	0.90 (16.36%)								
全 体 (調整後)	5.76	5.46	0.30 (5.38%)								

年齢構成内訳				
	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者100人当たり 新規入院件数(件)	5.92	5.94	5.86	5.76
差（件）	△ 0.43	0.02	△ 0.08	△ 0.10
寄与率（％）	47.88	△ 2.06	9.20	11.51
寄与度（％）	7.83	△ 0.34	1.50	1.88

（図-30）年齢階級別 100 人当たり新規入院件数（令和2年度）



⑥推計平均在院日数

令和3年度における推計平均在院日数は12.1日であり、前年度から1.47%減少している。このうち70歳未満の組合員は10.4日、家族は13.0日であり、前年度と比較して組合員は2.43%増加したが、家族は2.56%減少している。

平成29年度からの推移をみると、組合員、家族ともに減少傾向となっている。

推計平均在院日数を組合健保と比較すると、組合員については30年度まで全国土木の方がやや長く、令和元年度及び2年度は僅かではあるものの全国土木の方が短くなったが、3年度は再び全国土木の方が長くなった。家族については全国土木の方が長くなっており、3年度は組合健保との差が1.3日（10.55%）となっている。

（表-22）推計平均在院日数

（日、%）

	全 国 土 木						組 合 健 保					
	対前年度 増 減 率	組 合 員		家 族		対前年度 増 減 率	被 保 険 者		被 扶 養 者			
		対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率		対前年度 増 減 率					
平成29年度	13.3	△ 0.31	11.3	△ 0.65	14.1	△ 0.54	11.6	△ 1.64	10.9	△ 1.54	12.0	△ 1.30
平成30年度	12.8	△ 3.19	11.1	△ 2.11	13.8	△ 2.17	11.5	△ 0.84	10.8	△ 0.83	11.9	△ 0.66
令和元年度	12.4	△ 3.37	10.5	△ 5.15	13.3	△ 3.64	11.4	△ 0.78	10.7	△ 0.78	11.8	△ 0.99
令和 2 年度	12.3	△ 1.08	10.1	△ 3.74	13.3	0.28	11.3	△ 1.35	10.3	△ 3.63	12.0	1.76
令和 3 年度	12.1	△ 1.47 (△2.53)	10.4	2.43 (△1.39)	13.0	△ 2.56 (△2.28)	11.1	△ 1.30 (△2.62)	10.2	△ 0.83 (△4.42)	11.7	△ 2.08 (△0.36)
組合健保との 差（率）	1.0 (8.67%)	△ 0.17 ^P	0.2 (1.70%)	3.26 ^P	1.3 (10.55%)	△ 0.48 ^P	出典：令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

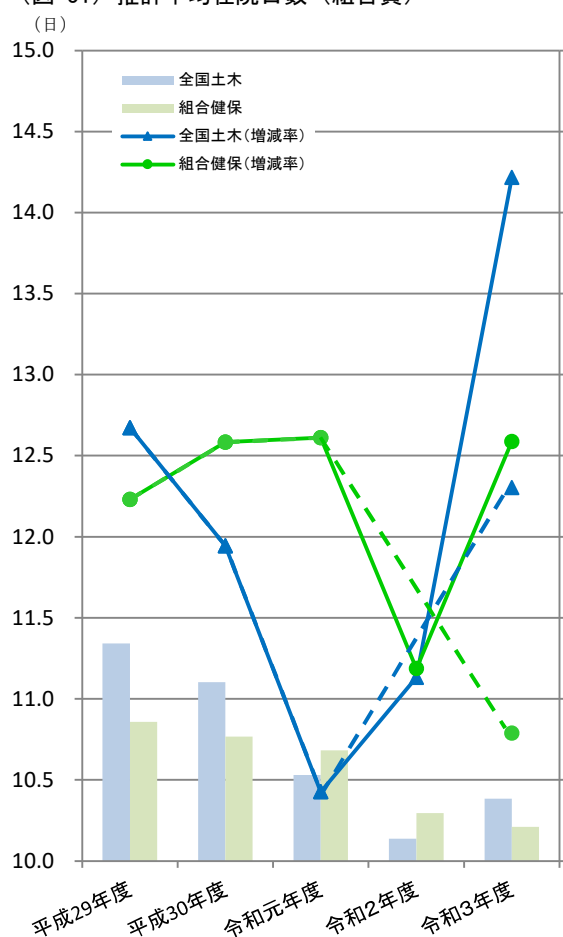
※令和3年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナウイルス感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

※推計平均在院日数は、医科入院1件当たり日数から次の式で推計した値である。

$$\text{推計平均在院日数} = 1 \text{ 件当たり日数} \times (365 - 12) \div (365 - 1 \text{ 件当たり日数} \times 12)$$

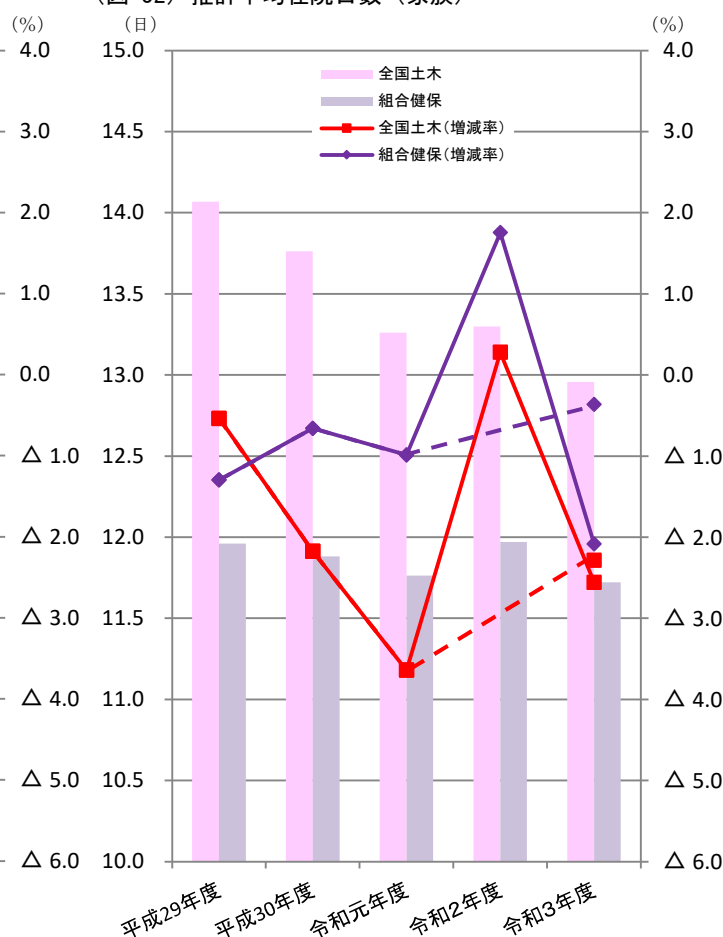
$$(\text{令和元年度は、} 1 \text{ 件当たり日数} \times (366 - 12) \div (366 - 1 \text{ 件当たり日数} \times 12))$$

（図-31）推計平均在院日数（組合員）



※破線は対令和元年度の増減率である。

（図-32）推計平均在院日数（家族）



令和2年度の年齢階級別推計平均在院日数を組合健保と比較すると、15歳から44歳まで及び55歳から59歳の年齢階級で全国土木の方が長く、その他の年齢階級では全国土木の方が短くなっており、全体では12.28日と組合健保（11.28日）より1.00日（8.86%）長くなっている。

加入者構成を組合健保と揃えて計算すると、10.36日となる。加入者構成の違いによる差が1.92日（17.00%）であり、これを調整した後は組合健保より0.92日（8.14%）短くなる。

全国土木と組合健保の推計平均在院日数の差を100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が125.18%であり、特に家族の年齢構成の違いによる影響が大きい。

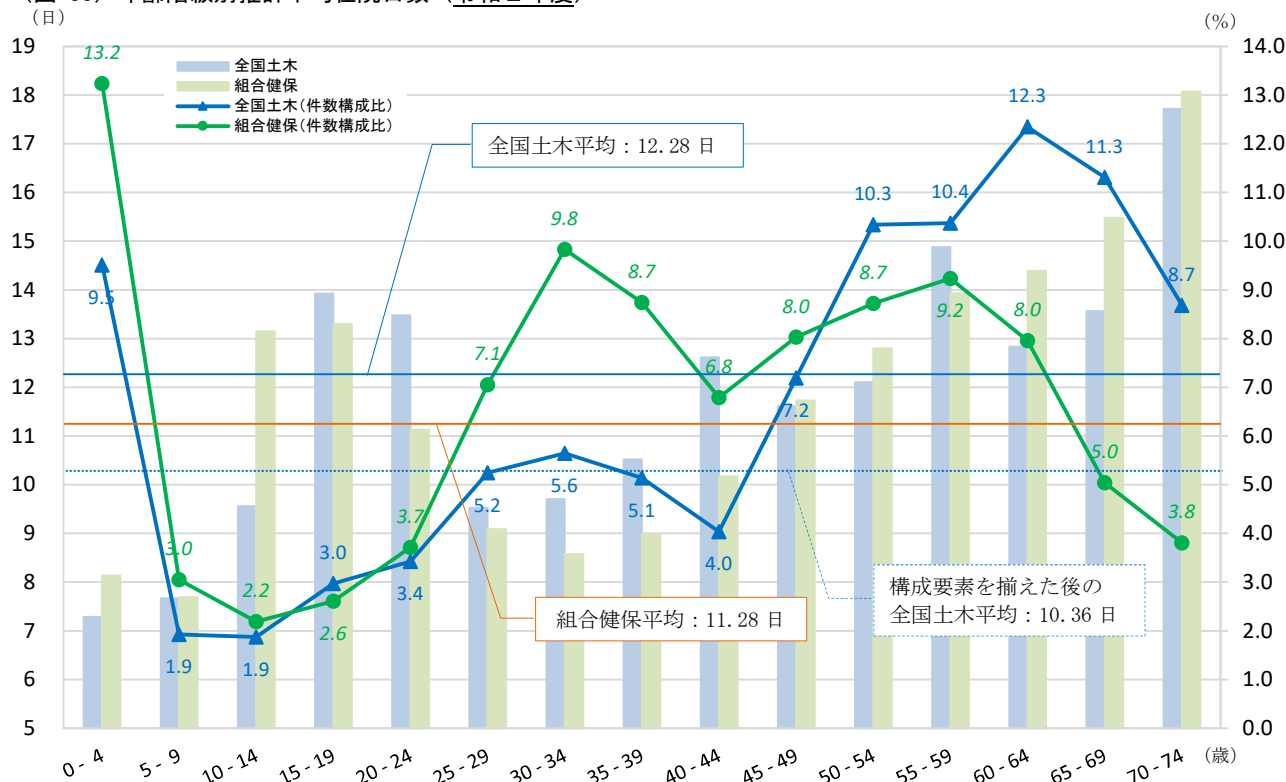
推計平均在院日数は55歳以上で長く、また、本人より家族が長い傾向にあるが、全国土木はこの層の人数割合が多いため推計平均在院日数が長くなっており、日数水準は組合健保より約8%短い。

（表-23）年齢階級別推計平均在院日数（令和2年度）

	推計平均在院日数			順次、組合健保と同じにすると					
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他日数等	組合健保
加入者推計平均在院日数(日)	12.28	12.00	11.61	10.36	11.28	11.28			
差（日）		△ 0.28	△ 0.39	△ 1.25	0.92	△ 1.00			
寄与率（％）		27.76	38.92	125.18	△ 91.85	100.00			
寄与度（％）		2.46	3.45	11.09	△ 8.14	8.80			

年齢構成内訳				
	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者推計平均在院日数(日)	11.57	11.49	10.80	10.36
差（日）	△ 0.04	△ 0.08	△ 0.68	△ 0.44
寄与率（％）	4.11	8.21	68.50	44.35
寄与度（％）	0.36	0.73	6.07	3.93

（図-33）年齢階級別推計平均在院日数（令和2年度）



⑦推計 1 入院当たり医療費

令和 3 年度における推計 1 入院当たり医療費は781,923円であり、前年度と比較して4.37%増加している。このうち70歳未満の組合員は792,114円、家族は731,205円であり、前年度と比較して組合員は7.47%、家族は2.22%それぞれ増加している。

平成29年度からの推移をみると、組合員は増加傾向にあり、令和元年度に減少したものの2年度は再び増加に転じ、3年度は大きく増加した。家族は大きな変動はなかったが、2年度以降の増加率はやや高くなっている。

推計 1 入院当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が高くなっている（組合員52,502円（7.10%）、家族23,520円（3.32%））。これは、推計 1 入院当たり医療費は推計平均在院日数と入院 1 日当たり医療費の積であり、前述のとおり組合員については両方が、家族については推計平均在院日数が組合健保より多いためである。

（表-24）推計 1 入院当たり医療費

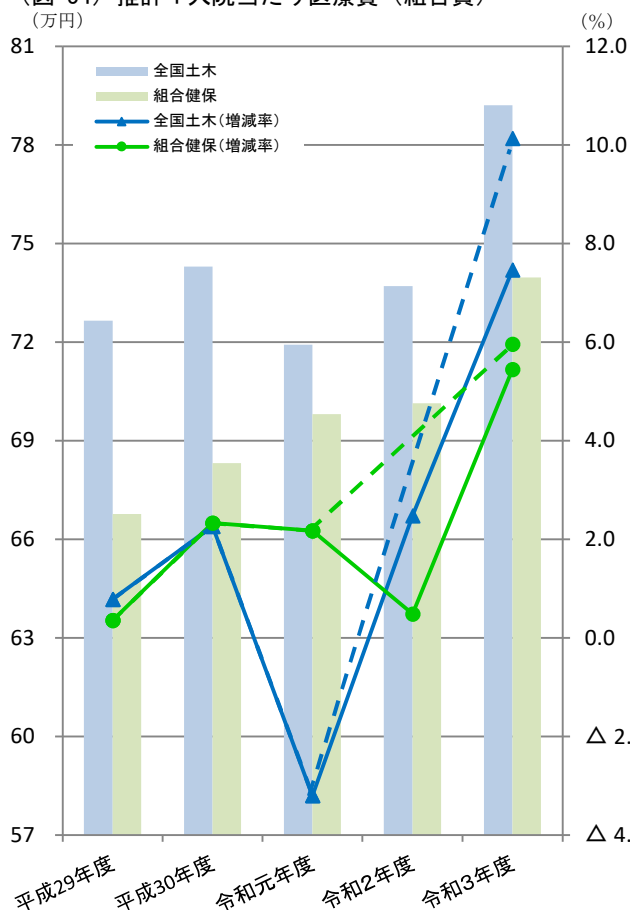
（円、%）

	全 国 土 木						組 合 健 保					
			組 合 員		家 族				被 保 険 者		被 扶 養 者	
			対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率			対前年度 増 減 率			
平成29年度	722,164	0.56	726,552	0.78	682,795	△ 1.04	653,644	0.80	667,631	0.36	617,683	1.08
平成30年度	730,998	1.22	743,001	2.26	686,255	0.51	672,179	2.84	683,165	2.33	638,556	3.38
令和元年度	725,242	△ 0.79	719,230	△ 3.20	686,854	0.09	687,908	2.34	698,016	2.17	651,414	2.01
令和2年度	749,187	3.30	737,068	2.48	715,303	4.14	710,498	3.28	701,394	0.48	693,507	6.46
令和3年度	781,923	4.37 (7.82)	792,114	7.47 (10.13)	731,205	2.22 (6.46)	739,250	4.05 (7.46)	739,612	5.45 (5.96)	707,685	2.04 (8.64)
組合健保との 差（率）	42,673 (5.77%)	0.32 ^P	52,502 (7.10%)	2.02 ^P	23,520 (3.32%)	0.18 ^P	出典：令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

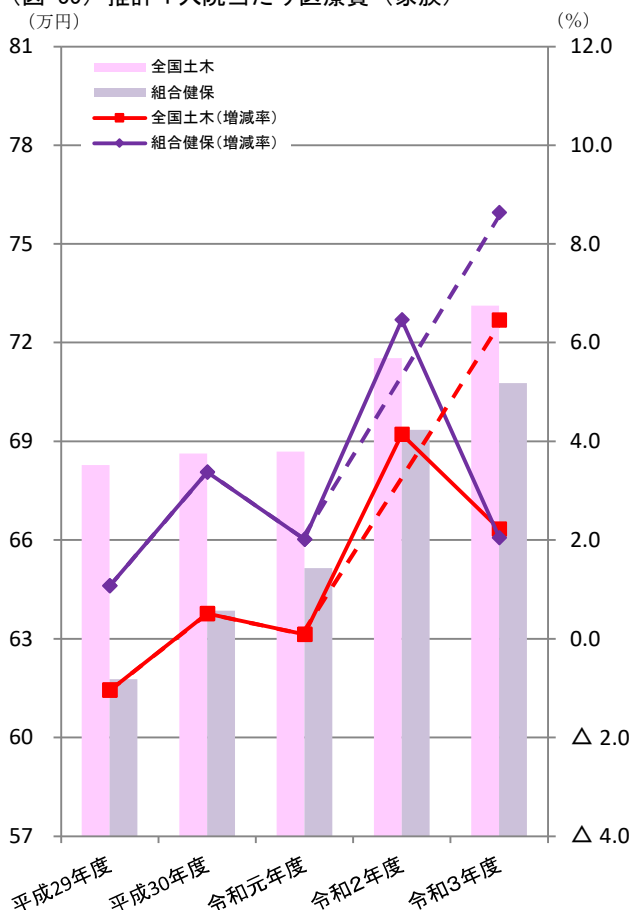
※令和3年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナウイルス感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

※推計 1 入院当たり医療費は、推計平均在院日数に入院 1 日当たり医療費を乗じて得た値である。

（図-34）推計 1 入院当たり医療費（組合員）
（万円）



（図-35）推計 1 入院当たり医療費（家族）
（万円）



※破線は対令和元年度の増減率である。

令和2年度の年齢階級別推計1入院当たり医療費を組合健保と比較すると、20歳から29歳まで及び35歳から44歳までの年齢階級で全国土木の方が高く、その他の年齢階級では全国土木の方が低いと同程度となっており、全体では730,663円と組合健保（693,959円）より36,704円（5.29%）高くなっている。

加入者構成を組合健保と揃えて計算すると、631,706円となる。加入者構成の違いによる差が98,957円であり、これを調整した後は組合健保より62,253円（8.97%）低くなる。

全国土木と組合健保の推計1入院当たり医療費の差を100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が154.04%と大きく、特に家族の影響が大きくなっている。

推計1入院当たり医療費は1日当たり医療費と推計平均在院日数の積であるが、全国土木は家族の推計平均在院日数が長い傾向にある。このことから、主に推計平均在院日数の多い家族の高齢者の人数割合が多いために推計1入院当たり医療費が高くなっているが、医療費水準は約9%低いと言える。

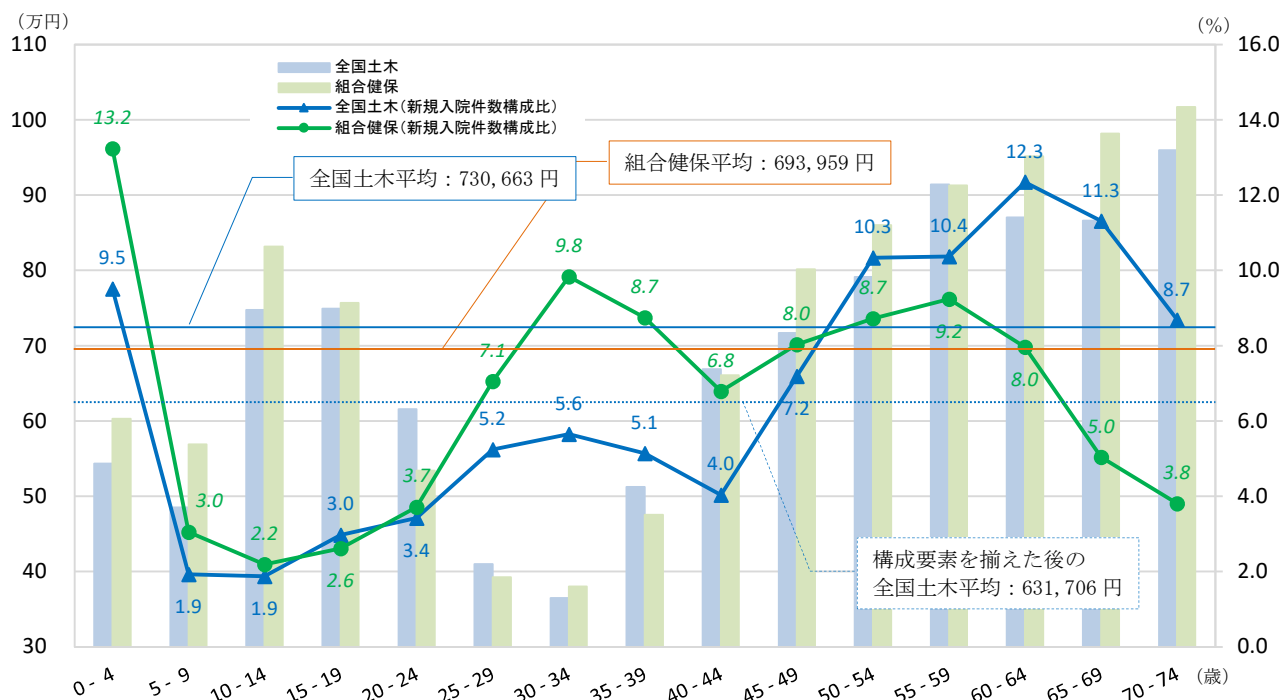
（表-25）年齢階級別推計1入院当たり医療費（令和2年度）

年齢階級	1入院当たり医療費			順次、組合健保と同じにすると					
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他医療費等	組合健保
加入者1入院当たり医療費（円）	730,663	693,959	△ 36,704 (5.29%)	730,663	730,681	688,244	631,706	693,959	693,959
差（円）					18	△ 42,436	△ 56,539	62,254	△ 36,704
寄与率（%）					△ 0.05	115.62	154.04	△ 169.61	100.00
寄与度（%）					△ 0.00	6.12	8.15	△ 8.97	5.29

年齢構成内訳				
	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者1入院当たり医療費（円）	682,383	672,889	650,216	631,706
差（円）	△ 5,861	△ 9,494	△ 22,673	△ 18,510
寄与率（%）	15.97	25.87	61.77	50.43
寄与度（%）	0.84	1.37	3.27	2.67

※組合健保の入院時食事・生活療養費を医科歯科別、本人家族別、男女別、年齢階級別に区分できないため、入院時食事・生活療養費を除いている。

（図-36）年齢階級別推計1入院当たり医療費（令和2年度）



（参考）入院医療費の3要素分析と新3要素分析

3要素分析は、診療報酬明細書（レセプト）を単位として医療費を分析する考え方を言う。

レセプトは、患者1人につき1つの医療機関で毎月1枚作成され、受診した回数や入院した日数、提供された医療の内容とその費用、1か月の合計医療費等の情報が掲載されている。

①レセプトの枚数（件数）、②診療実日数、③合計医療費の3情報をベースとし、医療保険者として最も基本的な情報である加入者情報を加えて分析すると、次のような指標が得られる。

- 1人当たり件数（受診率） = 件数 ÷ 加入者数
- 1件当たり日数 = 日数 ÷ 件数
- 1件当たり医療費 = 医療費 ÷ 件数
- 1人当たり日数 = 日数 ÷ 加入者数
- 1日当たり医療費 = 医療費 ÷ 日数

これらの指標を組み合わせると、入院1人当たり医療費を次のように分解できる。

$$\begin{aligned}\textcircled{\circ} \text{ 入院1人当たり医療費} &= \text{受診率} \times \text{入院1件当たり医療費} \\ &= \text{受診率} \times \text{入院1件当たり日数} \times \text{入院1日当たり医療費} \\ &= \text{入院1人当たり日数} \times \text{入院1日当たり医療費}\end{aligned}$$

しかしながら、レセプトは月が変わると新たに作られるため、3要素分析は発生件数のほか初診から治療終了までの日数や医療費を必ずしも正確に表すものではない。（そのため、本報告書では受診率、1件当たり日数、1件当たり医療費を掲載していない。）

新3要素分析は、入院から退院までの患者を単位として医療費を分析するもので、近年提唱された考え方である。

医療費とは「各患者の診療期間の医療費を合計したもの」と捉え、入院医療費を①新規入院件数（入院発生）、②推計平均在院日数（入院期間）、③入院1日当たり医療費（入院単価）の3要素の積に分解する。すなわち、一定期間内に疾病が新たにどれだけ発生し、治療にどのくらいの期間や費用がかかったかを観察するもの（エピソード統計）で、患者の平均的な受診状況をより正確に把握することができる。

これらの要素を組み合わせると、入院1人当たり医療費を次のように分解できる。

$$\begin{aligned}\textcircled{\circ} \text{ 推計1入院当たり医療費} &= \text{推計平均在院日数} \times \text{入院1日当たり医療費} \\ \textcircled{\circ} \text{ 入院1人当たり医療費} &= \text{1人当たり新規入院件数} \times \text{推計1入院当たり医療費} \\ &= \text{100人当たり新規入院件数} \div 100 \times \text{推計1入院当たり医療費} \\ &= \text{1人当たり新規入院件数} \times \text{推計平均在院日数} \times \text{入院1日当たり医療費}\end{aligned}$$

(8) 医科入院外

①入院外 1人当たり医療費

令和3年度における入院外1人当たり医療費は79,554円であり、前年度と比較して11.99%増加している。このうち70歳未満の組合員は77,550円、家族は74,799円であり、前年度と比較して組合員は8.84%、家族は16.19%それぞれ増加している。

平成29年度からの推移をみると、組合員、家族ともに増加傾向にあり、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため前年度から減少したが、3年度はその反動で大きく増加しており、特に家族の増加率が高い。

入院外1人当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が高くなっている（組合員8,010円（11.52%）、家族4,561円（6.49%））。これは、後述のとおり1人当たり日数及び1日当たり医療費の両方が組合健保より高いことによるが、このうち組合員については1日当たり医療費が高いことが特に影響している。

さらに、全国土木では組合員の方が家族より高く、組合健保では2年度を除いて被保険者の方が被扶養者より低くなっており、傾向に違いが見られる。

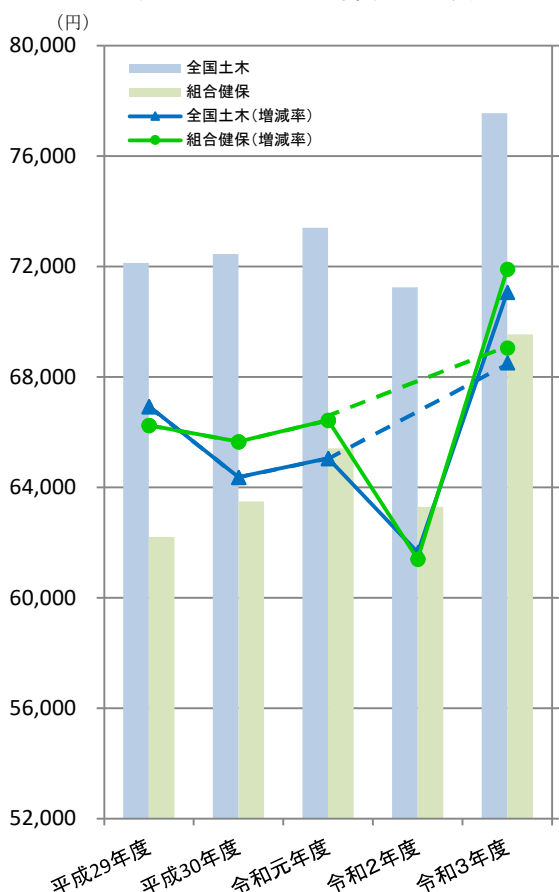
(表-26) 入院外1人当たり医療費

(円、%)

	全 国 土 木						組 合 健 保					
		対前年度 増減率	組 合 員		家 族			対前年度 増減率	被 保 険 者		被 扶 養 者	
			対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率			対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率
平成29年度	72,744	2.86	72,119	3.66	68,702	1.88	64,952	2.07	62,195	2.81	65,484	1.29
平成30年度	73,458	0.98	72,448	0.46	69,416	1.04	65,959	1.55	63,483	2.07	65,994	0.78
令和元年度	74,822	1.86	73,405	1.32	70,484	1.54	67,391	2.17	65,411	3.04	66,465	0.71
令和2年度	71,035	△ 5.06	71,249	△ 2.94	64,376	△ 8.67	62,985	△ 6.54	63,285	△ 3.25	58,886	△ 11.40
令和3年度	79,554	11.99 (6.32)	77,550	8.84 (5.65)	74,799	16.19 (6.12)	71,530	13.57 (6.14)	69,540	9.88 (6.31)	70,238	19.28 (5.68)
組合健保との 差(率)	8,024 (11.22%)	△ 1.58 ^P	8,010 (11.52%)	△ 1.04 ^P	4,561 (6.49%)	△ 3.09 ^P	出典：令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

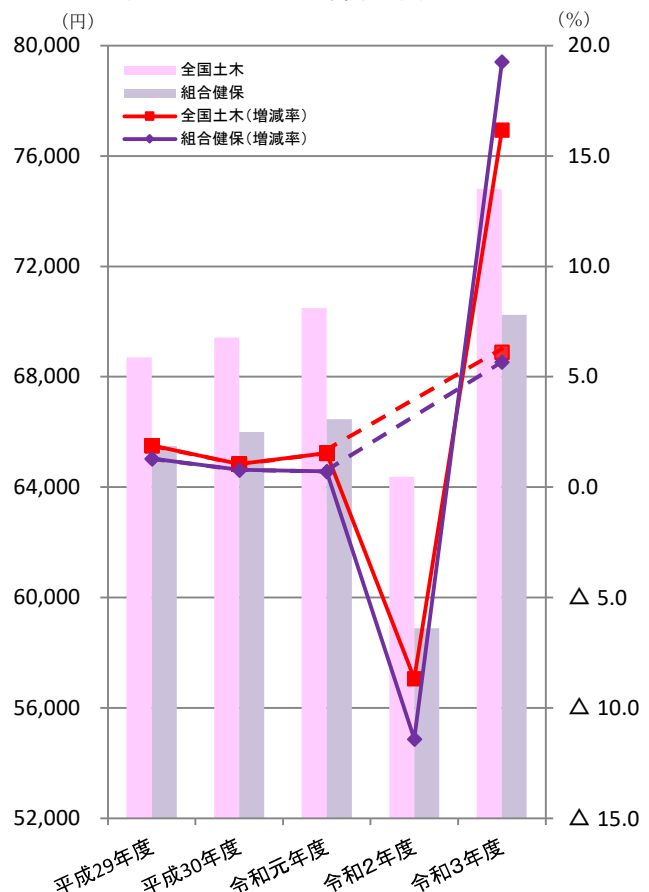
※令和3年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナ感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

(図-37) 入院外1人当たり医療費（組合員）



※破線は対令和元年度の増減率である。

(図-38) 入院外1人当たり医療費（家族）



令和2年度における医科入院外の年齢階級別1人当たり医療費を組合健保と比較すると、50歳未満の年齢階級では全国土木の方が低いか概ね同程度だが、50歳以降の年齢階級では全国土木の方が高くなっている。全体では、全国土木（71,035円）が組合健保（62,985円）より8,050円（12.78%）高い。

加入者構成を組合健保と揃えて計算すると、62,891円となる。加入者構成の違いによる差が8,144円（12.93%）であり、これを調整した後の組合健保との差は△94円（△0.15%）となる。

全国土木と組合健保の1人当たり医療費の差を100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が105.04%と元の差を超えており、特に「本人：男性」の年齢構成の違いによる影響が53.28%と大きい。

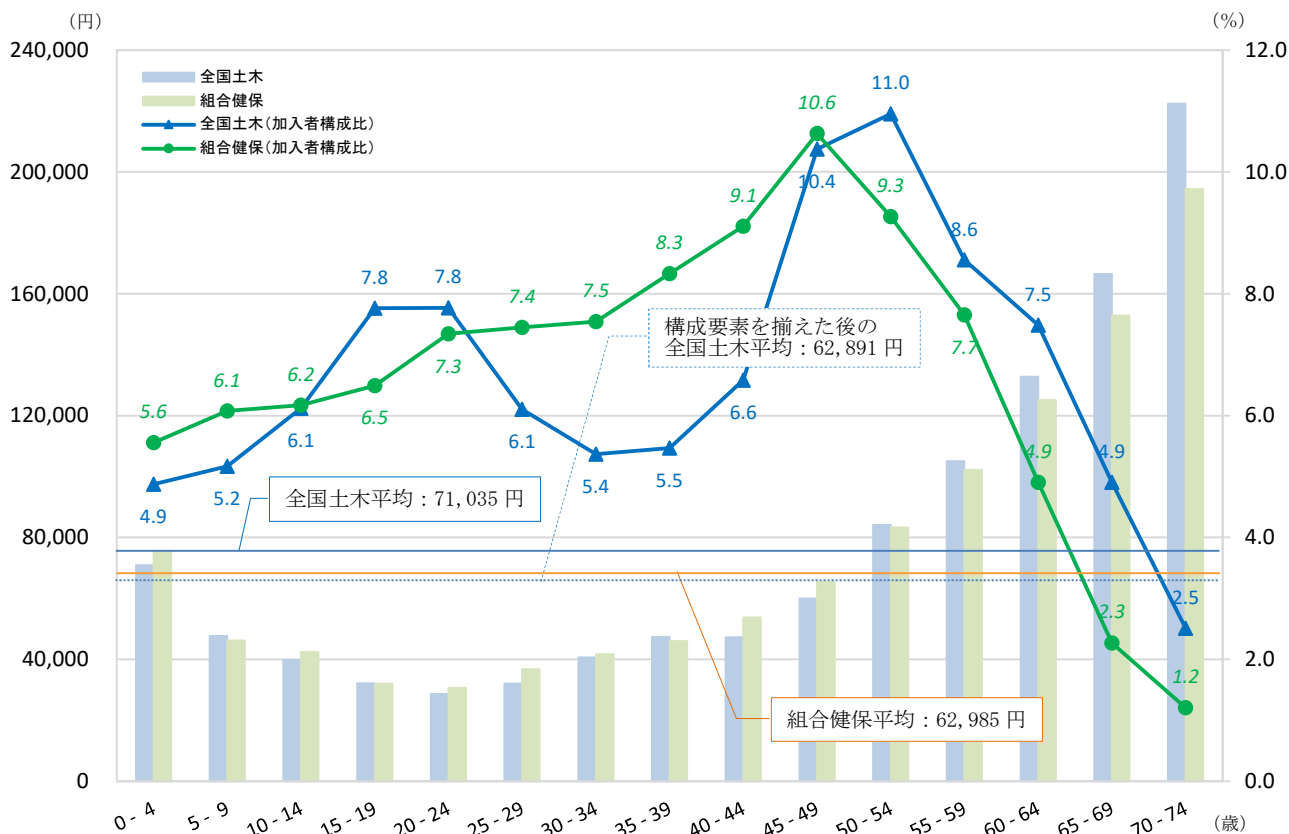
全国土木は、主に医療費の高い高齢者の人数割合が多いために全体の1人当たり医療費が高くなっているが、医療費水準は組合健保とほぼ同水準と言える。

（表-27）年齢階級別1人当たり医療費：医科入院外（令和2年度）

年齢階級	1人当たり医療費			順次、組合健保と同じにすると					
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他医療費等	組合健保
加入者1人当たり医療費（円）	71,035	62,985	△8,050（△11.33%）	71,035	71,496	71,346	62,891	62,985	62,985
差（円）					461	△149	△8,456	94	△8,050
寄与率（%）					△5.72	1.85	105.04	△1.17	100.00
寄与度（%）					△0.73	0.24	13.43	△0.15	12.78

年齢構成内訳				
	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者1人当たり医療費（円）	67,057	66,233	65,318	62,891
差（円）	△4,289	△824	△915	△2,427
寄与率（%）	53.28	10.24	11.37	30.15
寄与度（%）	6.81	1.31	1.45	3.85

（図-39）年齢階級別1人当たり医療費：医科入院外（令和2年度）



②入院外 1 人当たり日数

令和 3 年度における入院外 1 人当たり日数は 8.43 日であり、前年度と比較して 7.91%増加している。このうち 70 歳未満の組合員は 7.36 日、家族は 8.95 日であり、前年度と比較して組合員は 5.60%、家族は 10.33%それぞれ増加している。

平成 29 年度からの推移をみると、組合員、家族ともに大きな変動はなかったが、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため前年度から大幅に減少した。3 年度はその反動により前年度から増加したものの、新型コロナウイルス感染拡大前の水準までは戻っていない。

入院外 1 人当たり日数を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木がやや多くなっているが（組合員 0.13 日（1.74%）、家族 0.21 日（2.41%））、大きな差はない。このうち家族については、令和元年度までは全国土木の方が少なかったが 2 年度から逆転しており、新型コロナウイルス感染症の影響のためと推察される。

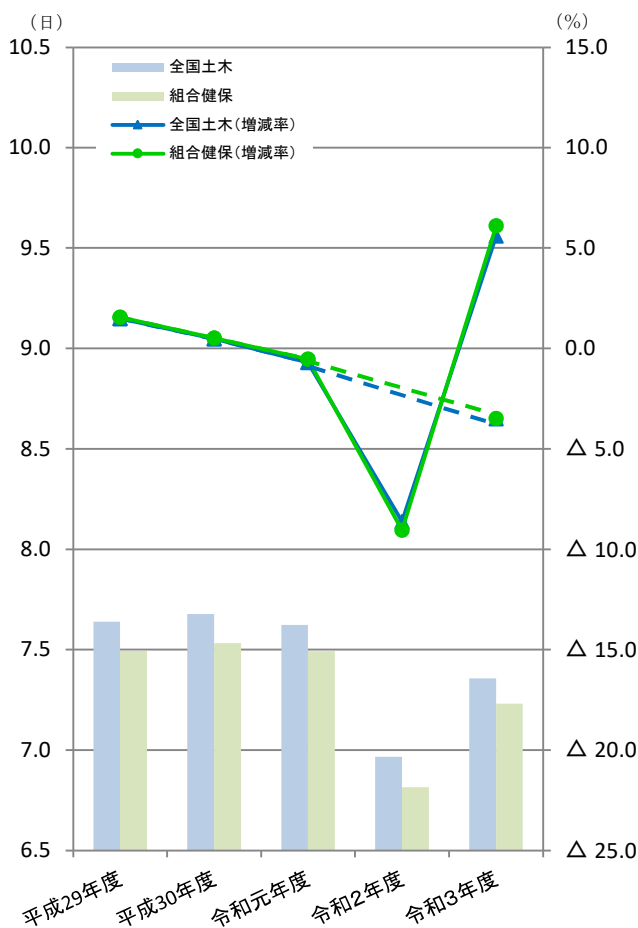
（表-28）入院外 1 人当たり日数

（日、%）

	全 国 土 木						組 合 健 保					
			組 合 員		家 族				被 保 険 者		被 扶 養 者	
			対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率			対前年度 増 減 率			
平成29年度	9.02	0.69	7.64	1.49	9.81	0.43	8.69	0.43	7.49	1.55	9.94	△ 0.05
平成30年度	9.04	0.18	7.68	0.49	9.81	0.10	8.67	△ 0.14	7.53	0.51	9.89	△ 0.46
令和元年度	8.93	△ 1.21	7.62	△ 0.70	9.66	△ 1.54	8.55	△ 1.37	7.49	△ 0.53	9.67	△ 2.28
令和 2 年度	7.81	△ 12.52	6.97	△ 8.61	8.11	△ 16.02	7.36	△ 13.95	6.81	△ 9.04	7.80	△ 19.28
令和 3 年度	8.43	7.91 (△5.60)	7.36	5.60 (△3.50)	8.95	10.33 (△7.35)	8.00	8.67 (△6.48)	7.23	6.10 (△3.49)	8.74	12.06 (△9.55)
組合健保との 差（率）	0.43 (5.36%)	△ 0.76	0.13 (1.74%)	△ 0.50	0.21 (2.41%)	△ 1.73	出典：令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

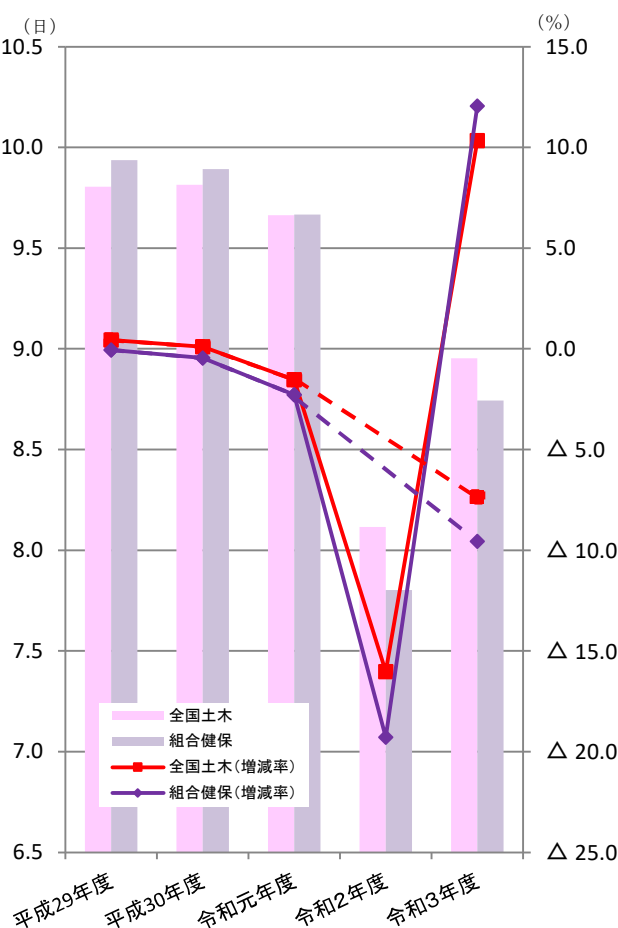
※令和 3 年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナウイルス感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

（図-40）入院外 1 人当たり日数（組合員）



※破線は対令和元年度の増減率である。

（図-41）入院外 1 人当たり日数（家族）



令和2年度の年齢階級別入院外1人当たり日数を組合健保と比較すると、70歳から74歳の年齢階級で全国土木の方が多くなっているが、その他の年齢階級では全国土木の方が少ないか概ね同程度となっており、全体では7.81日と組合健保（7.36日）より0.45日（6.11%）多くなっている。

加入者構成比を組合健保と揃えて計算すると、7.30日となる。加入者構成の違いによる差が0.51日（6.93%）であり、これを調整した後は組合健保より△0.06日（△0.82%）と僅かだが少なくなる。

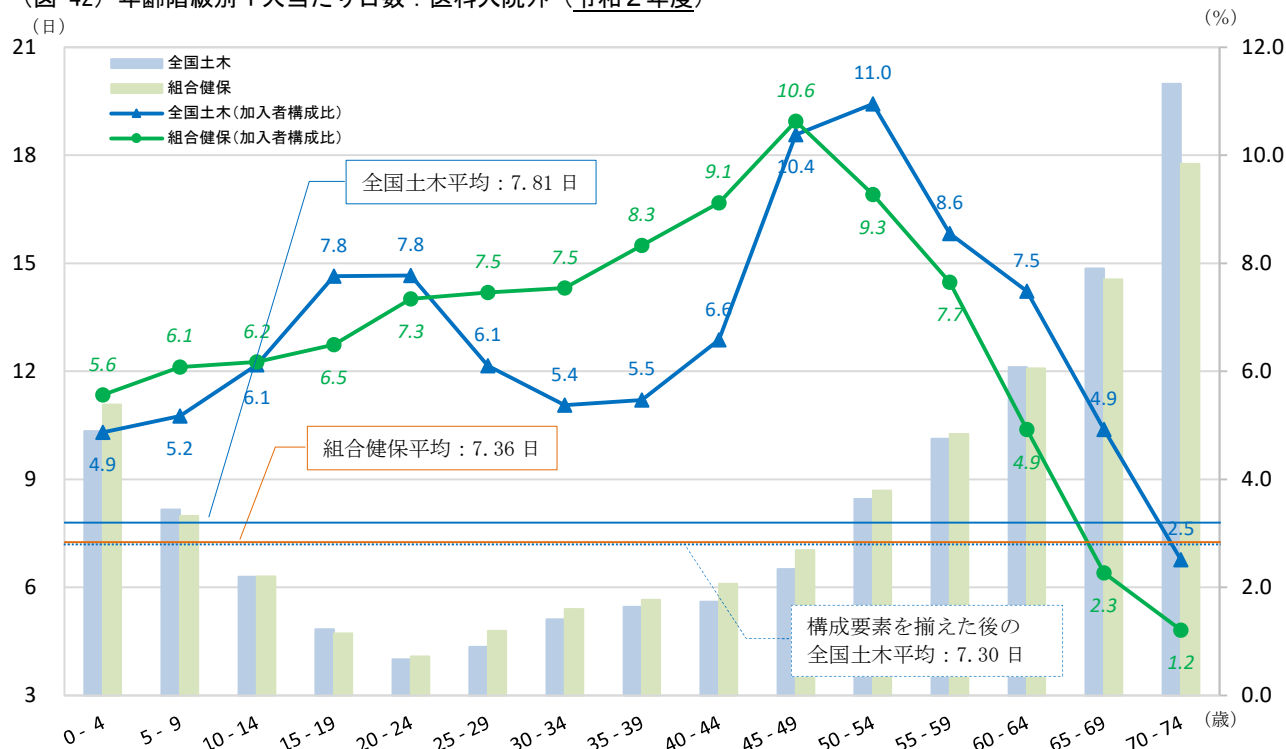
全国土木と組合健保の1人当たり日数の差を100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が128.74%であり、特に「本人：男性」の年齢構成の違いによる影響が73.51%と大きい。

全国土木は、日数の多い60歳以上の年齢階級の人数割合が多く、この年齢階級が全体の日数を押し上げているため全体の1人当たり日数が多くなっているが、これを調整した後の日数水準は組合健保と同程度と言える。

（表-29）年齢階級別1人当たり日数：医科入院外（令和2年度）

年齢階級	1人当たり日数			順次、組合健保と同じにすると					
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他日数等	組合健保
0 - 4	10.34	11.08	△ 0.74 (△6.65%)	加入者1人当たり日数(日)	7.81	7.70	7.88	7.30	7.36
5 - 9	8.17	7.99	0.18 (2.21%)	差(日)		△ 0.11	0.18	△ 0.58	0.06
10 - 14	6.29	6.30	△ 0.01 (△0.13%)	寄与率(%)		24.68	△ 39.91	128.74	△ 13.51
15 - 19	4.84	4.72	0.12 (2.50%)	寄与度(%)		1.51	△ 2.44	7.86	△ 0.82
20 - 24	4.01	4.08	△ 0.07 (△1.80%)	年齢構成内訳					
25 - 29	4.35	4.79	△ 0.44 (△9.11%)						
30 - 34	5.12	5.40	△ 0.28 (△5.23%)						
35 - 39	5.46	5.65	△ 0.19 (△3.38%)						
40 - 44	5.60	6.10	△ 0.50 (△8.13%)						
45 - 49	6.51	7.03	△ 0.52 (△7.40%)						
50 - 54	8.45	8.69	△ 0.24 (△2.73%)	年齢構成内訳					
55 - 59	10.13	10.26	△ 0.13 (△1.33%)						
60 - 64	12.12	12.08	0.04 (0.35%)						
65 - 69	14.85	14.55	0.30 (2.07%)						
70 - 74	19.98	17.76	2.22 (12.48%)						
全 体	7.81	7.36	0.45 (6.11%)	加入者1人当たり日数(日)	7.55	7.48	7.48	7.30	
全 体 (調整後)	7.30	7.36	△ 0.06 (△0.82%)	差(日)	△ 0.33	△ 0.07	△ 0.00	△ 0.18	
				寄与率(%)	73.51	16.05	0.06	39.13	
				寄与度(%)	4.49	0.98	0.00	2.39	

（図-42）年齢階級別1人当たり日数：医科入院外（令和2年度）



③入院外 1 日当たり医療費

令和 3 年度における入院外 1 日当たり医療費は9,438円であり、前年度と比較して3.78%増加している。このうち70歳未満の組合員は10,542円、家族は8,354円であり、前年度と比較して組合員は3.07%、家族は5.31%それぞれ増加している。

平成29年度からの推移をみると、組合員、家族ともに増加傾向にあるが、令和 2 年度の増加率は特に高い。これは、コロナ禍において軽症患者が受診を控えたことで重症患者の割合が増加し診療単価が上昇したことや、一度の受診で多くの医療を受けたことなどが推察されるが、3 年度についても同様の傾向が続いていると見られる。

入院外 1 日当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が高く（組合員925円（9.61%）、家族320円（3.99%））、特に組合員の差が大きくなっている。

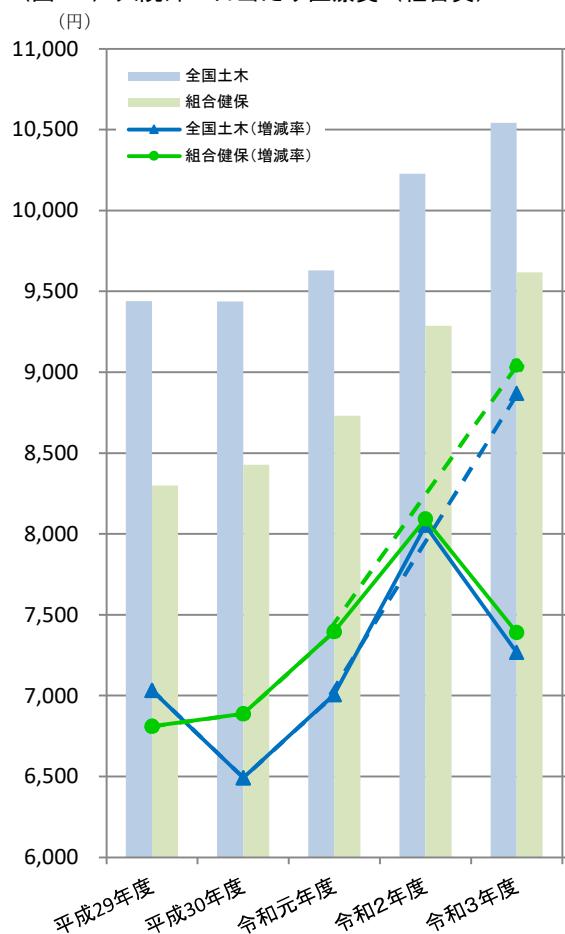
（表-30）入院外 1 日当たり医療費

（円、%）

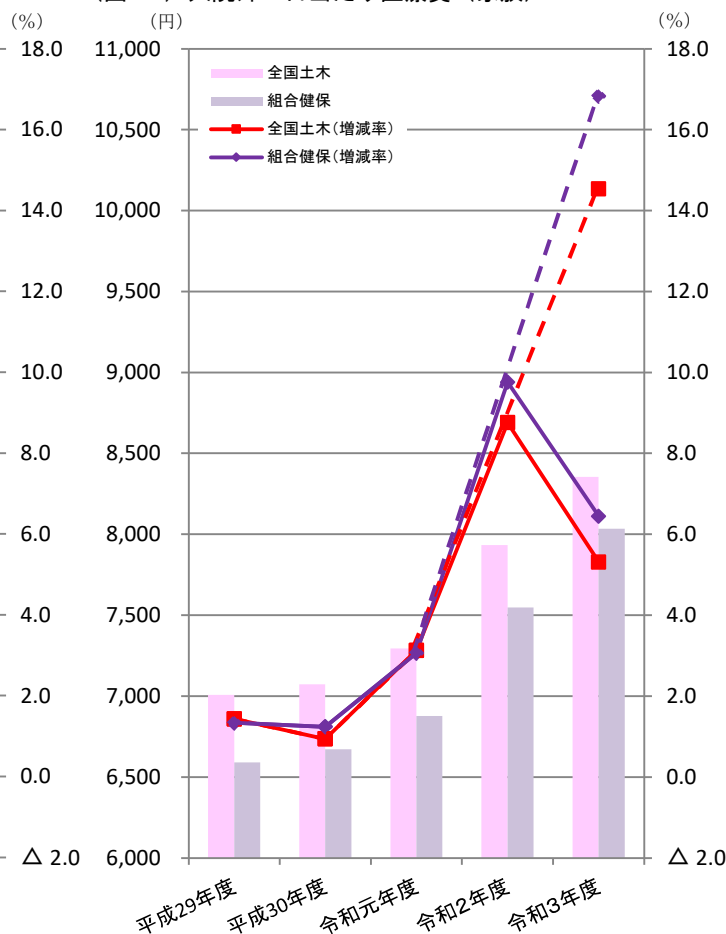
	全 国 土 木						組 合 健 保					
	対前年度 増 減 率		組 合 員		家 族		対前年度 増 減 率		被 保 険 者		被 扶 養 者	
平成29年度	8,062	2.16	9,440	2.13	7,007	1.44	7,478	1.63	8,299	1.24	6,590	1.34
平成30年度	8,127	0.80	9,438	△ 0.03	7,073	0.94	7,605	1.70	8,428	1.55	6,672	1.24
令和元年度	8,380	3.11	9,629	2.03	7,294	3.13	7,878	3.59	8,730	3.59	6,876	3.07
令和 2 年度	9,095	8.53	10,227	6.21	7,933	8.76	8,556	8.61	9,287	6.37	7,548	9.76
令和 3 年度	9,438	3.78 (12.63)	10,542	3.07 (9.48)	8,354	5.31 (14.54)	8,941	4.50 (13.50)	9,617	3.56 (10.16)	8,034	6.45 (16.84)
組合健保との 差（率）	497 (5.56%)	△ 0.72 ^P	925 (9.61%)	△ 0.49 ^P	320 (3.99%)	△ 1.14 ^P	出典：令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

※令和 3 年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナウイルス感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

（図-43）入院外 1 日当たり医療費（組合員）



（図-44）入院外 1 日当たり医療費（家族）



※破線は対令和元年度の増減率である。

令和2年度の年齢階級別入院外1日当たり医療費を組合健保と比較すると、35歳から39歳及び50歳以上70歳未満の年齢階級で全国土木の方がやや高く、全体では9,095円と組合健保（8,556円）より539円（6.29%）高くなっている。

加入者構成比を組合健保と揃えて計算すると、8,625円となる。加入者構成の違いによる差が470円（5.48%）であり、これを調整した後は組合健保との差は69円（0.81%）となる。

全国土木と組合健保の1日当たり医療費の差を100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が77.88%である。

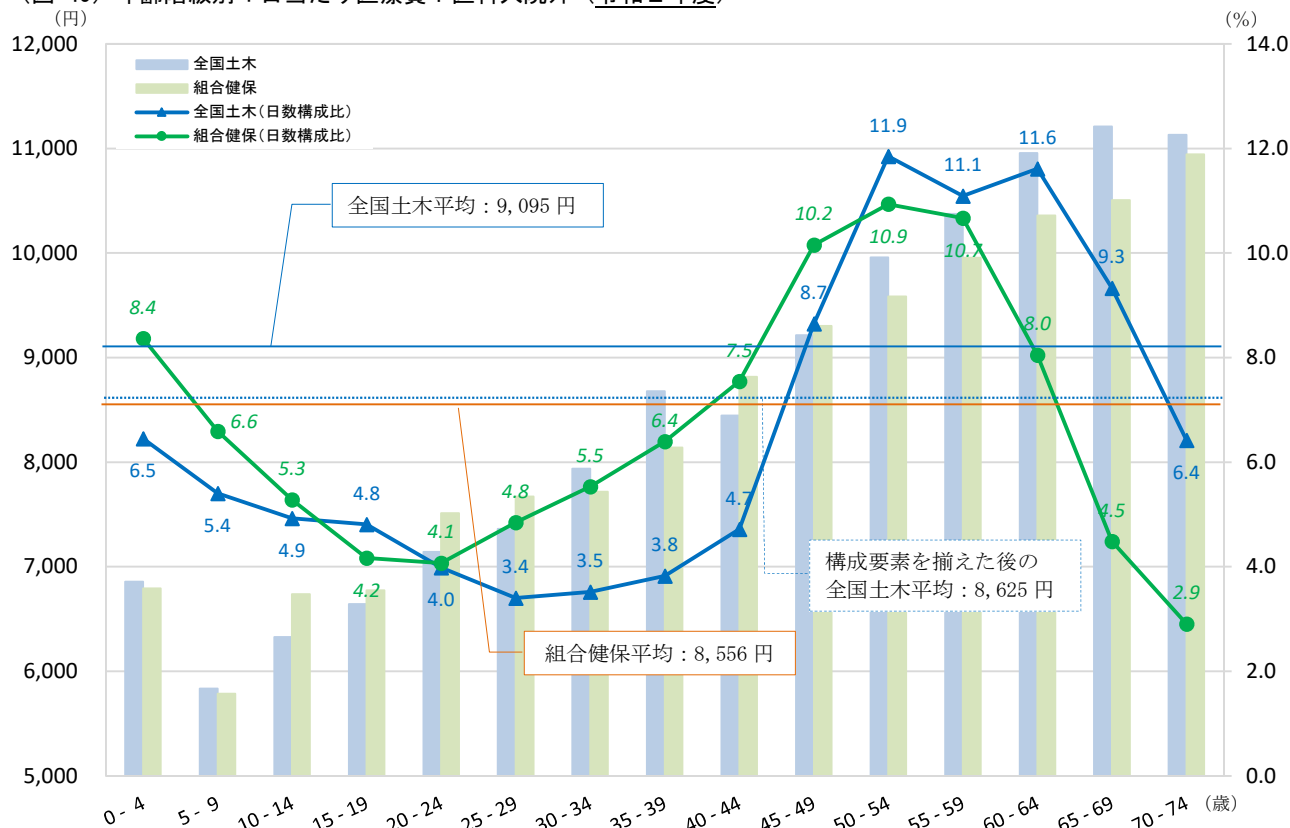
全国土木は、医療費単価の高い60歳以上の年齢階級の割合が多いため全体の1日当たり医療費が高くなっているが、これを調整した後の医療費水準は組合健保と同程度と言える。

（表-31）年齢階級別1日当たり医療費：医科入院外（令和2年度）

年齢階級	1日当たり医療費			順次、組合健保と同じにすると					
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他医療費等	組合健保
加入者1日当たり医療費（円）	9,095	8,556	539 (6.29%)	9,095	9,301	9,045	8,625	8,556	8,556
差（円）					206	△ 256	△ 419	△ 69	△ 538
寄与率（%）					△ 38.33	47.60	77.88	12.85	100.00
寄与度（%）					△ 2.41	2.99	4.90	0.81	6.29

年齢構成内訳				
	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者1日当たり医療費（円）	8,914	8,881	8,760	8,625
差（円）	△ 130	△ 33	△ 121	△ 135
寄与率（%）	24.24	6.17	22.49	24.99
寄与度（%）	1.52	0.39	1.42	1.57

（図-45）年齢階級別1日当たり医療費：医科入院外（令和2年度）



(9) 歯科

①歯科 1人当たり医療費

令和3年度における歯科1人当たり医療費は22,093円であり、前年度と比較して5.59%増加している。このうち70歳未満の組合員は22,316円、家族は21,116円であり、前年度と比較して組合員は4.82%、家族は6.12%それぞれ増加している。

平成29年度からの推移をみると、組合員、家族ともに増加傾向にあり、新型コロナウイルス感染症の影響があった令和2年度についても、他の診療区分と異なり組合員は増加し、家族は微減に留まっている。

歯科1人当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が高くなっている（組合員650円（3.00%）、家族1,317円（6.65%））。これは、後述のとおり組合員については1日当たり医療費が、家族については1人当たり日数がそれぞれ組合健保より高いことによる。

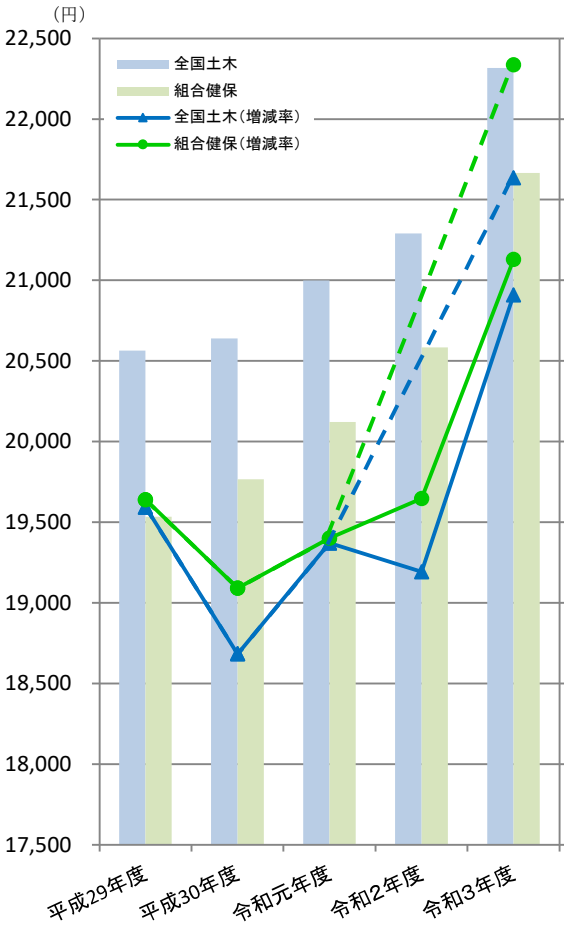
(表-32) 歯科 1人当たり医療費

(円、%)

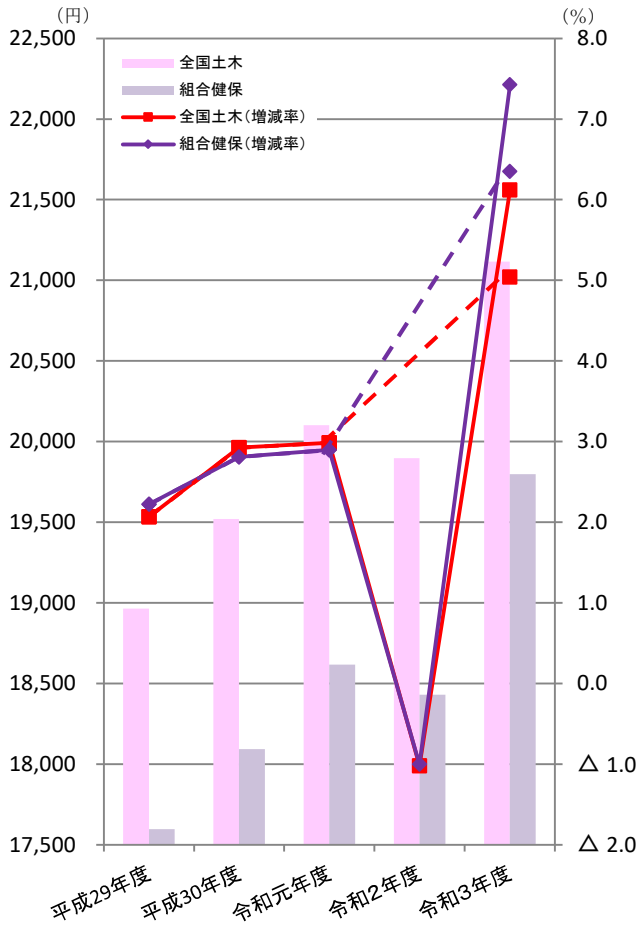
	全 国 土 木						組 合 健 保					
		対前年度 増減率	組 合 員		家 族			対前年度 増減率	被 保 険 者		被 扶 養 者	
			対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率			対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率
平成29年度	20,000	2.41	20,564	2.19	18,965	2.07	18,848	2.33	19,534	2.28	17,598	2.22
平成30年度	20,360	1.80	20,639	0.37	19,520	2.92	19,213	1.94	19,766	1.18	18,092	2.81
令和元年度	20,882	2.57	20,999	1.74	20,103	2.99	19,654	2.29	20,122	1.80	18,616	2.90
令和2年度	20,923	0.20	21,290	1.39	19,898	△ 1.02	19,841	0.95	20,583	2.29	18,430	△ 1.00
令和3年度	22,093	5.59 (5.80)	22,316	4.82 (6.27)	21,116	6.12 (5.04)	21,071	6.20 (7.21)	21,666	5.26 (7.67)	19,799	7.43 (6.35)
組合健保との 差(率)	1,022 (4.85%)	△ 0.61 P	650 (3.00%)	△ 0.44 P	1,317 (6.65%)	△ 1.31 P	出典：令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

※令和3年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナウイルス感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

(図-46) 歯科 1人当たり医療費（組合員）



(図-47) 歯科 1人当たり医療費（家族）



※破線は対令和元年度の増減率である。

令和2年度における歯科の年齢階級別1人当たり医療費を組合健保と比較すると、全国土木の方が0歳から4歳の年齢階級で1,308円(13.77%)低く、70歳から74歳の年齢階級で4,255円(12.47%)高いが、その他の年齢階級では組合健保とあまり差はない。全体では、全国土木(20,915円)が組合健保(19,834円)より1,081円(5.45%)高い。

全国土木の歯科1人当たり医療費を、本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えて計算すると20,206円となる。加入者構成の違いによる差が709円(3.57%)であり、これを調整した後の組合健保との差は372円、率にして1.87%となる。

全国土木と組合健保の1人当たり医療費の差を100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が103.37%と元の差を超えており、特に「本人：男性」と「家族：女性」の年齢構成の違いによる影響がそれぞれ47.08%、37.46%と大きい。

全国土木は、主に医療費の高い高齢者の人数割合が多いために全体の1人当たり医療費が高くなっているが、医療費水準は組合健保より約2%高い程度である。

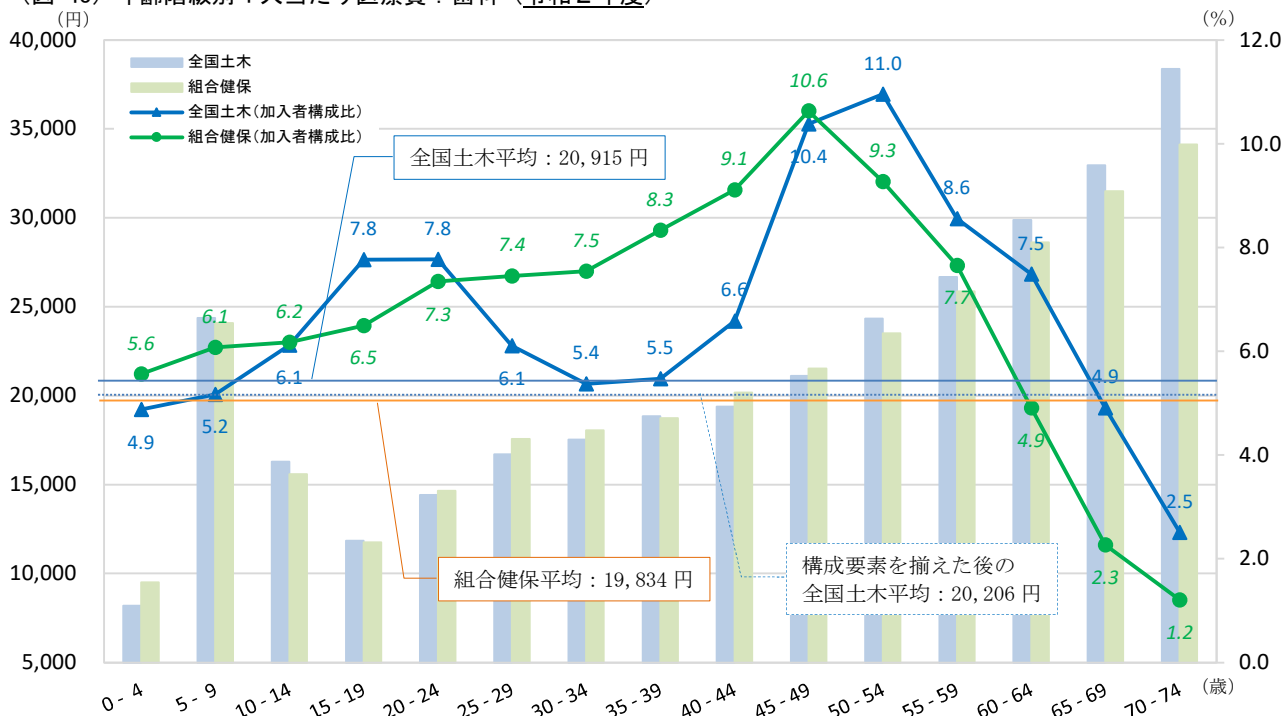
(表-33) 年齢階級別1人当たり医療費：歯科(令和2年度)

年齢階級	1人当たり医療費			順次、組合健保と同じにすると					
	全国土木	組合健保	組合健保との差(率)	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他医療費等	組合健保
0-4	8,196	9,504	△1,308 (△13.77%)	20,915	21,023	21,323	20,206	19,834	19,834
5-9	24,369	24,074	295 (1.22%)		108	300	△1,117	△372	△1,080
10-14	16,296	15,588	708 (4.54%)						
15-19	11,843	11,760	83 (0.71%)		△10.04	△27.73	103.37	34.39	100.00
20-24	14,419	14,651	△232 (△1.58%)		△0.55	△1.51	5.63	1.87	5.45
25-29	16,708	17,558	△850 (△4.84%)						
30-34	17,525	18,046	△521 (△2.89%)						
35-39	18,848	18,729	119 (0.64%)						
40-44	19,381	20,177	△796 (△3.94%)						
45-49	21,103	21,525	△422 (△1.96%)						
50-54	24,332	23,496	836 (3.56%)						
55-59	26,665	25,868	797 (3.08%)						
60-64	29,877	28,624	1,253 (4.38%)						
65-69	32,954	31,502	1,452 (4.61%)						
70-74	38,379	34,124	4,255 (12.47%)						
全体	20,915	19,834	1,081 (5.45%)						
全体	20,206	19,834	372 (1.87%)						

	年齢構成内訳			
	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者1人当たり医療費(円)	20,814	20,677	20,611	20,206
差(円)	△509	△137	△67	△405
寄与率(%)	47.08	12.67	6.16	37.46
寄与度(%)	2.56	0.69	0.34	2.04

※組合健保の入院時食事・生活療養費を医科歯科別、本人家族別、男女別、年齢階級別に区分できないため、入院時食事・生活療養費を除いている。

(図-48) 年齢階級別1人当たり医療費：歯科(令和2年度)



②歯科 1人当たり日数

令和3年度における歯科1人当たり日数は2.78日であり、前年度と比較して3.32%増加している。このうち70歳未満の組合員は2.76日、家族は2.71日であり、前年度と比較して組合員は2.61%、家族は3.69%それぞれ増加している。

平成29年度からの推移をみると、組合員、家族ともに大きな変動はなかったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため前年度から大幅に減少し、3年度はその反動のため増加している。

歯科1人当たり日数を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木がやや多くなっている（組合員0.01日（0.45%）、家族0.15日（5.87%））。

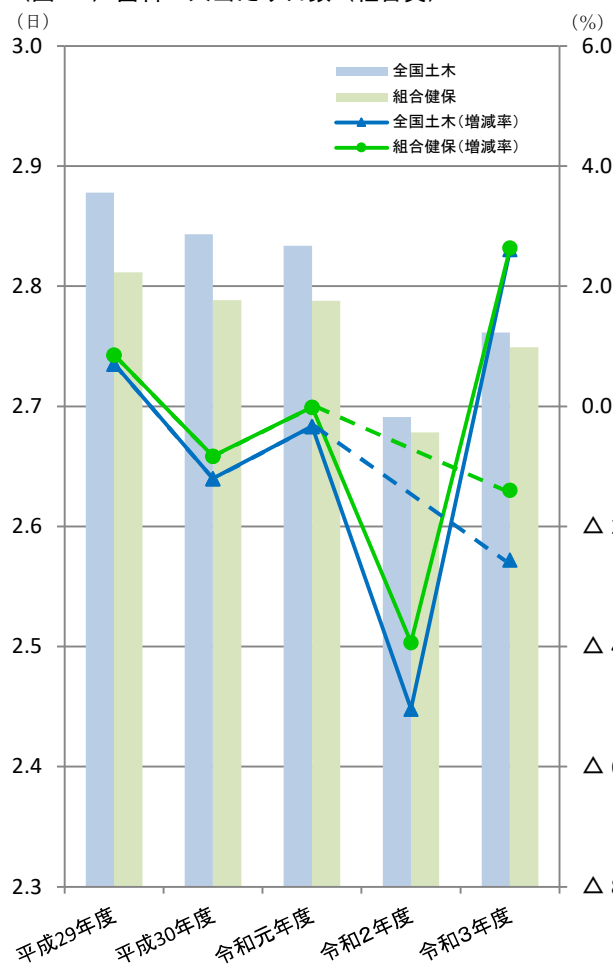
（表-34）歯科1人当たり日数

（日、%）

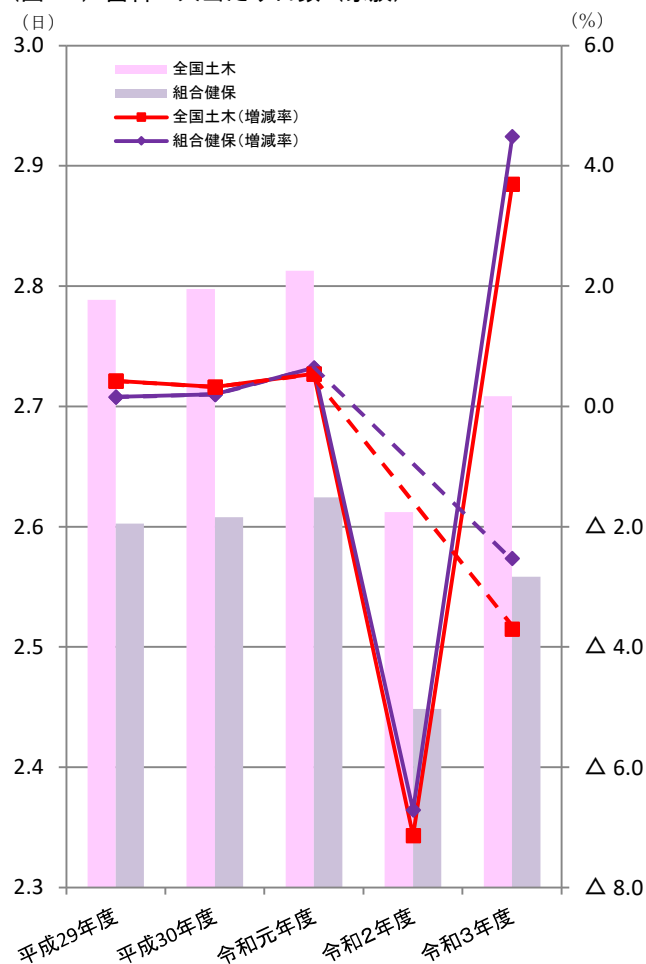
	全 国 土 木						組 合 健 保					
		組 合 員		家 族				被 保 険 者		被 扶 養 者		
		対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率			対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	
平成29年度	2.87	0.80	2.88	0.71	2.79	0.42	2.74	0.63	2.81	0.86	2.60	0.16
平成30年度	2.86	△ 0.30	2.84	△ 1.20	2.80	0.32	2.74	△ 0.32	2.79	△ 0.83	2.61	0.20
令和元年度	2.87	0.28	2.83	△ 0.33	2.81	0.54	2.74	0.31	2.79	△ 0.01	2.62	0.64
令和2年度	2.70	△ 6.09	2.69	△ 5.04	2.61	△ 7.13	2.60	△ 5.10	2.68	△ 3.93	2.45	△ 6.71
令和3年度	2.78	3.32 (△2.98)	2.76	2.61 (△2.55)	2.71	3.69 (△3.70)	2.69	3.47 (△1.81)	2.75	2.64 (△1.39)	2.56	4.49 (△2.52)
組合健保との 差（率）	0.09 (3.35%)	△ 0.15 ^P	0.01 (0.45%)	△ 0.03 ^P	0.15 (5.87%)	△ 0.80 ^P	出典：令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

※令和3年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナウイルス感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

（図-49）歯科1人当たり日数（組合員）



（図-50）歯科1人当たり日数（家族）



※破線は対令和元年度の増減率である。

令和2年度の年齢階級別歯科1人当たり日数を組合健保と比較すると、全国土木の方が0歳から4歳の年齢階級で少なく、70歳から74歳の年齢階級で多くなっているが、その他の年齢階級では組合健保と大きな差はなく、全体では2.70日と組合健保(2.60日)より0.10日(3.50%)多くなっている。

加入者構成を組合健保と揃えて計算すると、2.61日となる。加入者構成の違いによる差が0.09日(3.15%)であり、これを調整した後の組合健保との差は0.01日(0.35%)となる。

全国土木と組合健保の1人当たり日数の差を100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が151.49%である。

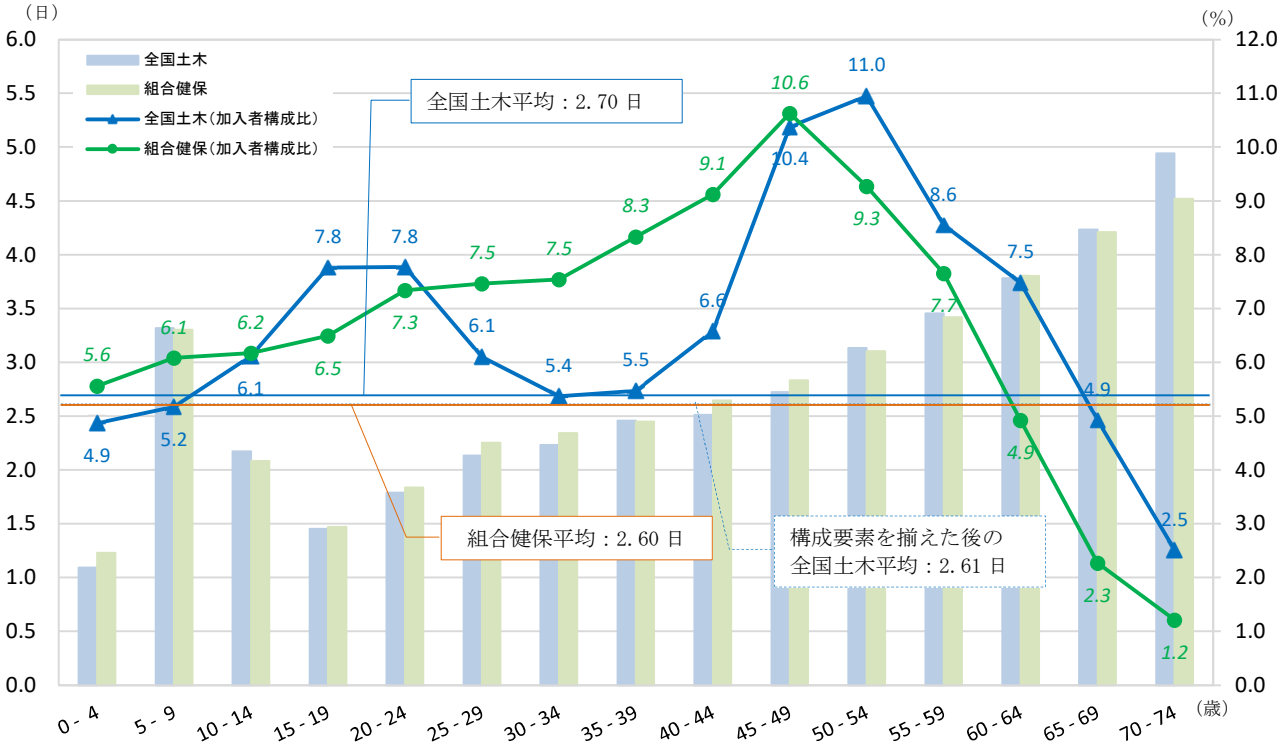
全国土木は、日数の多い50歳以上の人数割合が多いために全体の1人当たり日数が多くなっているが、日数水準は組合健保とほぼ同程度と言える。

(表-35) 年齢階級別1人当たり日数：歯科(令和2年度)

年齢階級	1人当たり日数				順次、組合健保と同じにすると					
	全国土木	組合健保	組合健保との差(率)		全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他日数等	組合健保
0 - 4	1.09	1.23	△ 0.14	(△11.18%)	2.70	2.70	2.75	2.61	2.60	2.60
5 - 9	3.32	3.30	0.02	(0.50%)		0.01	0.05	△ 0.14	△ 0.01	△ 0.09
10 - 14	2.17	2.08	0.09	(4.36%)						
15 - 19	1.45	1.47	△ 0.02	(△1.24%)		△ 5.79	△ 55.71	151.49	10.01	100.00
20 - 24	1.79	1.84	△ 0.05	(△2.66%)						
25 - 29	2.13	2.25	△ 0.12	(△5.28%)		△ 0.20	△ 1.95	5.30	0.35	3.50
30 - 34	2.23	2.34	△ 0.11	(△4.75%)						
35 - 39	2.46	2.45	0.01	(0.39%)						
40 - 44	2.51	2.65	△ 0.14	(△5.05%)						
45 - 49	2.72	2.83	△ 0.11	(△3.88%)						
50 - 54	3.13	3.10	0.03	(0.94%)						
55 - 59	3.45	3.42	0.03	(1.02%)						
60 - 64	3.78	3.80	△ 0.02	(△0.51%)						
65 - 69	4.23	4.21	0.02	(0.59%)						
70 - 74	4.94	4.52	0.42	(9.33%)						
全 体	2.70	2.60	0.10	(3.50%)						
全 体 (調整後)	2.61	2.60	0.01	(0.35%)						

年齢構成内訳				
	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者1人当たり 日数(日)	2.69	2.67	2.67	2.61
差(日)	△ 0.06	△ 0.02	△ 0.01	△ 0.05
寄与率(%)	68.19	20.37	5.51	57.43
寄与度(%)	2.39	0.71	0.19	2.01

(図-51) 年齢階級別1人当たり日数：歯科(令和2年度)



③歯科 1 日当たり医療費

令和 3 年度における歯科 1 日当たり医療費は7,935円であり、前年度と比較して2.20%増加している。このうち70歳未満の組合員は8,081円、家族は7,796円であり、前年度と比較して組合員は2.15%、家族は2.34%それぞれ増加している。

平成29年度からの推移をみると、組合員、家族ともに増加傾向にあるが、令和 2 年度の増加率は特に高い。これは、コロナ禍において受診頻度が下がった一方で、一度の受診で多くの治療を受け診療単価が上昇したことなどが原因として考えられるが、3 年度についても同様の傾向が続いていると見られる。

歯科 1 日当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木がやや高くなっている（組合員200円（2.54%）、家族57円（0.74%））。

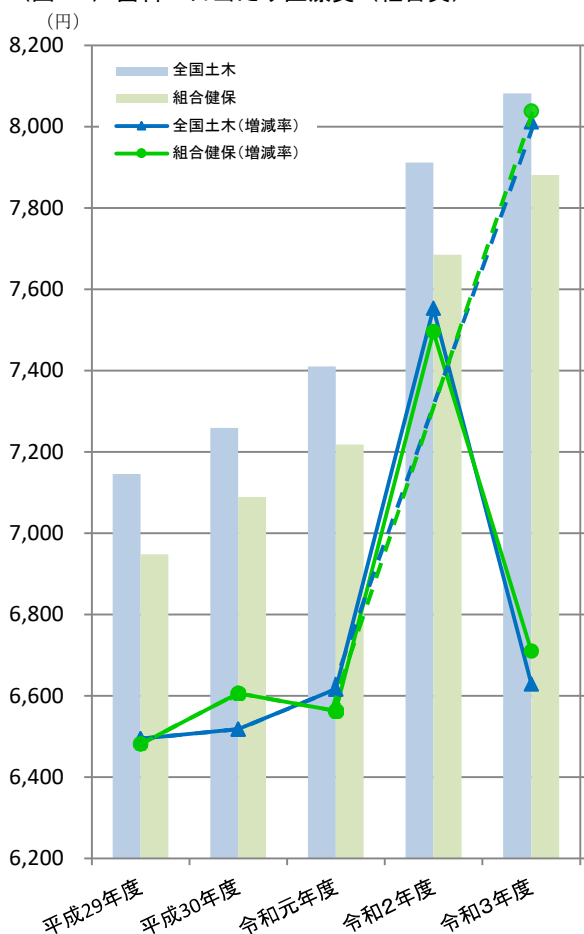
（表-36）歯科 1 日当たり医療費

（円、%）

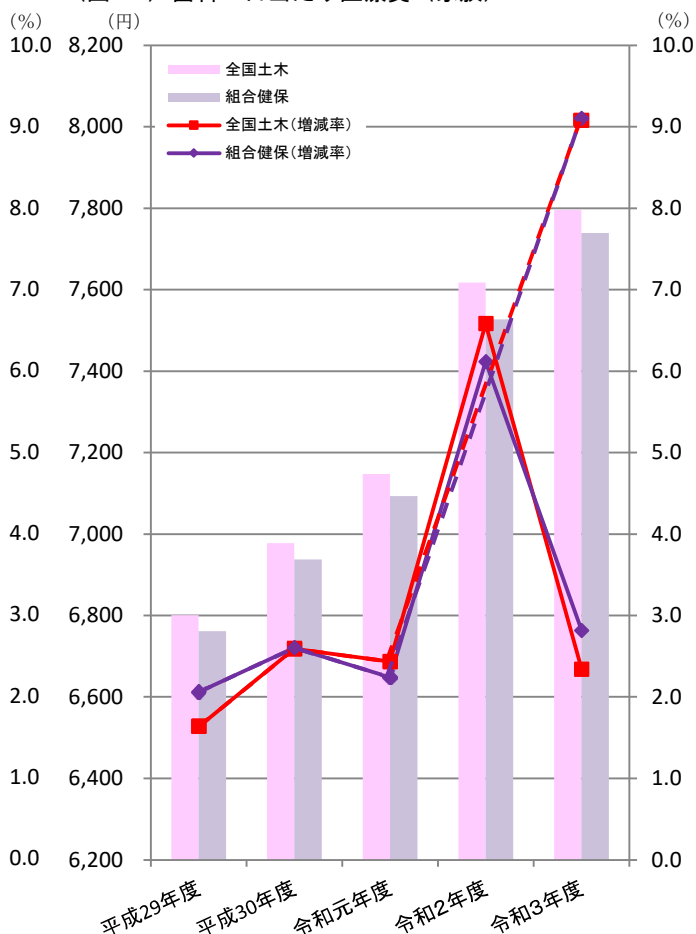
	全 国 土 木						組 合 健 保					
		対前年度 増 減 率	組 合 員		家 族			対前年度 増 減 率	被 保 険 者		被 扶 養 者	
				対前年度 増 減 率		対前年度 増 減 率				対前年度 増 減 率		対前年度 増 減 率
平成29年度	6,968	1.60	7,145	1.47	6,801	1.64	6,868	1.70	6,948	1.41	6,762	2.06
平成30年度	7,114	2.10	7,259	1.59	6,977	2.59	7,024	2.27	7,089	2.03	6,938	2.60
令和元年度	7,277	2.28	7,410	2.08	7,147	2.43	7,163	1.98	7,217	1.81	7,093	2.24
令和 2 年度	7,764	6.69	7,912	6.77	7,618	6.58	7,620	6.38	7,685	6.48	7,527	6.12
令和 3 年度	7,935	2.20 (9.04)	8,081	2.15 (9.06)	7,796	2.34 (9.08)	7,821	2.64 (9.19)	7,881	2.55 (9.19)	7,739	2.81 (9.10)
組合健保との 差（率）	114 (1.45%)	△ 0.44 P	200 (2.54%)	△ 0.40 P	57 (0.74%)	△ 0.47 P	出典：令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

※令和 3 年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナウイルス感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

（図-52）歯科 1 日当たり医療費（組合員）



（図-53）歯科 1 日当たり医療費（家族）



※破線は対令和元年度の増減率である。

令和2年度の年齢階級別歯科1日当たり医療費を組合健保と比較すると、0歳から4歳の年齢階級を除き全国土木の方がやや高いものの、いずれの年齢階級とも大きな差はなく、全体では7,761円と組合健保（7,617円）より144円（1.88%）高くなっている。

加入者構成を組合健保と揃えて計算すると、7,735円となる。加入者構成の違いによる差が26円（0.33%）であり、これを調整した後の組合健保との差は118円（1.55%）となる。

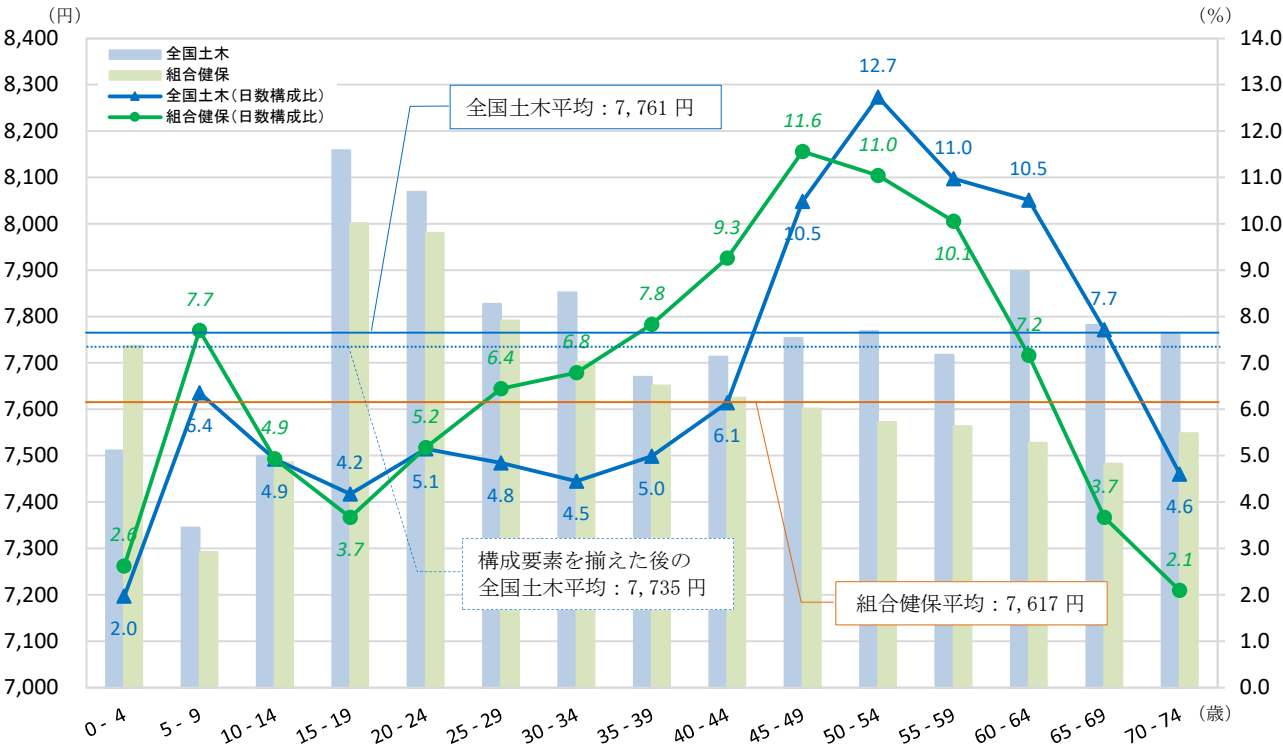
全国土木と組合健保の1日当たり医療費の差を100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が13.47%である一方、その他医療費等の影響が82.41%あり、このことから、全国土木の医療費水準は組合健保よりやや高い傾向にあると言える。

（表-37）年齢階級別1日当たり医療費：歯科（令和2年度）

		1日当たり医療費				順次、組合健保と同じにすると													
		全国土木		組合健保		組合健保との差（率）		全国土木		→本人割合		→男女割合		→年齢構成		→その他医療費等		組合健保	
歳	歳	円	円	円															
0	－	4	7,511	7,737	△ 226	(△2.92%)	加入者1日当たり医療費(円)	7,761	7,790	7,755	7,735	7,617	7,617						
5	－	9	7,345	7,292	53	(0.72%)	差（円）		29	△ 35	△ 19	△ 118	△ 144						
10	－	14	7,499	7,486	13	(0.18%)	寄与率（％）		△ 20.46	24.58	13.47	82.41	100.00						
15	－	19	8,159	8,001	158	(1.97%)	寄与度（％）		△ 0.39	0.46	0.25	1.55	1.89						
20	－	24	8,069	7,980	89	(1.11%)	年齢構成内訳												
25	－	29	7,828	7,791	37	(0.47%)													
30	－	34	7,852	7,702	150	(1.95%)	加入者1日当たり医療費(円)	7,748	7,751	7,739	7,735								
35	－	39	7,670	7,651	19	(0.24%)	差（円）	△ 6	2	△ 11	△ 4								
40	－	44	7,714	7,625	89	(1.16%)	寄与率（％）	4.51	△ 1.61	7.84	2.73								
45	－	49	7,753	7,602	151	(1.99%)	寄与度（％）	0.09	△ 0.03	0.15	0.05								
50	－	54	7,769	7,573	196	(2.59%)													
55	－	59	7,718	7,563	155	(2.04%)													
60	－	64	7,898	7,528	370	(4.91%)													
65	－	69	7,782	7,483	299	(4.00%)													
70	－	74	7,765	7,548	217	(2.87%)													
全 体			7,761	7,617	144	(1.88%)													
全 体 (調整後)			7,735	7,617	118	(1.55%)													

※組合健保の入院時食事・生活療養費を医科歯科別、本人家族別、男女別、年齢階級別に区分できないため、入院時食事・生活療養費を除いている。

（図-54）年齢階級別1日当たり医療費：歯科（令和2年度）



(10) 調剤

①調剤 1 人当たり医療費

令和 3 年度における調剤 1 人当たり医療費は38,438円であり、前年度と比較して5.39%増加している。このうち70歳未満の組合員は38,481円、家族は34,966円であり、前年度と比較して組合員は4.26%、家族は7.26%それぞれ増加している。

平成29年度からの推移をみると、組合員、家族ともに薬価のマイナス改定とその反動のため増減を繰り返している。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり両者とも減少したが、3 年度はその反動で増加しており、特に家族の増加率が高くなっている。

調剤 1 人当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が高くなっており（組合員5,191円（15.59%）、家族2,796円（8.69%））、特に組合員の差が大きくなっている。これは、後述のとおり 1 人当たり回数及び 1 回当たり医療費の両方が組合健保より高いことによるが、組合員、家族ともに 1 回当たり医療費が高いことが特に影響している。

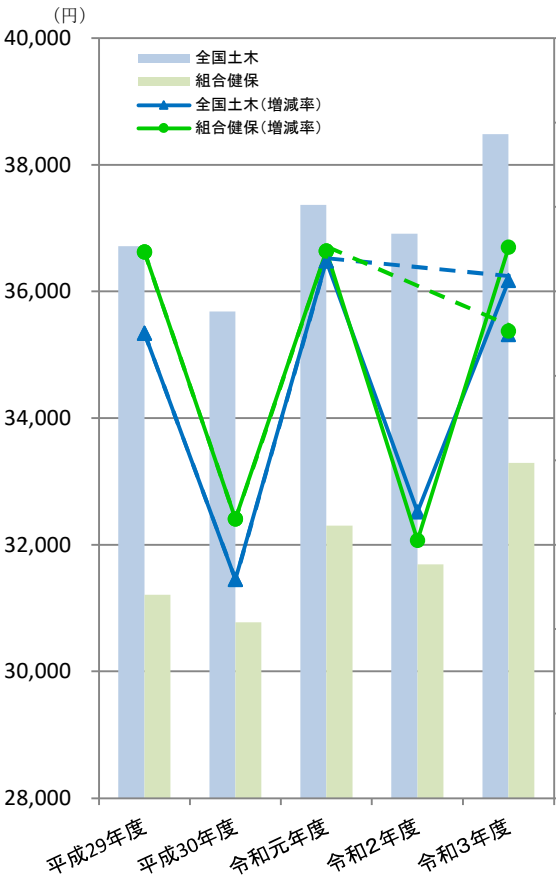
(表-38) 調剤 1 人当たり医療費

(円、%)

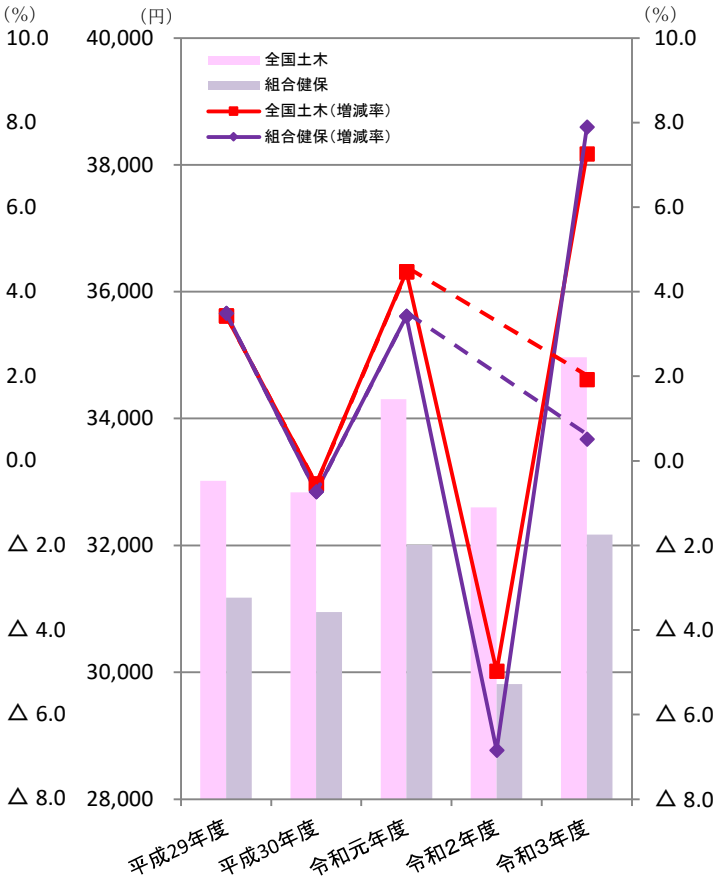
	全 国 土 木						組 合 健 保					
			組 合 員		家 族				被 保 険 者		被 扶 養 者	
			対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率			対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率
平成29年度	36,061	3.33	36,716	3.01	33,021	3.43	31,923	4.22	31,210	4.93	31,176	3.49
平成30年度	35,614	△ 1.24	35,681	△ 2.82	32,839	△ 0.55	31,560	△ 1.14	30,775	△ 1.39	30,949	△ 0.73
令和元年度	37,369	4.93	37,367	4.73	34,306	4.47	32,941	4.38	32,301	4.96	32,007	3.42
令和 2 年度	36,472	△ 2.40	36,910	△ 1.22	32,599	△ 4.98	31,702	△ 3.76	31,690	△ 1.89	29,816	△ 6.85
令和 3 年度	38,438	5.39 (2.86)	38,481	4.26 (2.98)	34,966	7.26 (1.92)	33,664	6.19 (2.19)	33,290	5.05 (3.06)	32,170	7.90 (0.51)
組合健保との 差 (率)	4,774 (14.18%)	△ 0.80 ^P	5,191 (15.59%)	△ 0.79 ^P	2,796 (8.69%)	△ 0.64 ^P	出典：令和 2 年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 令和 3 年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

※令和 3 年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナウイルス感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

(図-55) 調剤 1 人当たり医療費（組合員）



(図-56) 調剤 1 人当たり医療費（家族）



※破線は対令和元年度の増減率である。

令和2年度における調剤の年齢階級別1人当たり医療費を組合健保と比較すると、全国土木の方が50歳未満の年齢階級で低く、50歳以降の年齢階級で高くなっており、医科入院外と概ね同様の傾向にある。全体では、全国土木(36,472円)が組合健保(31,702円)より4,770円(15.04%)高い。

全国土木の調剤1人当たり医療費を、本人割合、男女割合、年齢構成を組合健保と揃えて計算すると31,966円となる。加入者構成の違いによる差が4,506円(14.21%)であり、これを調整した後の組合健保との差は264円、率にして0.83%となる。

全国土木と組合健保の1人当たり医療費の差を100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が93.81%と大きい。

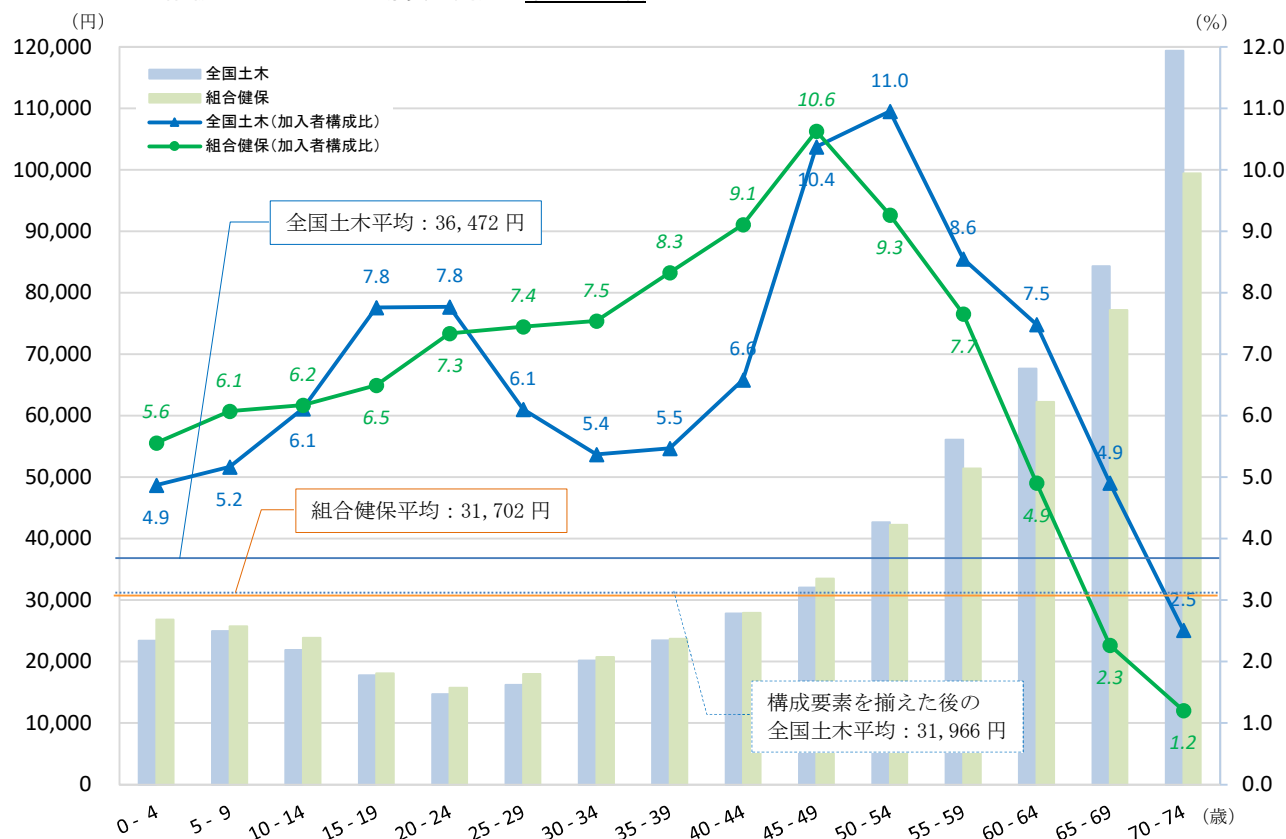
このことから、全国土木は主に医療費の高い高齢者の人数割合が多いために1人当たり医療費が高くなっているが、医療費水準は組合健保とほぼ同程度と言える。

(表-39) 年齢階級別1人当たり医療費：調剤（令和2年度）

年齢階級	1人当たり医療費			順次、組合健保と同じにすると				
	全国土木	組合健保	組合健保との差(率)	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他医療費等
加入者1人当たり医療費(円)	36,472	31,702	△ 4,770 (15.04%)	36,472	36,775	36,440	31,966	31,702
差(円)					304	△ 336	△ 4,474	△ 263
寄与率(%)					△ 6.37	7.04	93.81	5.52
寄与度(%)					△ 0.96	1.06	14.11	0.83

年齢階級	年齢構成内訳			
	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者1人当たり医療費(円)	34,289	33,910	33,360	31,966
差(円)	△ 2,150	△ 379	△ 550	△ 1,395
寄与率(%)	45.09	7.95	11.52	29.24
寄与度(%)	6.78	1.20	1.73	4.40

(図-57) 年齢階級別1人当たり医療費：調剤（令和2年度）



②調剤1人当たり回数

令和3年度における調剤1人当たり回数は4.55回であり、前年度と比較して7.91%増加している。このうち70歳未満の組合員は3.93回、家族は4.89回であり、前年度と比較して組合員は4.84%、家族は10.90%それぞれ増加している。

平成29年度からの推移をみると、組合員、家族ともに増加率は逡減しているものの若干の増加傾向にあったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため元年度から大幅に減少した。3年度はその反動で増加しており、特に家族の増加率が高い。

調剤1人当たり回数を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木がやや多くなっている（組合員0.12回（3.01%）、家族0.04回（0.98%））。このうち家族については、元年度までは全国土木の方が少なかったが2年度に逆転しており、新型コロナウイルス感染症の影響のためと推察される。

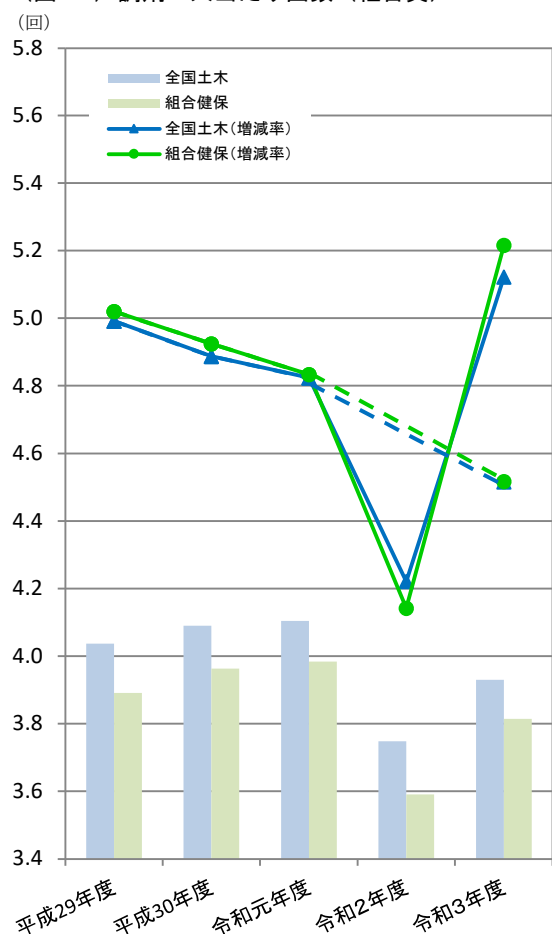
（表-40）調剤1人当たり回数

（回、%）

	全 国 土 木						組 合 健 保					
		対前年度 増 減 率	組 合 員		家 族			対前年度 増 減 率	被 保 険 者		被 扶 養 者	
			対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率			対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率	対前年度 増 減 率
平成29年度	4.79	1.75	4.04	2.88	5.26	1.33	4.64	1.33	3.89	3.31	5.47	0.22
平成30年度	4.86	1.39	4.09	1.31	5.34	1.54	4.69	1.18	3.96	1.86	5.52	0.95
令和元年度	4.84	△ 0.33	4.10	0.36	5.29	△ 0.81	4.67	△ 0.56	3.98	0.51	5.43	△ 1.63
令和2年度	4.22	△ 12.84	3.75	△ 8.68	4.41	△ 16.62	3.96	△ 15.09	3.59	△ 9.86	4.31	△ 20.55
令和3年度	4.55	7.91 (△5.95)	3.93	4.84 (△4.26)	4.89	10.90 (△7.53)	4.31	8.89 (△7.54)	3.81	6.24 (△4.24)	4.85	12.34 (△10.74)
組合健保との 差（率）	0.24 (5.55%)	△ 0.98	0.12 (3.01%)	△ 1.40	0.04 (0.98%)	△ 1.44	出典：令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

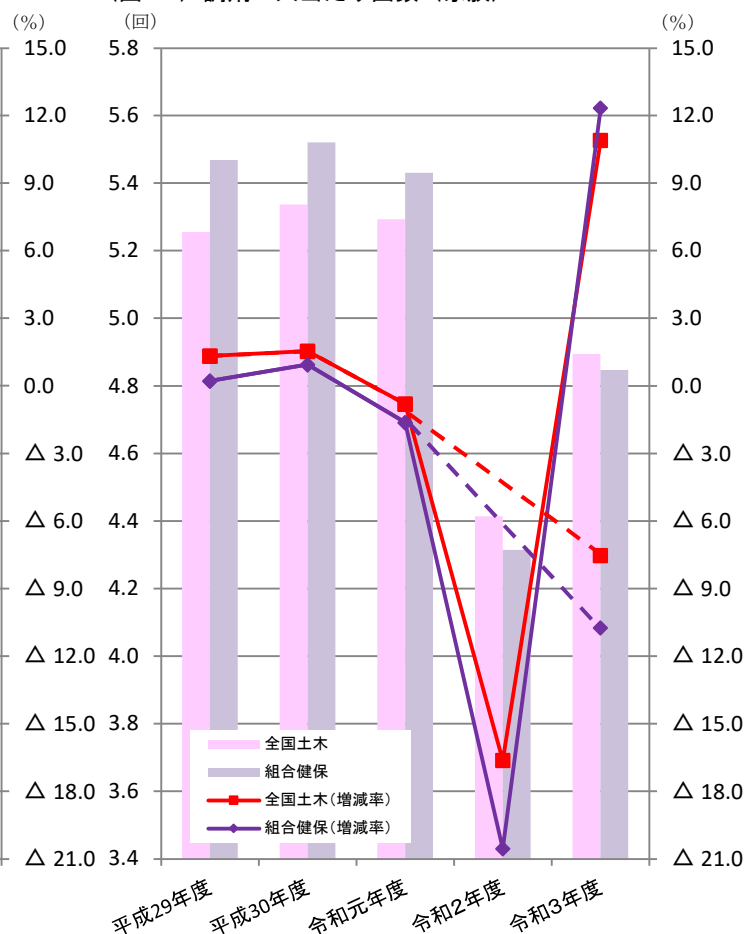
※令和3年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナウイルス感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

（図-58）調剤1人当たり回数（組合員）



※破線は対令和元年度の増減率である。

（図-59）調剤1人当たり回数（家族）



令和2年度の年齢階級別調剤1人当たり回数を組合健保と比較すると、5歳以上20歳未満及び60歳以上の年齢階級で全国土木の方が多くっており、全体では4.22回と組合健保（3.96回）より0.26回（6.50%）多い。

加入者構成を組合健保と揃えて計算すると、3.95回となる。加入者構成の違いによる差が0.27回（6.71%）であり、これを調整した後は組合健保より0.01回（0.21%）少なくなる。

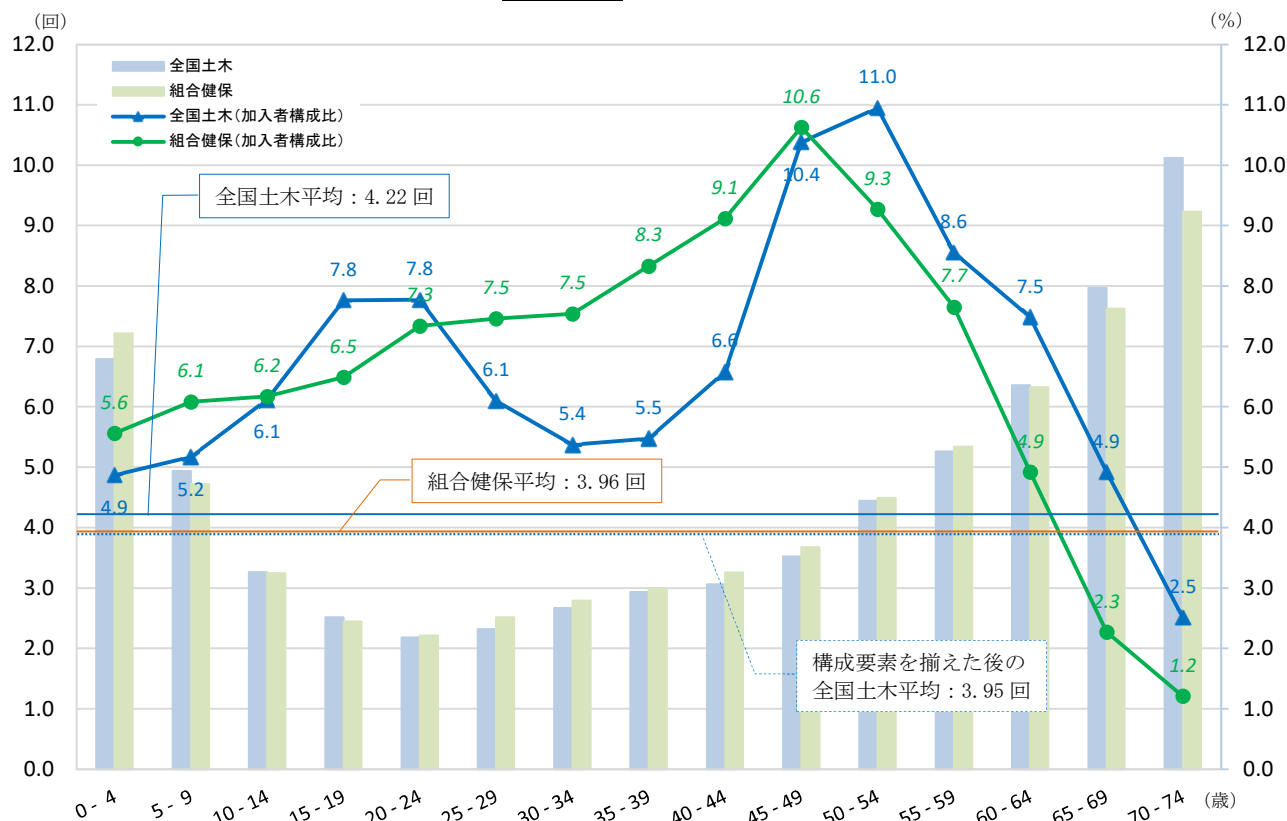
全国土木と組合健保の1人当たり回数の差を100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が102.79%である。

全国土木は、回数の多い50歳以上の人数割合が多いために全体の1人当たり回数が多くになっているが、回数水準は組合健保とほぼ同水準と言える。

（表-41）年齢階級別1人当たり回数：調剤（令和2年度）

年齢階級	1人当たり回数			順次、組合健保と同じにすると					
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他回数等	組合健保
0 - 4	6.79	7.21	△ 0.42 (△5.87%)	加入者1人当たり回数(回)	4.22	4.16	4.22	3.95	3.96
5 - 9	4.94	4.72	0.22 (4.71%)	差(回)		△ 0.06	0.06	△ 0.26	0.01
10 - 14	3.26	3.25	0.01 (0.52%)	寄与率(%)		24.70	△ 24.33	102.79	△ 3.16
15 - 19	2.52	2.44	0.08 (2.93%)	寄与度(%)		1.61	△ 1.58	6.68	△ 0.21
20 - 24	2.18	2.21	△ 0.03 (△1.42%)	年齢構成内訳					
25 - 29	2.32	2.51	△ 0.19 (△7.86%)						
30 - 34	2.67	2.79	△ 0.12 (△4.23%)						
35 - 39	2.93	2.99	△ 0.06 (△2.00%)						
40 - 44	3.06	3.26	△ 0.20 (△5.99%)						
45 - 49	3.52	3.68	△ 0.16 (△4.17%)	加入者1人当たり回数(回)	4.05	4.01	4.03	3.95	
50 - 54	4.44	4.49	△ 0.05 (△1.05%)	差(回)	△ 0.17	△ 0.03	0.02	△ 0.07	
55 - 59	5.26	5.34	△ 0.08 (△1.50%)	寄与率(%)	66.97	13.42	△ 5.87	28.27	
60 - 64	6.36	6.33	0.03 (0.49%)	寄与度(%)	4.35	0.87	△ 0.38	1.84	
65 - 69	7.97	7.62	0.35 (4.54%)						
70 - 74	10.12	9.23	0.89 (9.65%)						
全 体	4.22	3.96	0.26 (6.50%)						
全 体 (調整後)	3.95	3.96	△ 0.01 (△0.21%)						

（図-60）年齢階級別1人当たり回数：調剤（令和2年度）



③調剤1回当たり医療費

令和3年度における調剤1回当たり医療費は8,440円であり、前年度と比較して2.34%減少している。このうち70歳未満の組合員は9,793円、家族は7,144円であり、前年度と比較して組合員は0.55%、家族は3.29%それぞれ減少している。

平成29年度からの推移をみると、組合員、家族ともに薬価のマイナス改定とその反動のため増減を繰り返しているが、令和2年度は前年度から大幅に増加している。これは、コロナ禍において受診頻度が下がった一方で、1回の受診で通常よりも長期間分の薬の処方を受けたことなどが原因として考えられる。3年度は新型コロナ拡大前の元年度と比較しても大きく増加しており、同様の傾向が続いているものと見られる。

調剤1回当たり医療費を組合健保と比較すると、組合員、家族ともに全国土木が高く（組合員1,066円（12.22%）、家族507円（7.63%））、特に組合員の差が大きくなっている。

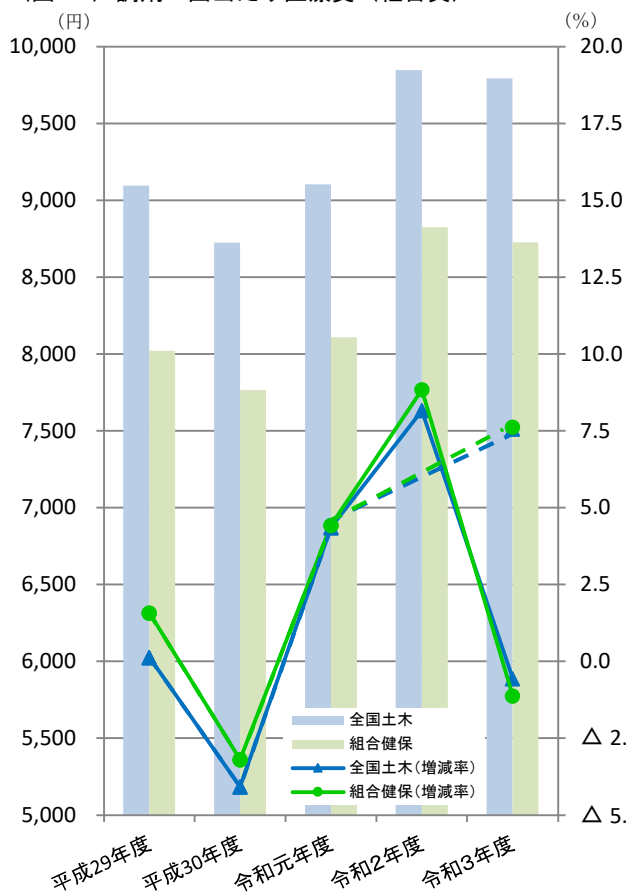
（表-42）調剤1回当たり医療費

（円、%）

	全 国 土 木						組 合 健 保					
			組 合 員		家 族				被 保 険 者		被 扶 養 者	
			対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率			対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率	対前年度 増減率
平成29年度	7,526	1.56	9,095	0.13	6,283	2.07	6,882	2.85	8,021	1.57	5,701	3.26
平成30年度	7,331	△ 2.59	8,725	△ 4.08	6,154	△ 2.06	6,725	△ 2.29	7,765	△ 3.19	5,607	△ 1.66
令和元年度	7,717	5.28	9,104	4.35	6,481	5.32	7,059	4.96	8,109	4.43	5,894	5.13
令和2年度	8,642	11.98	9,848	8.16	7,386	13.97	8,000	13.34	8,826	8.84	6,910	17.24
令和3年度	8,440	△ 2.34 (9.36)	9,793	△ 0.55 (7.56)	7,144	△ 3.29 (10.22)	7,802	△ 2.48 (10.53)	8,727	△ 1.12 (7.62)	6,637	△ 3.96 (12.60)
組合健保との 差（率）	638 (8.18%)	0.14 ^P	1,066 (12.22%)	0.57 ^P	507 (7.63%)	0.67 ^P	出典：令和2年度以前：厚生労働省「健康保険・船員保険事業年報」 令和3年度：厚生労働省「医療保険医療費データベース」					

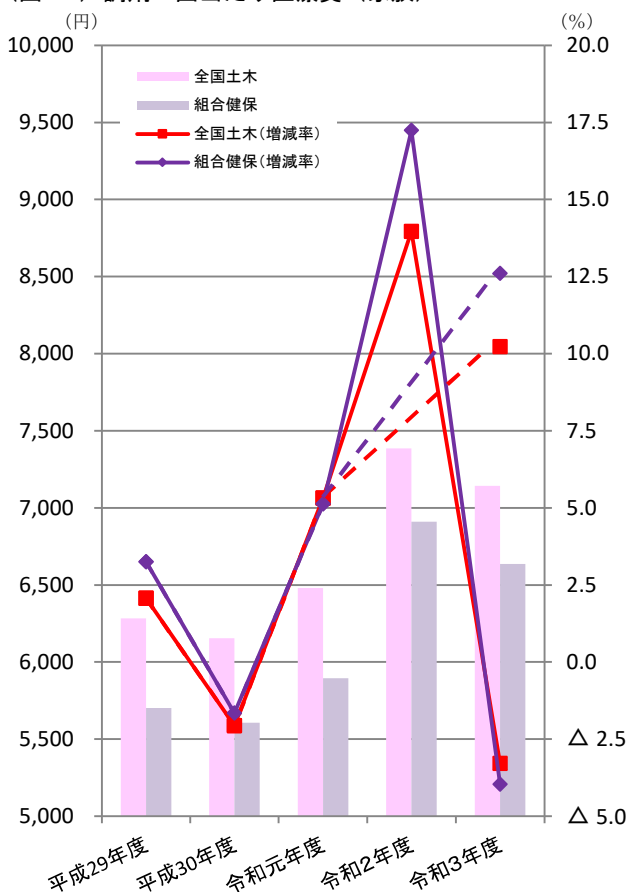
※令和3年度の対前年度増減率の括弧内は、新型コロナ感染拡大前の対令和元年度の増減率を参考に掲載している。

（図-61）調剤1回当たり医療費（組合員）



※破線は対令和元年度の増減率である。

（図-62）調剤1回当たり医療費（家族）



令和2年度の年齢階級別調剤1回当たり医療費を組合健保と比較すると、30歳未満の年齢階級で全国土木の方が低く、30歳以降の年齢階級で全国土木の方が高くなっており、全体では8,642円と組合健保（8,000円）より642円（8.02%）高くなっている。

加入者構成を組合健保と揃えて計算すると、8,066円となる。加入者構成の違いによる差が576円（7.20%）であり、これを調整した後の組合健保との差は66円（0.82%）となる。

全国土木と組合健保の1回当たり医療費の差を100%として要因別の寄与率をみると、年齢構成の違いによる影響が84.58%である。

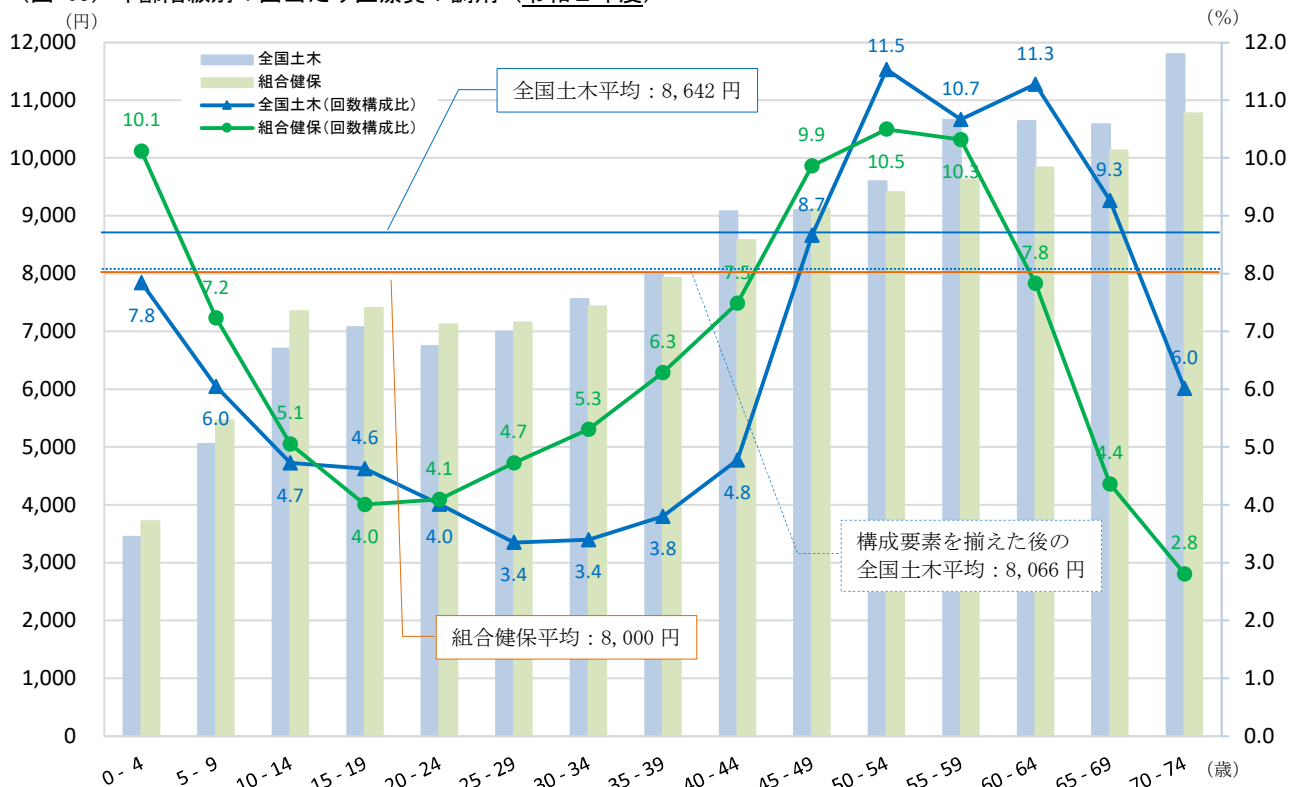
全国土木は、全国土木は主に医療費の高い50歳以上の人数割合が多いために1回当たり医療費が高くなっているが、医療費水準は組合健保とほぼ同程度と言える。

（表-43）年齢階級別1回当たり医療費：調剤（令和2年度）

年齢階級	1回当たり医療費			順次、組合健保と同じにすると					
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）	全国土木	→本人割合	→男女割合	→年齢構成	→その他医療費等	組合健保
加入者1回当たり医療費（円）	8,642	8,442	8,608	8,066	8,000	8,000			
差（円）		200	△234	△543	△65	△642			
寄与率（%）		△31.23	36.44	84.58	10.20	100.00			
寄与度（%）		△2.51	2.92	6.79	0.82	8.02			

年齢構成内訳				
	→本人男	→本人女	→家族男	→家族女
加入者1回当たり医療費（円）	8,477	8,449	8,279	8,066
差（円）	△131	△28	△169	△214
寄与率（%）	20.45	4.40	26.40	33.33
寄与度（%）	1.64	0.35	2.12	2.67

（図-63）年齢階級別1回当たり医療費：調剤（令和2年度）



(11) ジェネリック医薬品の使用状況（数量ベース）

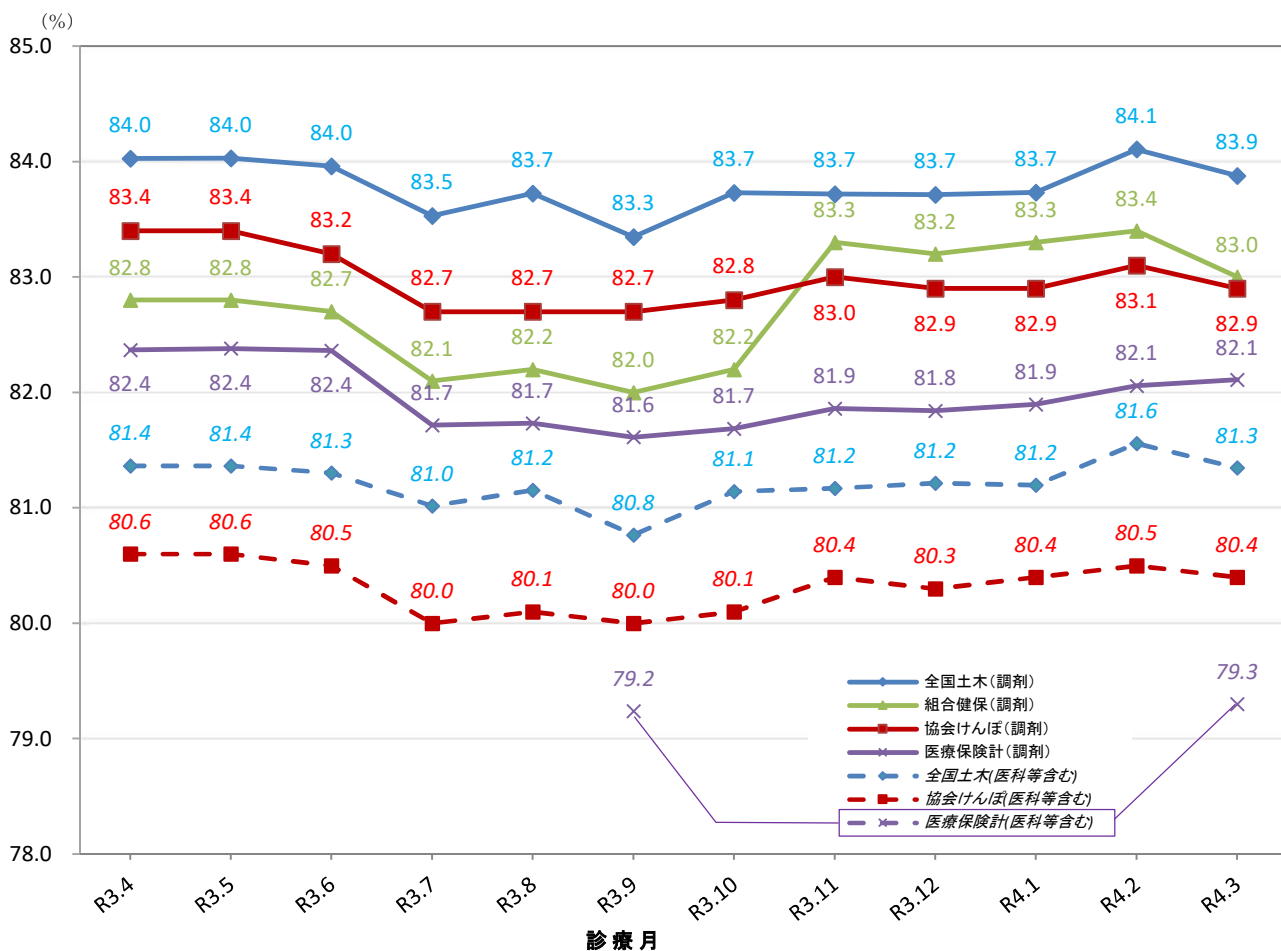
調剤レセプトから令和3年度のジェネリック医薬品の使用状況を月ごとにみると、前月より若干減少する月があるものの全体では横這いとなっており、令和4年3月では83.9%となっている。

4年3月の使用状況を組合健保（83.0%）と比較すると、全国土木が0.9ポイント上回っており、協会けんぽ（82.9%）と比較すると、全国土木が1.0ポイント上回っている。

院内処方分を含めたジェネリック医薬品の使用状況をみると、同様に横這いとなっており、4年3月では81.3%となっている。

4年3月の使用状況を協会けんぽ（80.4%）と比較すると、全国土木が0.9ポイント上回っており、全国平均（79.3%）と比較すると、全国土木が2.0ポイント上回っている。

（図-64）ジェネリック医薬品使用状況（数量ベース）



出典：健康保険組合連合会「令和3年度 調剤医療費の動向に関する調査」
 全国健康保険協会「医薬品使用状況」
 厚生労働省「調剤医療費(電算処理分)の動向」、「保険者別の後発医薬品の使用割合」

- ※1 各保険者の調剤の数値は、電算処理分の調剤レセプト（院外処方により保険薬局が作成する調剤報酬明細書）を集計したものであり、院内処方を含まない。
- ※2 各保険者の医科等を含めた数値は、電算処理分の医科、歯科及び調剤レセプトを集計したものである。
- ※3 全国土木の医科等を含めた数値は、組合独自集計のため、国が公表した値（3年9月：80.3%、4年3月：80.5%）と異なる。

平成25年4月に策定された「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」に基づき、数量シェアを次のとおり算出している。（「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。）

$$\text{後発医薬品の数量シェア} = \frac{\text{後発医薬品の数量}}{(\text{後発医薬品のある先発医薬品の数量} + \text{後発医薬品の数量})}$$

3 疾病の状況

(1) 疾病分類別・年齢階級別医療費

①全体（医科＋歯科）

令和3年度診療分医療費における疾病分類を金額順（歯科の疾患を除く。）にみると、循環器系の疾患（60.6億円）が最も高く、次いで、内分泌、栄養及び代謝疾患（57.7億円）、消化器系の疾患（57億円）の順となっている。

また、上記3疾病で最も高い年齢階級をみると、循環器系の疾患、内分泌、栄養及び代謝疾患では60歳から64歳（循環器系の疾患11.2億円、内分泌、栄養及び代謝疾患9.8億円）、消化器系の疾患では50歳から54歳（8.5億円）となっている。

年齢階級別医療費をみると60歳から64歳（80.2億円）が最も高く、次いで50歳から54歳（79.1億円）、55歳から59歳（75.1億円）の順となっており、この50歳から64歳までの年齢階層が全体の約38%を占めている。

なお、新型コロナウイルス感染症は特殊目的用コードに分類され、同分類に計上された医療費（8.9億円）のほとんどが新型コロナに係る医療費と考えられる。

(表-44) 疾病分類別・年齢階級別医療費 全体（医科＋歯科）

(億円、%)

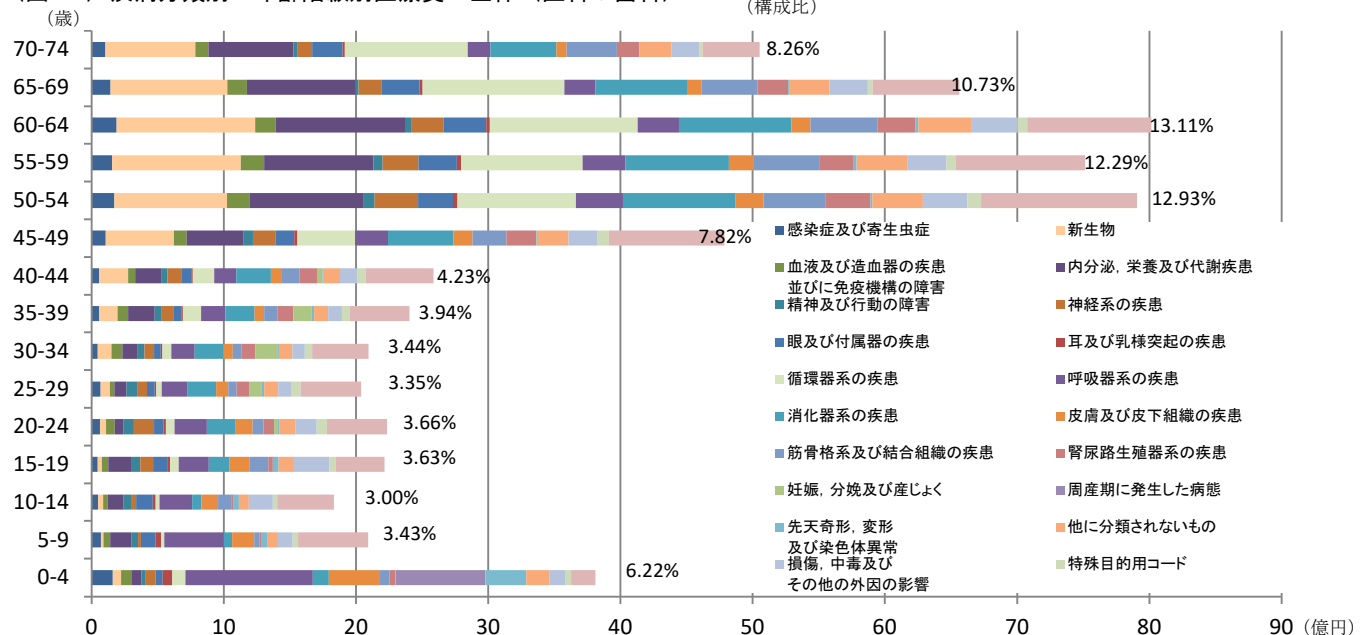
疾病分類	構成比	0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	計	対前年度増減率
1 感染症及び寄生虫症	2.5%	1.6	0.7	0.5	0.5	0.6	0.7	0.5	0.6	0.6	1.1	1.7	1.6	1.9	1.4	1.1	15.0	14.2
2 新生物	9.3%	0.6	0.2	0.4	0.3	0.5	0.7	1.0	1.4	2.2	5.2	8.5	9.7	10.5	8.8	6.8	56.9	4.0
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2.3%	0.8	0.5	0.3	0.5	0.6	0.3	0.8	0.8	0.5	1.0	1.7	1.8	1.6	1.5	1.0	13.7	6.9
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	9.4%	0.7	1.6	1.2	1.7	0.7	0.9	1.2	2.0	2.0	4.3	8.6	8.2	9.8	8.2	6.4	57.7	8.8
5 精神及び行動の障害	1.4%	0.3	0.5	0.5	0.7	0.8	0.8	0.5	0.5	0.4	0.7	0.9	0.7	0.5	0.2	0.3	8.3	△ 0.2
6 神経系の疾患	3.3%	0.8	0.2	0.4	1.0	1.5	0.8	0.7	0.9	1.1	1.7	3.3	2.7	2.5	1.7	1.1	20.2	9.0
7 眼及び付属器の疾患	3.7%	0.5	1.1	1.3	1.1	0.7	0.6	0.5	0.6	0.7	1.4	2.7	2.9	3.2	2.9	2.3	22.5	3.3
8 耳及び乳様突起の疾患	0.6%	0.7	0.4	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	3.8	8.8
9 循環器系の疾患	9.9%	1.0	0.3	0.3	0.7	0.7	0.4	0.7	1.4	1.6	4.4	9.0	9.2	11.2	10.7	9.3	60.6	6.5
10 呼吸器系の疾患	7.4%	9.6	4.5	2.5	2.3	2.5	2.0	1.8	1.8	1.7	2.5	3.6	3.2	3.1	2.4	1.7	45.1	34.8
11 消化器系の疾患	9.3%	1.2	0.6	0.7	1.6	2.2	2.1	2.2	2.2	2.6	5.0	8.5	7.8	8.5	6.9	5.0	57.0	9.8
12 皮膚及び皮下組織の疾患	3.5%	3.9	1.7	1.3	1.5	1.3	0.9	0.7	0.7	0.8	1.5	2.1	1.9	1.5	1.1	0.8	21.5	7.1
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	5.5%	0.7	0.4	1.0	1.4	0.8	0.6	0.7	1.0	1.4	2.6	4.7	5.0	5.1	4.2	3.8	33.4	3.6
14 泌尿路生殖器系の疾患	3.5%	0.4	0.1	0.2	0.3	0.8	0.9	1.0	1.2	1.3	2.3	3.4	2.6	2.9	2.3	1.7	21.4	3.9
15 妊娠、分娩及び産じょく	0.8%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.0	1.7	1.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	△ 6.4
16 周産期に発生した病態	1.1%	6.8	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	6.9	10.8
17 先天奇形、変形及び染色体異常	0.9%	3.1	0.4	0.4	0.4	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	5.7	11.2
18 他に分類されないもの	4.8%	1.8	0.8	0.8	1.2	1.2	1.1	1.0	1.1	1.3	2.3	3.8	3.8	4.1	3.1	2.4	29.6	16.0
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	4.9%	1.2	1.1	1.8	2.7	1.6	1.0	0.9	1.0	1.3	2.2	3.4	3.0	3.5	2.9	2.1	29.6	2.3
20 特殊目的用コード	1.5%	0.5	0.4	0.4	0.5	0.8	0.7	0.6	0.6	0.6	0.9	1.0	0.7	0.7	0.4	0.3	8.9	255.6
21 歯科の疾患	14.5%	1.8	5.3	4.3	3.7	4.6	4.6	4.2	4.5	5.2	8.7	11.8	9.8	9.4	6.6	4.3	88.8	5.0
合計	100.0%	38.1	20.9	18.3	22.2	22.4	20.4	21.0	24.1	25.9	47.9	79.1	75.1	80.2	65.6	50.5	611.6	9.4
対前年度増減率		29.5	17.9	3.1	12.1	17.7	14.8	15.6	10.6	2.6	△ 0.9	12.2	9.1	9.7	2.6	5.5	9.4	

※1 各疾病分類別・年齢階級別の値は年度末現在の年齢で集計している。そのため、年度内に75歳に達する者は70-74歳に計上している。

※2 疾病コードの記載がないデータが一部あるため、診療区分別医療費（8ページ）に合わせ補正している。

(図-65) 疾病分類別・年齢階級別医療費 全体（医科＋歯科）

(構成比)



②入院（医科＋歯科）：組合員

令和３年度診療分医療費における組合員の入院の疾病分類を金額順（歯科の疾患を除く。）にみると、循環器系の疾患（25.5 億円）が最も高く、次いで新生物（15.1 億円）、消化器系の疾患（13 億円）の順となっており、この３疾病で全体の約 52％を占めている。

また、上記３疾病で最も高い年齢階級をみると、いずれも 60 歳から 64 歳（循環器系の疾患 5.5 億円、新生物 3.2 億円、消化器系の疾患 2.4 億円）となっている。

年齢階級別医療費をみると、60 歳から 64 歳（19.7 億円）が最も高く、次いで 50 歳から 54 歳（17 億円）、55 歳から 59 歳（16.5 億円）の順となっている。

（表-45）疾病分類別・年齢階級別医療費 入院（医科＋歯科）：組合員

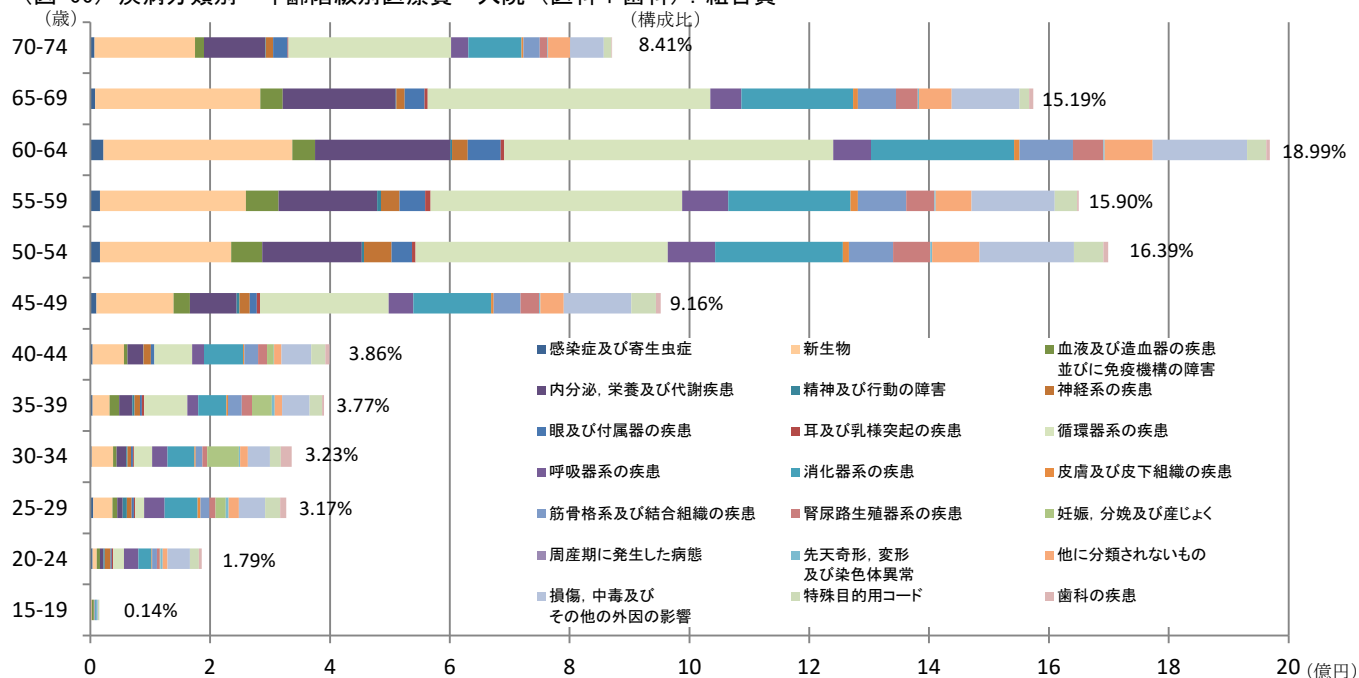
（億円、％）

疾病分類	構成比	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	計	対前年度増減率
1 感染症及び寄生虫症	0.9%	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	1.0	21.9
2 新生物	14.5%	0.0	0.1	0.3	0.4	0.3	0.5	1.3	2.2	2.4	3.2	2.8	1.7	15.1	5.8
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2.6%	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.3	0.5	0.5	0.4	0.4	0.2	2.7	16.9
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	9.7%	0.0	0.1	0.1	0.2	0.2	0.3	0.8	1.7	1.7	2.3	1.9	1.0	10.0	12.9
5 精神及び行動の障害	0.4%	-	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.4	△ 4.7
6 神経系の疾患	1.9%	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.5	0.3	0.3	0.1	0.1	1.9	8.3
7 眼及び付属器の疾患	2.1%	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.3	0.4	0.6	0.3	0.2	2.2	1.8
8 耳及び乳様突起の疾患	0.4%	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.4	2.6
9 循環器系の疾患	24.6%	0.0	0.2	0.2	0.3	0.7	0.6	2.2	4.2	4.2	5.5	4.7	2.7	25.5	11.6
10 呼吸器系の疾患	4.5%	0.0	0.2	0.3	0.3	0.2	0.2	0.4	0.8	0.8	0.6	0.5	0.3	4.7	35.9
11 消化器系の疾患	12.5%	0.0	0.2	0.6	0.5	0.5	0.7	1.3	2.1	2.0	2.4	1.9	0.9	13.0	17.3
12 皮膚及び皮下組織の疾患	0.6%	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.6	37.3
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	4.4%	0.0	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	0.5	0.7	0.8	0.9	0.6	0.3	4.6	△ 1.5
14 腎尿路生殖器系の疾患	2.8%	-	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.3	0.6	0.5	0.5	0.4	0.1	3.0	11.7
15 妊娠、分娩及び産じょく	1.1%	-	0.0	0.2	0.5	0.3	0.1	0.0	-	-	-	-	-	1.2	23.4
16 周産期に発生した病態	0.0%	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	0.0	95.4
17 先天奇形、変形及び染色体異常	0.3%	-	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	△ 22.7
18 他に分類されないもの	4.0%	0.0	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.4	0.8	0.6	0.8	0.6	0.4	4.1	2.0
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	9.2%	0.0	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	1.1	1.6	1.4	1.6	1.1	0.6	9.5	4.0
20 特殊目的用コード	2.8%	0.0	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.4	0.5	0.4	0.3	0.2	0.1	2.9	188.9
21 歯科の疾患	0.7%	-	0.1	0.1	0.2	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.8	19.1
合 計	100.0%	0.2	1.9	3.3	3.4	3.9	4.0	9.5	17.0	16.5	19.7	15.8	8.7	103.7	12.5
対前年度増減率		8.8	40.1	20.5	55.6	26.4	△ 1.2	9.5	12.6	9.5	19.1	2.0	10.3	12.5	

※1 各疾病分類別・年齢階級別の値は年度末現在の年齢で集計している。そのため、年度内に 75 歳に達する者は 70-74 歳に計上している。

※2 疾病コードの記載がないデータが一部あるため、診療区分別医療費（８ページ）に合わせ補正している。

（図-66）疾病分類別・年齢階級別医療費 入院（医科＋歯科）：組合員



③入院（医科＋歯科）：家族

令和３年度診療分医療費における家族の入院の疾病分類を金額順（歯科の疾患を除く。）にみると、循環器系の疾患（14.2 億円）が最も高く、次いで新生物（13 億円）、消化器系の疾患（9.9 億円）の順となっている。

また、上記３疾病で最も高い年齢階級をみると、循環器系の疾患及び消化器系の疾患では 70 歳から 74 歳（循環器系の疾患 3.9 億円、消化器系の疾患 1.4 億円）、新生物では 55 歳から 59 歳（2.1 億円）となっている。

年齢階級別医療費をみると、0 歳から 4 歳（16.6 億円）が最も高く、次いで 70 歳から 74 歳（13.2 億円）、65 歳から 69 歳（9.6 億円）の順となっている。

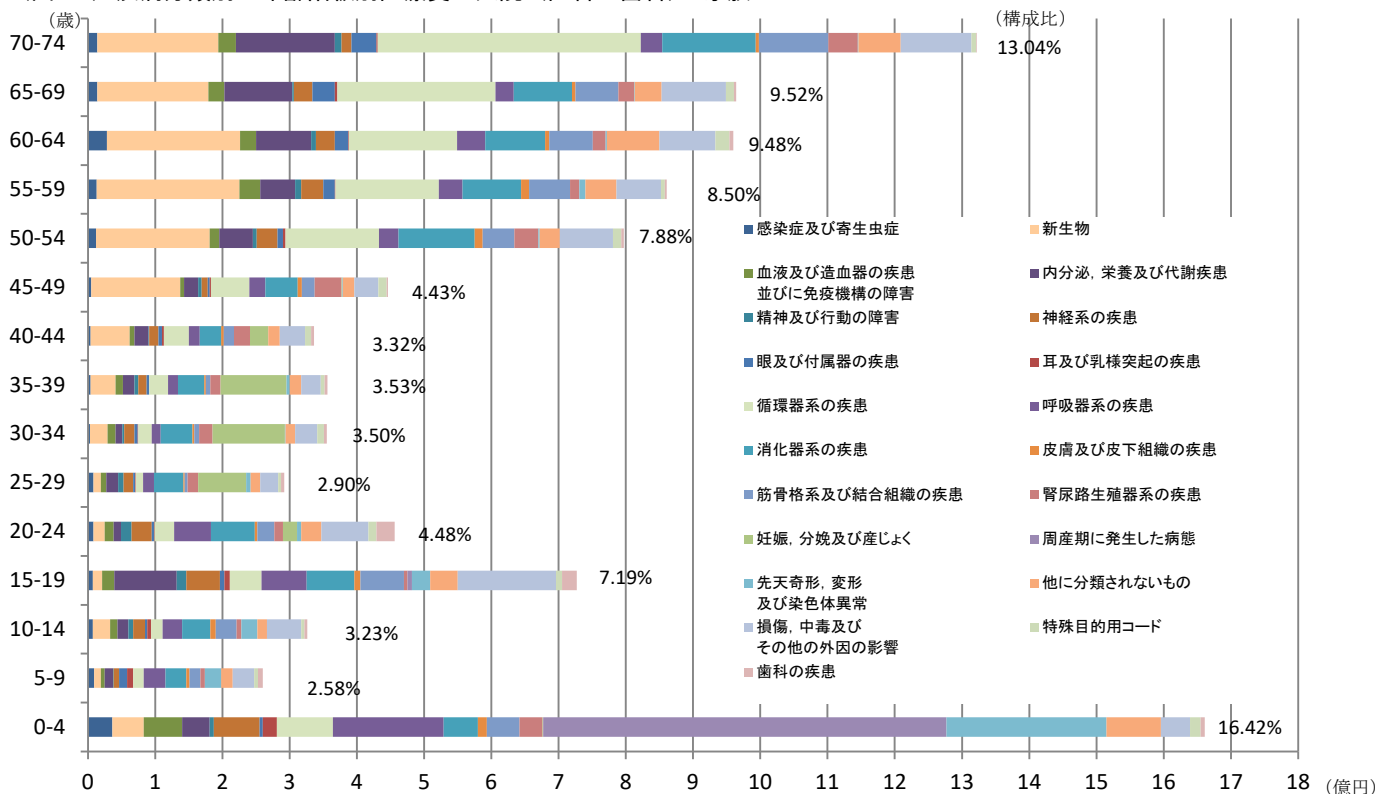
（表-46）疾病分類別・年齢階級別医療費 入院（医科＋歯科）：家族

疾 病 分 類	構成比	(億円、%)																計	対前年度 増 減 率
		0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74			
1 感染症及び寄生虫症	1.7%	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.3	0.1	0.1	1.7	17.1	
2 新 生 物	12.9%	0.5	0.1	0.3	0.1	0.2	0.1	0.3	0.4	0.6	1.3	1.7	2.1	2.0	1.7	1.8	13.0	1.5	
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2.6%	0.6	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2	0.3	2.7	△ 3.8	
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	6.8%	0.4	0.1	0.2	0.9	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.5	0.5	0.8	1.0	1.5	6.9	0.8	
5 精神及び行動の障害	1.0%	0.1	0.0	0.1	0.1	0.2	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	1.0	△ 9.4	
6 神 経 系 の 疾 患	3.7%	0.7	0.1	0.2	0.5	0.3	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	3.7	1.0	
7 眼及び付属器の疾患	1.6%	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.2	0.2	0.3	0.4	1.7	△ 9.2	
8 耳及び乳様突起の疾患	0.6%	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	△ 0.8	
9 循 環 器 系 の 疾 患	14.1%	0.8	0.2	0.2	0.5	0.3	0.1	0.2	0.3	0.4	0.6	1.4	1.5	1.6	2.4	3.9	14.2	2.7	
10 呼 吸 器 系 の 疾 患	5.9%	1.7	0.3	0.3	0.7	0.6	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	0.4	0.4	0.3	0.3	6.0	30.6	
11 消 化 器 系 の 疾 患	9.7%	0.5	0.3	0.4	0.7	0.7	0.4	0.5	0.4	0.3	0.5	1.1	0.9	0.9	0.9	1.4	9.9	4.0	
12 皮膚及び皮下組織の疾患	1.0%	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	1.0	△ 8.6	
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	5.7%	0.5	0.2	0.3	0.7	0.3	0.0	0.1	0.1	0.2	0.2	0.5	0.6	0.7	0.6	1.0	5.8	△ 2.8	
14 腎尿路生殖器系の疾患	3.1%	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.4	0.4	0.1	0.2	0.2	0.4	3.2	△ 6.7	
15 妊娠、分娩及び産じょく	3.2%	0.0	-	0.0	0.0	0.2	0.7	1.1	1.0	0.3	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	3.3	△ 13.8	
16 周産期に発生した病態	6.0%	6.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	6.1	14.0	
17 先 天 奇 形 、 変 形 及 び 染 色 体 異 常	3.4%	2.4	0.2	0.2	0.3	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	3.5	24.7	
18 他に分類されないもの	5.1%	0.8	0.2	0.1	0.4	0.3	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	0.5	0.8	0.4	0.6	5.2	18.8	
19 損 傷 、 中 毒 及 び そ の 他 の 外 因 の 影 響	9.2%	0.4	0.3	0.5	1.5	0.7	0.3	0.3	0.3	0.4	0.4	0.8	0.7	0.8	1.0	1.1	9.3	△ 4.5	
20 特殊目的用コード	1.5%	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	1.5	176.3	
21 歯 科 の 疾 患	1.0%	0.1	0.1	0.0	0.2	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	1.0	3.8	
合 計	100.0%	16.6	2.6	3.3	7.3	4.5	2.9	3.5	3.6	3.4	4.5	8.0	8.6	9.6	9.6	13.2	101.2	4.2	
対前年度増減率		22.6	4.5	△ 12.3	21.7	3.1	△ 1.4	9.2	△ 6.2	7.5	△ 9.9	20.9	△ 6.4	△ 2.0	0.5	△ 3.3	4.2		

※1 各疾病分類別・年齢階級別の値は年度末現在の年齢で集計している。そのため、年度内に 75 歳に達する者は 70-74 歳に計上している。

※2 疾病コードの記載がないデータが一部あるため、診療区分別医療費（８ページ）に合わせ補正している。

（図-67）疾病分類別・年齢階級別医療費 入院（医科＋歯科）：家族



④入院外（医科＋歯科）：組合員

令和３年度診療分医療費における組合員の入院外の疾病分類を金額順（歯科の疾患を除く。）にみると、内分泌、栄養及び代謝疾患（23.6 億円）が最も高く、次いで消化器系の疾患（19.9 億円）、新生物（16 億円）の順となっている。

また、上記３疾病で最も高い年齢階級をみると、内分泌、栄養及び代謝疾患並びに消化器系の疾患では 50 歳から 54 歳（内分泌、栄養及び代謝疾患 4.8 億円、消化器系の疾患 3.5 億円）、新生物では 60 歳から 64 歳（3.3 億円）となっている。

年齢階級別医療費をみると、50 歳から 54 歳（35 億円）が最も高く、次いで 60 歳から 64 歳（32.3 億円）、55 歳から 59 歳（31.7 億円）の順となっている。

（表-47）疾病分類別・年齢階級別医療費 入院外（医科＋歯科）：組合員

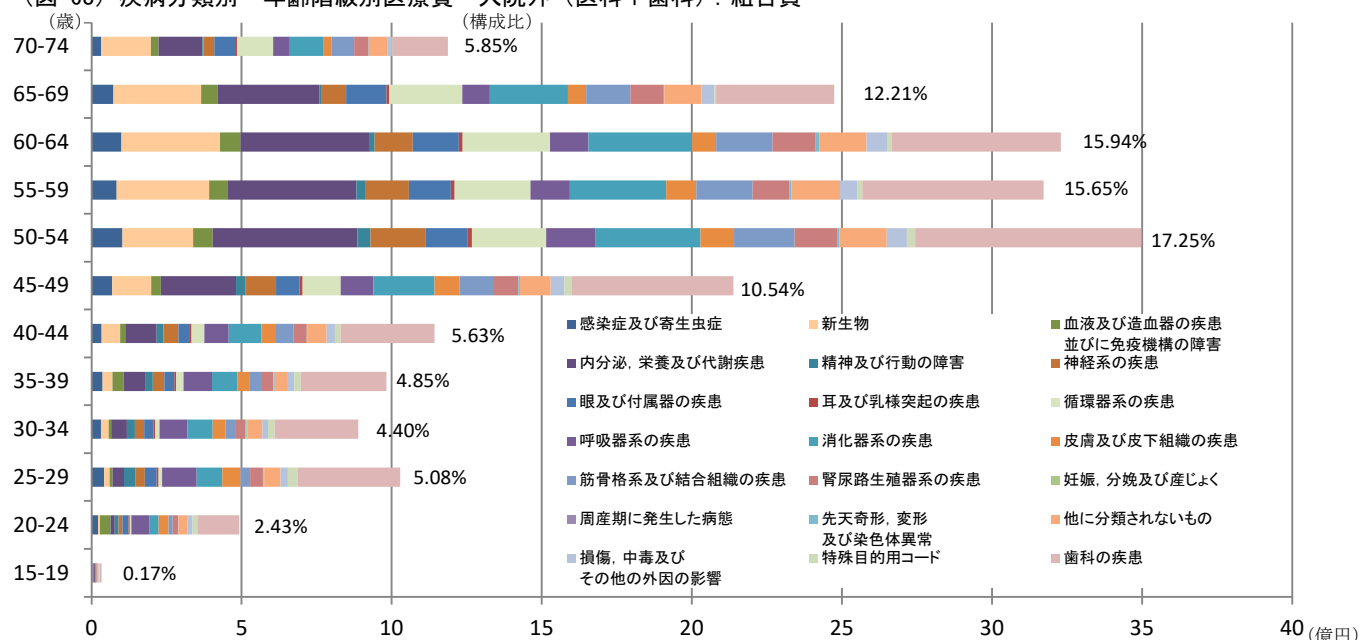
（億円、％）

疾病分類	構成比	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	計	対前年度増減率
1 感染症及び寄生虫症	3.1%	0.0	0.2	0.4	0.3	0.4	0.3	0.7	1.0	0.8	1.0	0.7	0.3	6.3	10.8
2 新生物	7.9%	0.0	0.1	0.2	0.3	0.3	0.6	1.3	2.4	3.1	3.3	2.9	1.7	16.0	5.3
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2.0%	0.0	0.4	0.1	0.1	0.4	0.2	0.3	0.7	0.6	0.7	0.6	0.3	4.2	13.1
4 内分泌、栄養及び代謝疾患	11.6%	0.0	0.1	0.4	0.5	0.7	1.1	2.5	4.8	4.3	4.3	3.4	1.5	23.6	7.7
5 精神及び行動の障害	1.3%	0.0	0.1	0.4	0.3	0.2	0.2	0.3	0.4	0.3	0.2	0.1	0.0	2.5	△ 1.0
6 神経系の疾患	4.2%	0.0	0.1	0.3	0.3	0.4	0.5	1.0	1.9	1.5	1.3	0.8	0.4	8.4	7.8
7 眼及び付属器の疾患	4.3%	0.0	0.2	0.4	0.3	0.3	0.4	0.8	1.4	1.4	1.5	1.3	0.7	8.8	5.5
8 耳及び乳様突起の疾患	0.5%	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.9	11.0
9 循環器系の疾患	6.8%	0.0	0.1	0.1	0.1	0.3	0.4	1.3	2.5	2.5	2.9	2.4	1.2	13.8	2.9
10 呼吸器系の疾患	5.6%	0.1	0.6	1.2	0.9	0.9	0.8	1.1	1.6	1.3	1.3	0.9	0.6	11.3	29.1
11 消化器系の疾患	9.8%	0.0	0.3	0.9	0.9	0.9	1.1	2.0	3.5	3.2	3.5	2.6	1.1	19.9	8.8
12 皮膚及び皮下組織の疾患	3.4%	0.0	0.3	0.6	0.4	0.4	0.5	0.8	1.1	1.0	0.8	0.6	0.3	6.9	7.3
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	5.4%	0.0	0.1	0.3	0.3	0.4	0.6	1.2	2.0	1.9	1.9	1.5	0.8	11.0	5.5
14 腎尿路生殖器系の疾患	4.1%	0.0	0.2	0.4	0.4	0.4	0.5	0.8	1.4	1.2	1.4	1.1	0.5	8.3	6.3
15 妊娠、分娩及び産じょく	0.1%	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	△ 2.0
16 周産期に発生した病態	0.0%	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0	0.0	△ 47.1
17 先天奇形、変形及び染色体異常	0.2%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.5	△ 12.3
18 他に分類されないもの	5.0%	0.0	0.3	0.6	0.5	0.4	0.6	1.0	1.6	1.6	1.6	1.2	0.6	10.2	17.8
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2.0%	0.0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.5	0.7	0.6	0.7	0.4	0.1	4.0	8.8
20 特殊目的用コード	1.0%	0.0	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.1	0.1	0.0	2.1	268.4
21 歯科の疾患	21.7%	0.1	1.4	3.4	2.8	2.9	3.1	5.4	7.5	6.0	5.6	3.9	1.8	44.0	5.7
合 計	100.0%	0.4	4.9	10.3	8.9	9.8	11.4	21.4	35.0	31.7	32.3	24.8	11.9	202.7	8.8
対前年度増減率		△ 36.8	26.3	18.4	14.5	14.7	2.5	△ 1.8	9.5	11.8	10.2	3.9	14.1	8.8	

※1 各疾病分類別・年齢階級別の値は年度末現在の年齢で集計している。そのため、年度内に 75 歳に達する者は 70-74 歳に計上している。

※2 疾病コードの記載がないデータが一部あるため、診療区分別医療費（8 ページ）に合わせ補正している。

（図-68）疾病分類別・年齢階級別医療費 入院外（医科＋歯科）：組合員



⑤入院外（医科＋歯科）：家族

令和３年度診療分医療費における家族の入院外の疾病分類を金額順（歯科の疾患を除く。）にみると、呼吸器系の疾患（23.2 億円）が最も高く、次いで内分泌，栄養及び代謝疾患（17.1 億円）、消化器系の疾患（14.3 億円）の順となっている。

また、上記３疾病で最も高い年齢階級をみると、呼吸器系の疾患では０歳から４歳（8 億円）、内分泌，栄養及び代謝疾患では 70 歳から 74 歳（2.5 億円）、消化器系の疾患では 60 歳から 64 歳（1.8 億円）となっている。

年齢階級別医療費をみると、０歳から４歳（21.5 億円）が最も高く、次いで 50 歳から 54 歳（19.1 億円）、60 歳から 64 歳（18.6 億円）の順となっている。

このうち 0 歳から 4 歳は前年度からの増加率が 35.5%と大幅に増加している。

（表-48）疾病分類別・年齢階級別医療費 入院外（医科＋歯科）：家族

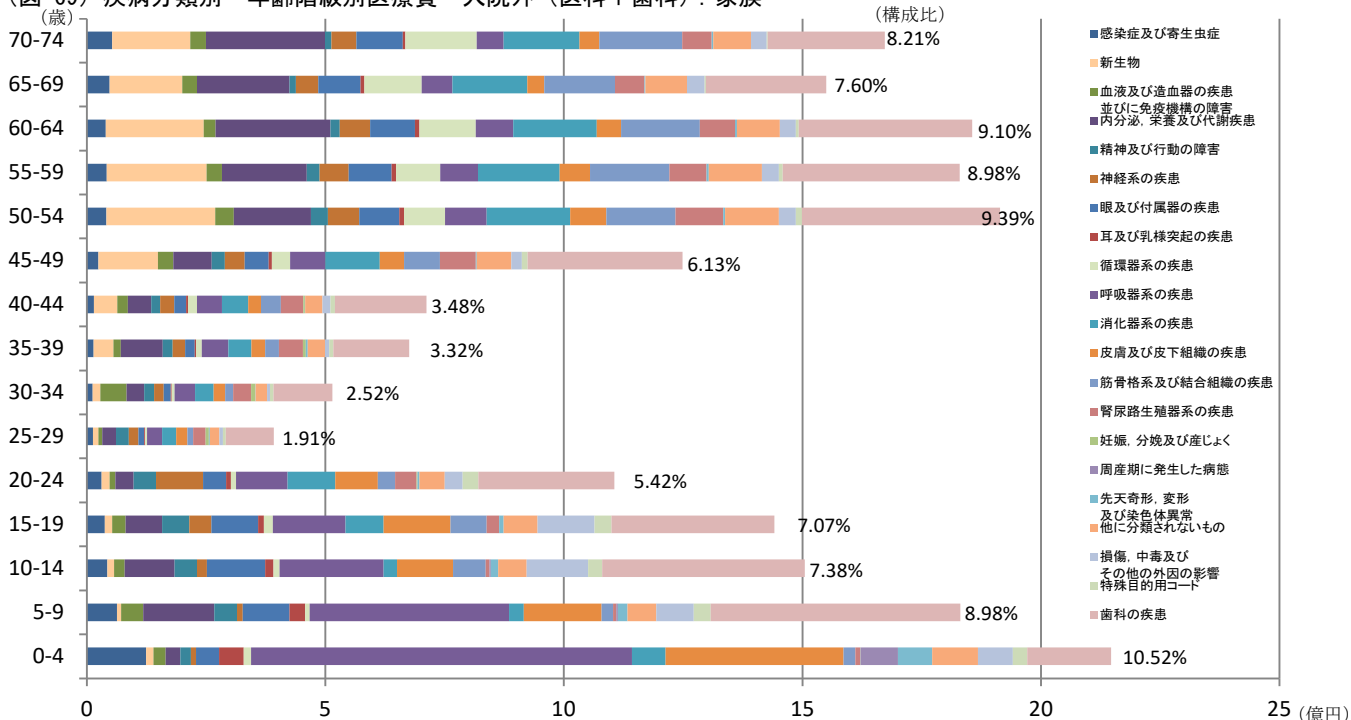
（億円、％）

疾病分類	構成比	0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	計	対前年度増減率
1 感染症及び寄生虫症	2.9%	1.2	0.6	0.4	0.4	0.3	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	6.0	16.0
2 新生物	6.2%	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.4	0.5	1.3	2.3	2.1	2.1	1.5	1.6	12.7	3.1
3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	2.1%	0.3	0.5	0.2	0.3	0.1	0.1	0.6	0.2	0.2	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	4.2	2.9
4 内分泌，栄養及び代謝疾患	8.4%	0.3	1.5	1.1	0.8	0.4	0.3	0.4	0.9	0.5	0.8	1.6	1.8	2.4	1.9	2.5	17.1	11.4
5 精神及び行動の障害	2.2%	0.2	0.5	0.5	0.6	0.5	0.3	0.2	0.2	0.2	0.3	0.4	0.3	0.2	0.1	0.1	4.4	3.0
6 神経系の疾患	3.0%	0.1	0.1	0.2	0.5	1.0	0.2	0.2	0.3	0.3	0.4	0.7	0.6	0.6	0.5	0.5	6.2	16.6
7 眼及び付属器の疾患	4.8%	0.5	1.0	1.2	1.0	0.5	0.1	0.2	0.2	0.3	0.5	0.8	0.9	0.9	0.9	1.0	9.9	4.1
8 耳及び乳様突起の疾患	0.9%	0.5	0.3	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	1.9	13.1
9 循環器系の疾患	3.5%	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.0	0.1	0.1	0.2	0.4	0.9	0.9	1.2	1.2	1.5	7.1	4.8
10 呼吸器系の疾患	11.4%	8.0	4.2	2.2	1.5	1.1	0.3	0.4	0.6	0.5	0.7	0.9	0.8	0.8	0.6	0.6	23.2	38.7
11 消化器系の疾患	7.0%	0.7	0.3	0.3	0.8	1.0	0.3	0.4	0.5	0.6	1.1	1.8	1.7	1.8	1.6	1.6	14.3	9.0
12 皮膚及び皮下組織の疾患	6.4%	3.7	1.6	1.2	1.4	0.9	0.2	0.2	0.3	0.3	0.5	0.8	0.6	0.5	0.4	0.4	13.1	7.3
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	5.9%	0.3	0.2	0.7	0.8	0.4	0.1	0.2	0.3	0.4	0.8	1.5	1.7	1.7	1.5	1.7	12.0	7.4
14 腎尿路生殖器系の疾患	3.5%	0.1	0.1	0.1	0.3	0.5	0.3	0.4	0.5	0.5	0.8	1.0	0.8	0.7	0.6	0.6	7.1	3.5
15 妊娠，分娩及び産じょく	0.1%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	△ 6.1
16 周産期に発生した病態	0.4%	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	0.0	0.0	0.9	△ 7.5
17 先天奇形，変形及び染色体異常	0.7%	0.7	0.2	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	1.5	2.0
18 他に分類されないもの	5.0%	1.0	0.6	0.6	0.7	0.5	0.2	0.2	0.4	0.4	0.7	1.1	1.1	0.9	0.9	0.8	10.1	19.5
19 損傷，中毒及びその他の外因の影響	3.3%	0.7	0.8	1.3	1.2	0.4	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.4	0.4	0.3	0.4	0.3	6.7	6.4
20 特殊目的用コード	1.2%	0.3	0.4	0.3	0.4	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	2.4	521.9
21 歯科の疾患	21.1%	1.8	5.2	4.3	3.4	2.9	1.0	1.2	1.6	1.9	3.3	4.2	3.7	3.6	2.5	2.5	43.0	4.2
合計	100.0%	21.5	18.3	15.1	14.4	11.1	3.9	5.2	6.8	7.1	12.5	19.1	18.3	18.6	15.5	16.7	204.0	11.1
対前年度増減率		35.5	20.1	7.2	9.8	17.8	15.0	4.2	7.5	2.8	△ 3.0	13.7	12.9	6.5	2.5	5.1	11.1	

※1 各疾病分類別・年齢階級別の値は年度末現在の年齢で集計している。そのため、年度内に 75 歳に達する者は 70-74 歳に計上している。

※2 疾病コードの記載がないデータが一部あるため、診療区分別医療費（8 ページ）に合わせ補正している。

（図-69）疾病分類別・年齢階級別医療費 入院外（医科＋歯科）：家族



(2) 疾病分類別 1 人当たり医療費（医科）

①全体（入院＋入院外）

令和 2 年度の医科診療分における疾病分類別 1 人当たり医療費を組合健保と比較すると、内分泌、栄養及び代謝疾患の差が最も大きく、全国土木（13,168 円）が組合健保（7,172 円）より 5,996 円（83.6%）高くなっている。次いで差が大きいのが消化器系の疾患で、全国土木（12,874 円）が組合健保（7,440 円）より 5,434 円（73.0%）高く、他に分類されないもの（全国土木 6,309 円、組合健保 1,765 円、差 4,544 円（257.4%））が続く。

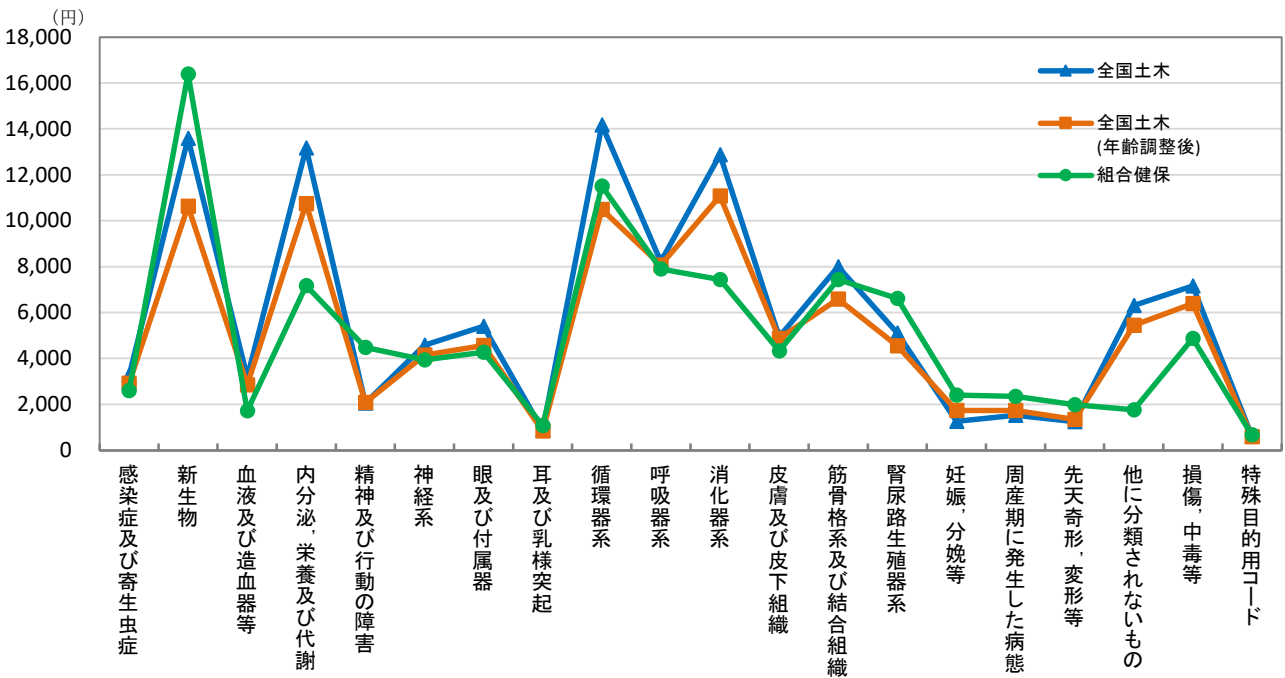
全国土木の加入者の年齢構成を組合健保と揃えて比較すると、内分泌、栄養及び代謝疾患は 10,736 円となり組合健保との差は 3,564 円（49.7%）となる。消化器系の疾患は 11,080 円となり組合健保との差は 3,640 円（48.9%）、他に分類されないものでは 5,449 円となり組合健保との差は 3,684 円（208.7%）となる。

(表-49) 疾病分類別 1 人当たり医療費：医科（入院＋入院外）（令和 2 年度） (円)

疾 病 分 類	1 人当たり医療費				年齢構成を組合健保と揃えた場合		
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）		全国土木 (年齢調整後)	組合健保との差（率）	
総 数	117,480	100,894	16,586	(16.4%)	101,646	752	(0.7%)
1 感 染 症 及 び 寄 生 虫 症	3,247	2,597	650	(25.0%)	2,913	316	(12.2%)
2 新 生 物	13,585	16,393	△ 2,808	(△17.1%)	10,628	△ 5,765	(△35.2%)
3 血 液 及 び 造 血 器 官 の 疾 患 並 び に 免 疫 機 能 の 障 害	3,176	1,719	1,457	(84.8%)	2,855	1,136	(66.1%)
4 内 分 泌 , 栄 養 及 び 代 謝 疾 患	13,168	7,172	5,996	(83.6%)	10,736	3,564	(49.7%)
5 精 神 及 び 行 動 の 障 害	2,051	4,476	△ 2,425	(△54.2%)	2,088	△ 2,388	(△53.4%)
6 神 経 系 の 疾 患	4,583	3,936	647	(16.4%)	4,147	211	(5.4%)
7 眼 及 び 付 属 器 の 疾 患	5,403	4,270	1,133	(26.5%)	4,560	290	(6.8%)
8 耳 及 び 乳 様 突 起 の 疾 患	865	1,070	△ 205	(△19.2%)	845	△ 225	(△21.0%)
9 循 環 器 系 の 疾 患	14,175	11,511	2,664	(23.1%)	10,495	△ 1,016	(△8.8%)
10 呼 吸 器 系 の 疾 患	8,219	7,900	319	(4.0%)	8,063	163	(2.1%)
11 消 化 器 系 の 疾 患	12,874	7,440	5,434	(73.0%)	11,080	3,640	(48.9%)
12 皮 膚 及 び 皮 下 組 織 の 疾 患	4,934	4,319	615	(14.2%)	4,877	558	(12.9%)
13 筋 骨 格 系 及 び 結 合 組 織 の 疾 患	7,991	7,443	548	(7.4%)	6,584	△ 859	(△11.5%)
14 腎 尿 路 生 殖 器 系 の 疾 患	5,102	6,616	△ 1,514	(△22.9%)	4,544	△ 2,072	(△31.3%)
15 妊 娠 , 分 娩 及 び 産 じ ょ く	1,261	2,402	△ 1,141	(△47.5%)	1,730	△ 672	(△28.0%)
16 周 産 期 に 発 生 し た 病 態	1,519	2,346	△ 827	(△35.3%)	1,731	△ 615	(△26.2%)
17 先 天 奇 形 , 変 形 及 び 染 色 体 異 常	1,250	1,985	△ 735	(△37.0%)	1,345	△ 640	(△32.3%)
18 他 に 分 類 さ れ な い も の	6,309	1,765	4,544	(257.4%)	5,449	3,684	(208.7%)
19 損 傷 , 中 毒 及 び そ の 他 の 外 因 の 影 響	7,155	4,864	2,291	(47.1%)	6,386	1,522	(31.3%)
20 特 殊 目 的 用 コ ー ド	615	669	△ 54	(△8.1%)	590	△ 79	(△11.8%)

※1 総数が医科 1 人当たり医療費（入院（15 ページ）と入院外（29 ページ）の合算額）と一致するよう補正している。 出典：厚生労働省「医療給付実態調査」
※2 本人家族割合及び男女割合を調整していないため、全国土木（年齢調整後）の総数は医科 1 人当たり医療費の調整後（入院（15 ページ）と入院外（29 ページ）の合算額）と一致しない。

(図-70) 疾病分類別 1 人当たり医療費：医科（入院＋入院外）（令和 2 年度）



②入院

令和2年度の医科入院の疾病分類1人当たり医療費を組合健保と比較すると、内分泌、栄養及び代謝疾患の差が最も大きく、全国土木（3,914円）が組合健保（706円）より3,208円（454.7%）高くなっている。次いで差が大きいのが循環器系の疾患で、全国土木（9,133円）が組合健保（6,226円）より2,907円（46.7%）高く、新生物（全国土木6,717円、組合健保8,909円、差△2,192円（△24.6%））が続く。

なお、妊娠、分娩及び産じょく、周産期に発生した病態、先天奇形、変形及び染色体異常は全国土木の方が低くなっているが、これは、年齢構成の違いに加え、加入者に占める女性割合が組合健保より小さいためと推察される。

全国土木の加入者の年齢構成を組合健保と揃えて比較すると、内分泌、栄養及び代謝疾患は3,014円となり組合健保との差は2,308円（327.2%）となる。循環器系の疾患は6,688円となり組合健保との差は462円（7.4%）、消化器系の疾患では5,328円となり組合健保との差は△3,586円（△40.2%）となる。

（表-50）疾病分類別1人当たり医療費：医科入院（令和2年度）

（円）

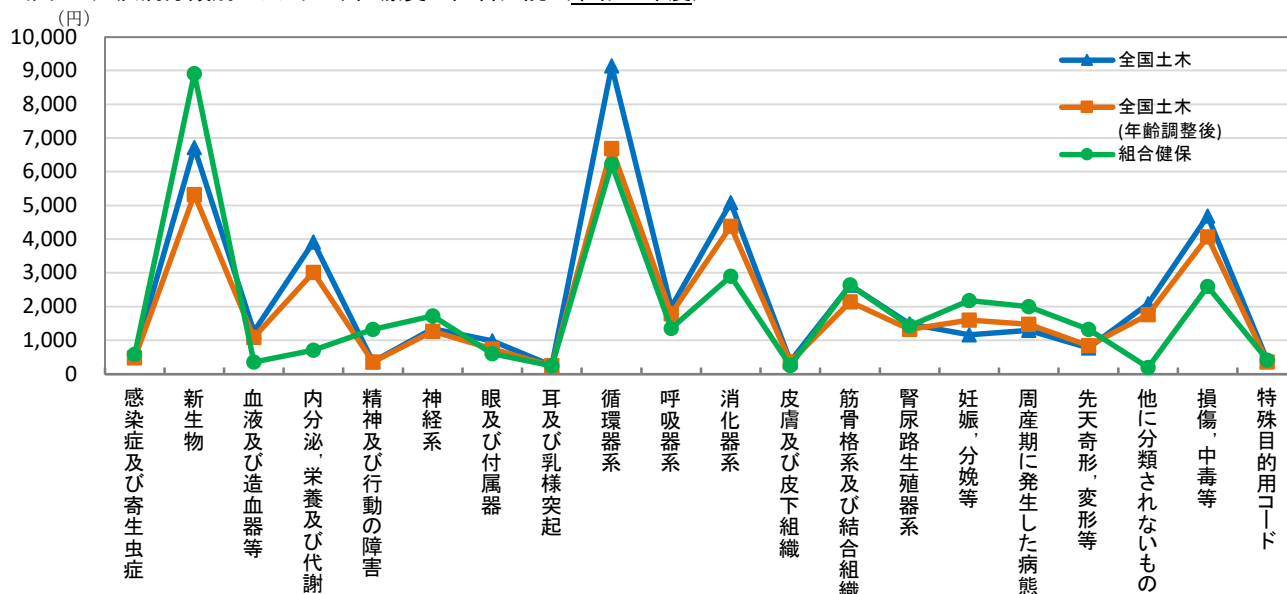
疾 病 分 類	1人当たり医療費				年齢構成を組合健保と揃えた場合	
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）		全国土木 （年齢調整後）	組合健保との差（率）
総 数	46,445	37,909	8,536	(22.5%)	39,267	1,358 (3.6%)
1 感 染 症 及 び 寄 生 虫 症	566	579	△ 13	(△2.4%)	481	△ 98 (△16.9%)
2 新 生 物	6,717	8,909	△ 2,192	(△24.6%)	5,323	△ 3,586 (△40.2%)
3 血 液 及 び 免 疫 機 構 の 疾 患	1,254	350	904	(258.0%)	1,088	738 (210.5%)
4 内 分 泌 , 栄 養 及 び 代 謝 疾 患	3,914	706	3,208	(454.7%)	3,014	2,308 (327.2%)
5 精 神 及 び 行 動 の 障 害	366	1,320	△ 954	(△72.3%)	354	△ 966 (△73.2%)
6 神 経 系 の 疾 患	1,344	1,721	△ 377	(△21.9%)	1,263	△ 458 (△26.6%)
7 眼 及 び 付 属 器 の 疾 患	984	601	383	(63.6%)	743	142 (23.5%)
8 耳 及 び 乳 様 突 起 の 疾 患	258	239	19	(7.9%)	248	9 (3.6%)
9 循 環 器 系 の 疾 患	9,133	6,226	2,907	(46.7%)	6,688	462 (7.4%)
10 呼 吸 器 系 の 疾 患	1,974	1,349	625	(46.4%)	1,789	440 (32.7%)
11 消 化 器 系 の 疾 患	5,082	2,897	2,185	(75.4%)	4,376	1,479 (51.1%)
12 皮 膚 及 び 皮 下 組 織 の 疾 患	369	251	118	(46.9%)	350	99 (39.4%)
13 筋 骨 格 系 及 び 結 合 組 織 の 疾 患	2,633	2,644	△ 11	(△0.4%)	2,143	△ 501 (△19.0%)
14 腎 尿 路 生 殖 器 系 の 疾 患	1,488	1,424	64	(4.4%)	1,324	△ 100 (△7.0%)
15 妊 娠 , 分 娩 及 び 産 じ ょ く	1,159	2,181	△ 1,022	(△46.8%)	1,594	△ 587 (△26.9%)
16 周 産 期 に 発 生 し た 病 態	1,293	1,993	△ 700	(△35.1%)	1,474	△ 519 (△26.0%)
17 先 天 奇 形 , 変 形 及 び 染 色 体 異 常	768	1,321	△ 553	(△41.9%)	842	△ 479 (△36.2%)
18 他 に 分 類 さ れ な い も の	2,078	193	1,885	(979.5%)	1,758	1,565 (813.4%)
19 損 傷 , 中 毒 及 び そ の 他 の 外 因 の 影 響	4,683	2,593	2,090	(80.6%)	4,065	1,472 (56.8%)
20 特 殊 目 的 用 コ ー ド	381	413	△ 32	(△7.6%)	349	△ 64 (△15.4%)

※1 総数が入院1人当たり医療費（15ページ）と一致するよう補正している。

出典：厚生労働省「医療給付実態調査」

※2 本人家族割合及び男女割合を調整していないため、全国土木（年齢調整後）の総数は入院1人当たり医療費（15ページ）の調整後と一致しない。

（図-71）疾病分類別1人当たり医療費：医科入院（令和2年度）



③入院外

令和2年度の医科入院外の疾病分類別1人当たり医療費を組合健保と比較すると、消化器系の疾患が最も大きく、全国土木（7,792円）が組合健保（4,544円）より3,248円（71.5%）高くなっている。次いで差が大きいのが内分泌、栄養及び代謝疾患で、全国土木（9,254円）が組合健保（6,466円）より2,788円（43.1%）高く、他に分類されないもの（全国土木4,230円、組合健保1,573円、差2,657円（169.0%））が続く。

全国土木の加入者の年齢構成を組合健保と揃えて比較すると、消化器系の疾患は6,704円となり組合健保との差は2,160円（47.5%）、内分泌、栄養及び代謝疾患は7,722円となり組合健保との差は1,256円（19.4%）、他に分類されないものでは3,691円となり組合健保との差は2,118円（134.7%）となる。

（表-51）疾病分類別1人当たり医療費：医科入院外（令和2年度）

（円）

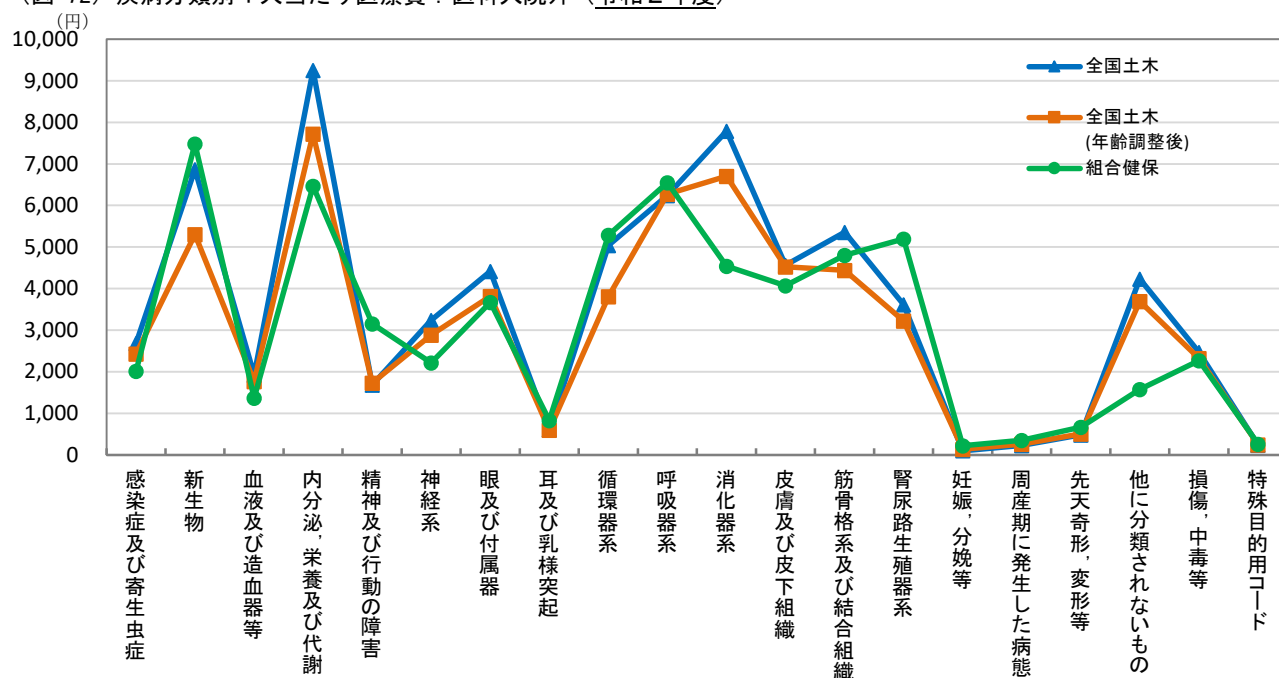
疾 病 分 類	1人当たり医療費				年齢構成を組合健保と揃えた場合	
	全国土木	組合健保	組合健保との差（率）		全国土木 （年齢調整後）	組合健保との差（率）
総 数	71,035	62,985	8,050	(12.8%)	62,379	△ 606 (△1.0%)
1 感 染 症 及 び 寄 生 虫 症	2,682	2,017	665	(32.9%)	2,432	415 (20.6%)
2 新 生 物	6,868	7,485	△ 617	(△8.2%)	5,305	△ 2,180 (△29.1%)
3 血 液 及 び 免 疫 機 能 の 疾 患	1,922	1,369	553	(40.4%)	1,767	398 (29.1%)
4 内 分 泌 , 栄 養 及 び 代 謝 疾 患	9,254	6,466	2,788	(43.1%)	7,722	1,256 (19.4%)
5 精 神 及 び 行 動 の 障 害	1,685	3,156	△ 1,471	(△46.6%)	1,733	△ 1,423 (△45.1%)
6 神 経 系 の 疾 患	3,239	2,215	1,024	(46.2%)	2,884	669 (30.2%)
7 眼 及 び 付 属 器 の 疾 患	4,419	3,668	751	(20.5%)	3,817	149 (4.1%)
8 耳 及 び 乳 様 突 起 の 疾 患	607	831	△ 224	(△27.0%)	598	△ 233 (△28.1%)
9 循 環 器 系 の 疾 患	5,042	5,285	△ 243	(△4.6%)	3,808	△ 1,477 (△28.0%)
10 呼 吸 器 系 の 疾 患	6,244	6,551	△ 307	(△4.7%)	6,274	△ 277 (△4.2%)
11 消 化 器 系 の 疾 患	7,792	4,544	3,248	(71.5%)	6,704	2,160 (47.5%)
12 皮 膚 及 び 皮 下 組 織 の 疾 患	4,565	4,068	497	(12.2%)	4,526	458 (11.3%)
13 筋 骨 格 系 及 び 結 合 組 織 の 疾 患	5,357	4,799	558	(11.6%)	4,441	△ 358 (△7.5%)
14 腎 尿 路 生 殖 器 系 の 疾 患	3,614	5,192	△ 1,578	(△30.4%)	3,220	△ 1,972 (△38.0%)
15 妊 娠 , 分 娩 及 び 産 じ ょ く	102	221	△ 119	(△54.0%)	136	△ 85 (△38.5%)
16 周 産 期 に 発 生 し た 病 態	226	353	△ 127	(△36.2%)	257	△ 96 (△27.4%)
17 先 天 奇 形 , 変 形 及 び 染 色 体 異 常	482	665	△ 183	(△27.5%)	503	△ 162 (△24.3%)
18 他 に 分 類 さ れ な い も の	4,230	1,573	2,657	(169.0%)	3,691	2,118 (134.7%)
19 損 傷 , 中 毒 及 び そ の 他 の 外 因 の 影 響	2,472	2,271	201	(8.8%)	2,321	50 (2.2%)
20 特 殊 目 的 用 コ ー ド	234	256	△ 22	(△8.8%)	241	△ 15 (△5.9%)

※1 総数が入院外1人当たり医療費（29ページ）と一致するように補正している。

出典：厚生労働省「医療給付実態調査」

※2 本人家族割合及び男女割合を調整していないため、全国土木（年齢調整後）の総数は入院外1人当たり医療費（29ページ）の調整後と一致しない。

（図-72）疾病分類別1人当たり医療費：医科入院外（令和2年度）



(3) 前期高齢者に係る疾病分類比較分析（医科）

①疾病分類別 1 人当たり医療費

令和 2 年度における前期高齢者（65 歳～74 歳）の疾病分類別 1 人当たり医療費を組合健保と比較すると、医科入院、医科入院外のいずれも全国土木が高くなっている。総数では、医科入院で 16,762 円（12.1%）、医科入院外で 18,118 円（10.8%）の差となっている。

疾病分類別にみると、医科入院で差が最も大きい新生物では、全国土木（26,780 円）が組合健保（41,828 円）より 15,048 円（36.0%）低くなっているが、これは新規入院が少ないためであり、入院 1 患者当たり医療費は全国土木の方が高くなっている。

次いで差が大きい内分泌、栄養及び代謝疾患では、全国土木（16,942 円）が組合健保（2,342 円）より 14,600 円（623.4%）高くなっているが、これは新規入院が多いことに加え、1 日当たり医療費が高いことが影響している。

医科入院外では消化器系の疾患の差が最も大きく、全国土木（21,648 円）が組合健保（9,787 円）より 11,861 円（121.2%）高くなっている。

(表-52) 前期高齢者に係る疾病分類別 1 人当たり医療費（令和 2 年度）（金額順）

(円)

医 科 入 院	全国土木	組合健保	組合健保との差(率)	医 科 入 院 外	全国土木	組合健保	組合健保との差(率)
総 数	155,413	138,651	16,762 (12.1%)	総 数	185,402	167,284	18,118 (10.8%)
9 循 環 器 系 の 疾 患	44,793	36,249	8,544 (23.6%)	2 新 生 物	28,472	32,927	△4,455 (△13.5%)
2 新 生 物	26,780	41,828	△15,048 (△36.0%)	4 内 分 泌 , 栄 養 及 び 代 謝 疾 患	27,293	22,260	5,033 (22.6%)
4 内 分 泌 , 栄 養 及 び 代 謝 疾 患	16,942	2,342	14,600 (623.4%)	11 消 化 器 系 の 疾 患	21,648	9,787	11,861 (121.2%)
11 消 化 器 系 の 疾 患	15,410	9,467	5,943 (62.8%)	9 循 環 器 系 の 疾 患	20,793	30,191	△9,398 (△31.1%)
19 損 傷 , 中 毒 及 び そ の 他 の 外 因 の 影 響	12,146	9,087	3,059 (33.7%)	13 筋 骨 格 系 及 び 結 合 組 織 の 疾 患	17,174	16,064	1,110 (6.9%)
13 筋 骨 格 系 及 び 結 合 組 織 の 疾 患	9,003	13,535	△4,532 (△33.5%)	7 眼 及 び 付 属 器 の 疾 患	12,098	12,853	△755 (△5.9%)
18 他 に 分 類 さ れ な い も の	6,872	518	6,354 (1,226.5%)	18 他 に 分 類 さ れ な い も の	11,148	2,974	8,174 (274.8%)
10 呼 吸 器 系 の 疾 患	4,444	4,184	260 (6.2%)	14 腎 尿 路 生 殖 器 系 の 疾 患	9,244	14,952	△5,708 (△38.2%)
14 腎 尿 路 生 殖 器 系 の 疾 患	4,407	4,668	△261 (△5.6%)	10 呼 吸 器 系 の 疾 患	8,094	5,830	2,264 (38.8%)
7 眼 及 び 付 属 器 の 疾 患	4,389	3,465	924 (26.7%)	6 神 経 系 の 疾 患	6,793	4,611	2,182 (47.3%)
3 血 液 及 び 造 血 器 の 疾 患 並 び に 免 疫 機 構 の 障 害	4,085	1,001	3,084 (307.9%)	1 感 染 症 及 び 寄 生 虫 症	6,330	2,942	3,388 (115.2%)
6 神 経 系 の 疾 患	2,279	5,052	△2,773 (△54.9%)	12 皮 膚 及 び 皮 下 組 織 の 疾 患	5,179	3,367	1,812 (53.8%)
1 感 染 症 及 び 寄 生 虫 症	1,561	1,814	△253 (△13.9%)	3 血 液 及 び 造 血 器 の 疾 患 並 び に 免 疫 機 構 の 障 害	4,850	1,494	3,356 (224.7%)
5 精 神 及 び 行 動 の 障 害	603	2,917	△2,314 (△79.3%)	19 損 傷 , 中 毒 及 び そ の 他 の 外 因 の 影 響	3,596	3,557	39 (1.1%)
20 特 殊 目 的 用 コード	597	1,261	△664 (△52.7%)	5 精 神 及 び 行 動 の 障 害	1,344	1,987	△643 (△32.4%)
12 皮 膚 及 び 皮 下 組 織 の 疾 患	504	631	△127 (△20.0%)	8 耳 及 び 乳 様 突 起 の 疾 患	852	1,126	△274 (△24.3%)
8 耳 及 び 乳 様 突 起 の 疾 患	413	456	△43 (△9.5%)	17 先 天 奇 形 , 変 形 及 び 染 色 体 異 常	351	206	145 (69.9%)
17 先 天 奇 形 , 変 形 及 び 染 色 体 異 常	185	177	8 (4.8%)	20 特 殊 目 的 用 コード	142	155	△13 (△8.7%)

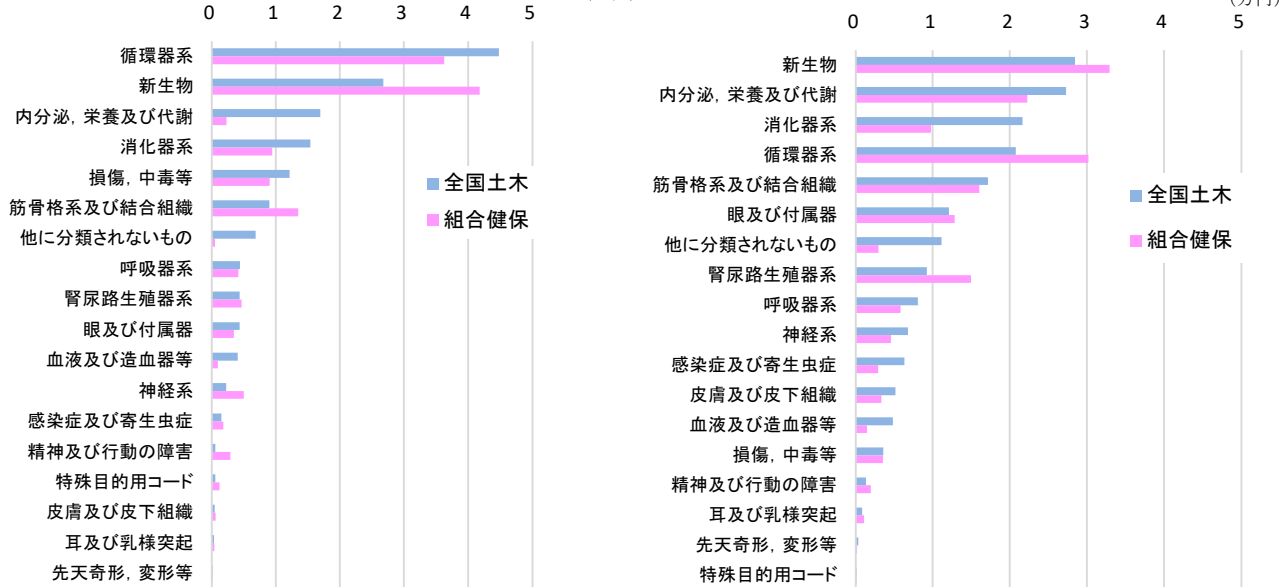
※医科 1 人当たり医療費（入院 15 ページ、入院外 29 ページ）に合わせ補正して算出している。

出典：厚生労働省「医療給付実態調査」

(図-73) 前期高齢者に係る疾病分類別 1 人当たり医療費（令和 2 年度）

【医科入院】

(万円) 【医科入院外】



②疾病分類別新3要素分析（医科入院：1人当たり医療費上位10疾病分類）

令和2年度における前期高齢者の医科入院医療費の疾病分類別新3要素を組合健保と比較すると、下図のとおりである。

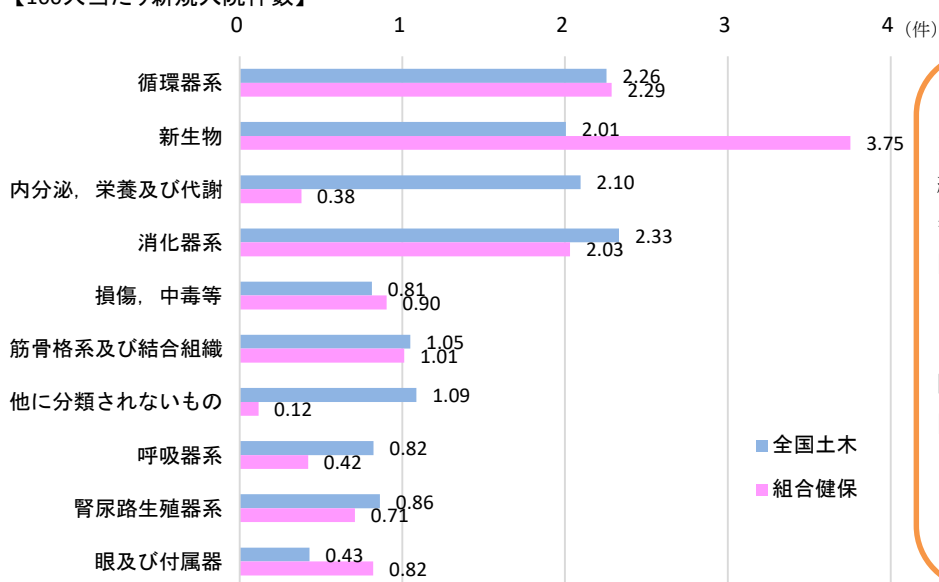
このうち1人当たり医療費が最も高かった循環器系の疾患を組合健保と比較すると、新規入院件数は同程度であり、平均在院日数はやや短くなっている一方、1日当たり医療費が大幅に高くなっており、このことが1人当たり医療費の高さに影響している。

全体的な傾向として、平均在院日数は組合健保と同程度かやや短い、1日当たり医療費が組合健保より高い。

前ページでみたように医科入院の1人当たり医療費は全国土木の方が高いが、これは、入院1人当たり医療費は1人当たり新規入院件数、平均在院日数及び1日当たり医療費の積であるところ、1日当たり医療費が全国土木の方が高いため、この差が表れたといえる。

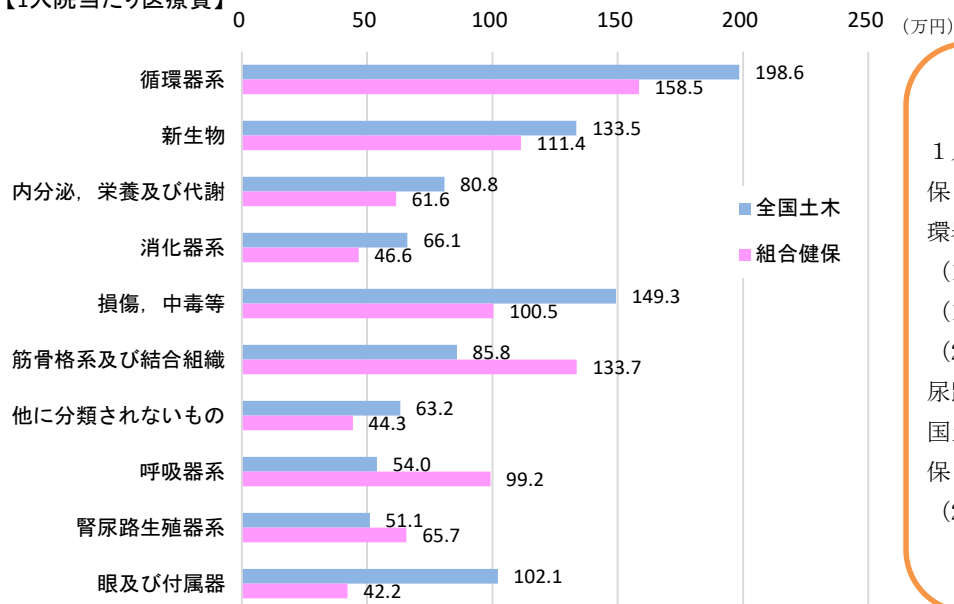
（図-74）前期高齢者に係る疾病分類別新3要素分析（令和2年度）（医科入院：1人当たり医療費上位10疾病分類）

【100人当たり新規入院件数】



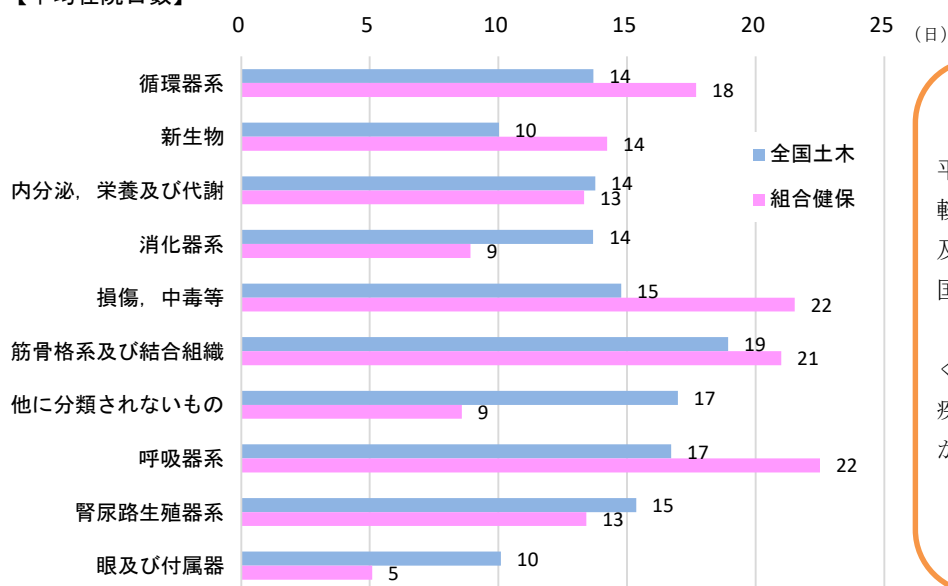
100人当たり新規入院件数を組合健保と比較すると、最も多い消化器系の疾患では、全国土木（2.33件）が組合健保（2.03件）より0.30件（14.8%）多く、最も少ない眼及び付属器の疾患では、全国土木（0.43件）が組合健保（0.82件）より0.39件（47.7%）少ない。

【1入院当たり医療費】



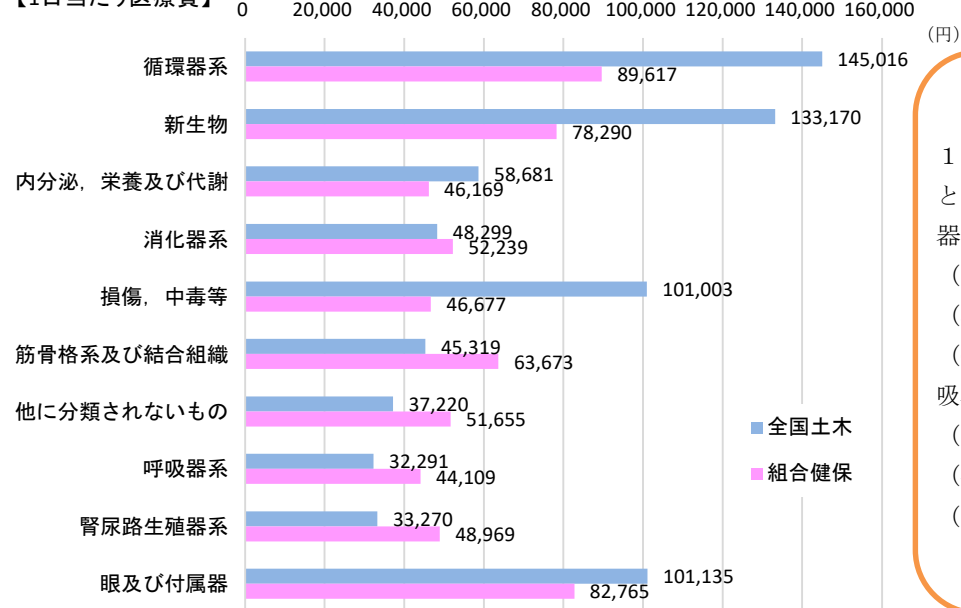
1入院当たり医療費を組合健保と比較すると、最も高い循環器系の疾患では、全国土木（198.6万円）が組合健保（158.5万円）より40.1万円（25.3%）高く、最も低い腎尿路生殖器系の疾患では、全国土木（51.1万円）が組合健保（65.7万円）より14.6万円（22.2%）低い。

【平均在院日数】



平均在院日数を組合健保と比較すると、最も長い筋骨格系及び結合組織の疾患では、全国土木（19日）が組合健保（21日）より2日（9.8%）短く、最も短い眼及び付属器の疾患では、全国土木（10日）が組合健保（5日）より5日（98.2%）長い。

【1日当たり医療費】



1日当たり医療費を組合健保と比較すると、最も高い循環器系の疾患では、全国土木（145,016円）が組合健保（89,617円）より55,399円（61.8%）高く、最も低い呼吸器系の疾患では、全国土木（32,291円）が組合健保（44,109円）より11,818円（26.8%）低い。

※「2 医療費の状況」「(7) 医科入院」の各指標に合わせ補正して算出している。

(参考) 新型コロナウイルス感染症の影響

令和3年度の医療費は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた2年度から一転し、前年度比で8.37% (59.8億円) の増、加入者数の伸びの影響を除いた「1人当たり医療費」では、前年度比で8.94%の増となっており、それぞれ大幅に増加している (7、9 ページ参照)。

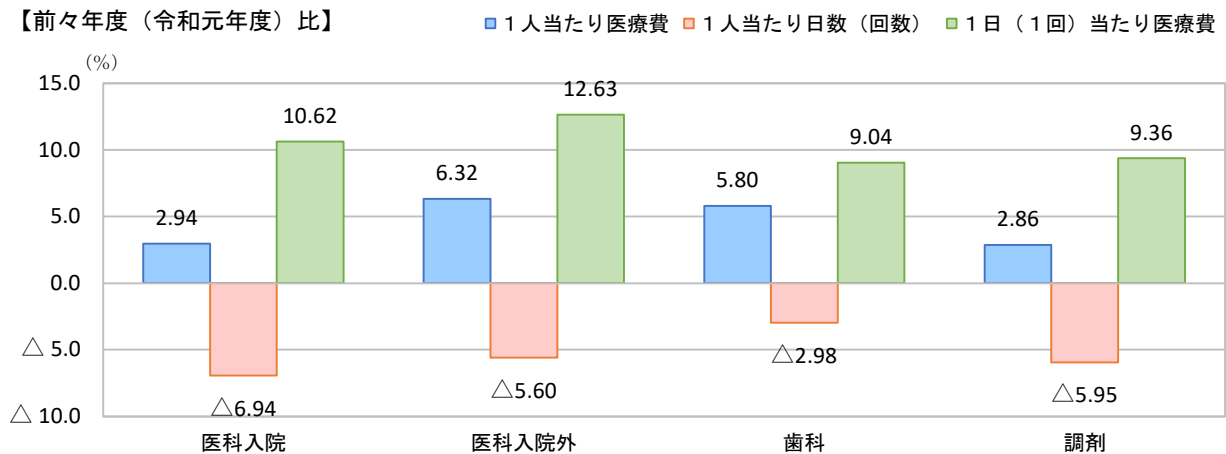
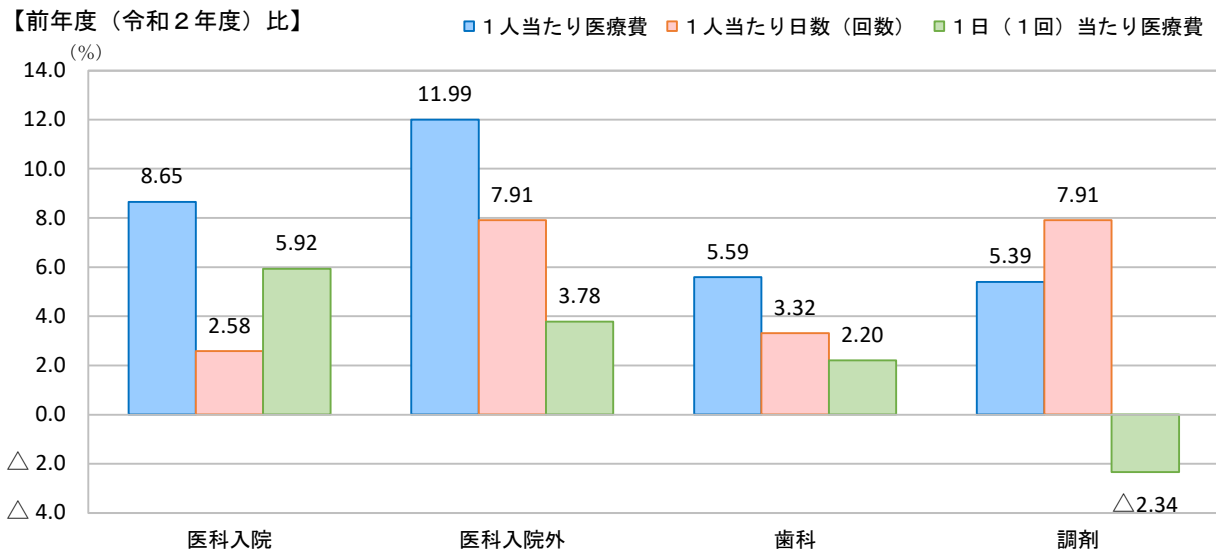
どのような要因が影響したのか、新型コロナ感染拡大前の元年度とも比較しながら見ていく。

1 診療区分別医療費の動向

1人当たり医療費 = 1人当たり日数 × 1日当たり医療費 であるため、医療費の伸びは次の式で表せる。

$$1人当たり医療費の伸び率 = 1人当たり日数の伸び率 + 1日当たり医療費の伸び率$$

診療区分別にこれらの要素の前年度比、前々年度比をグラフにすると、次のとおりとなる。



※休日数等の補正は行っていない。

令和2年度と比較すると、1人当たり医療費はいずれの診療区分においても増加しているが、これは、1人当たり日数 (受診頻度) 及び1日当たり医療費 (診療単価) の両方が、2年度より増加しているためである。

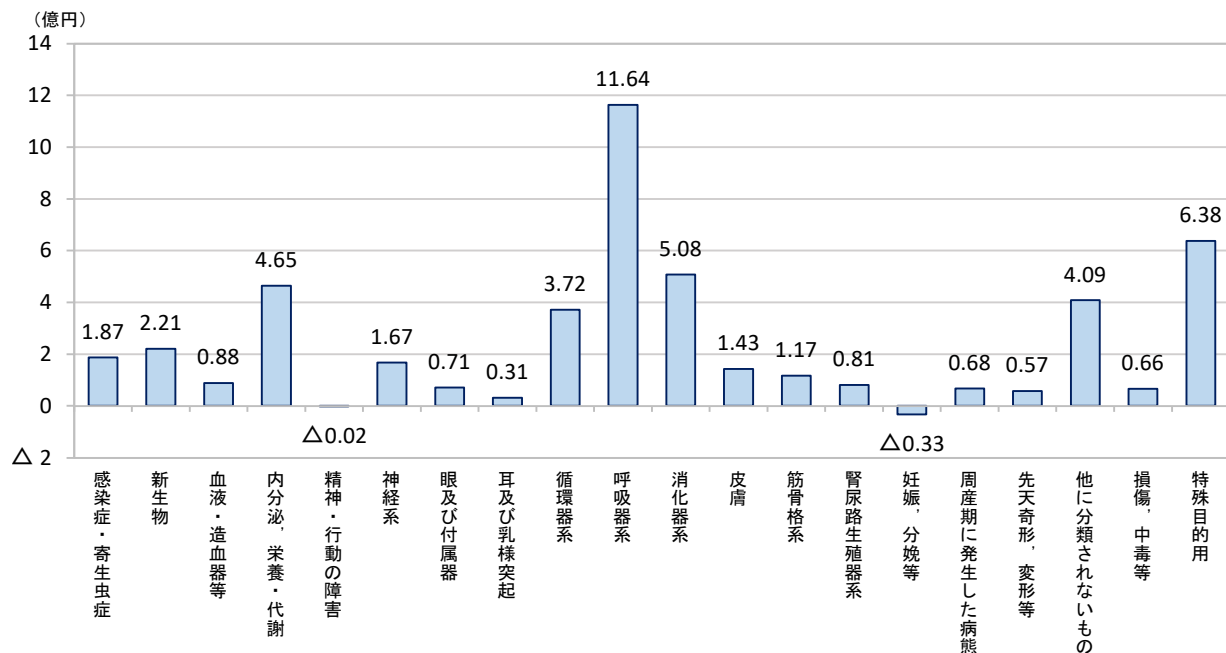
令和元年度と比較すると、1人当たり医療費はいずれの診療区分においても増加しており、新型コロナ感染拡大前の水準を上回っているが、1人当たり日数についてはいずれの診療区分においてもマイナスとなっている一方、1日当たり医療費についてはいずれの診療区分においても大幅なプラスとなっている。

コロナ禍においては、受診頻度を少なくし一度の受診で多くの医療を受ける傾向にあった。受診頻度は、コロナ前の水準まで回復しないもののやや戻りつつある一方、診療単価の増加はコロナ前以上となっており、このことが3年度の医療費の増加に表れている。

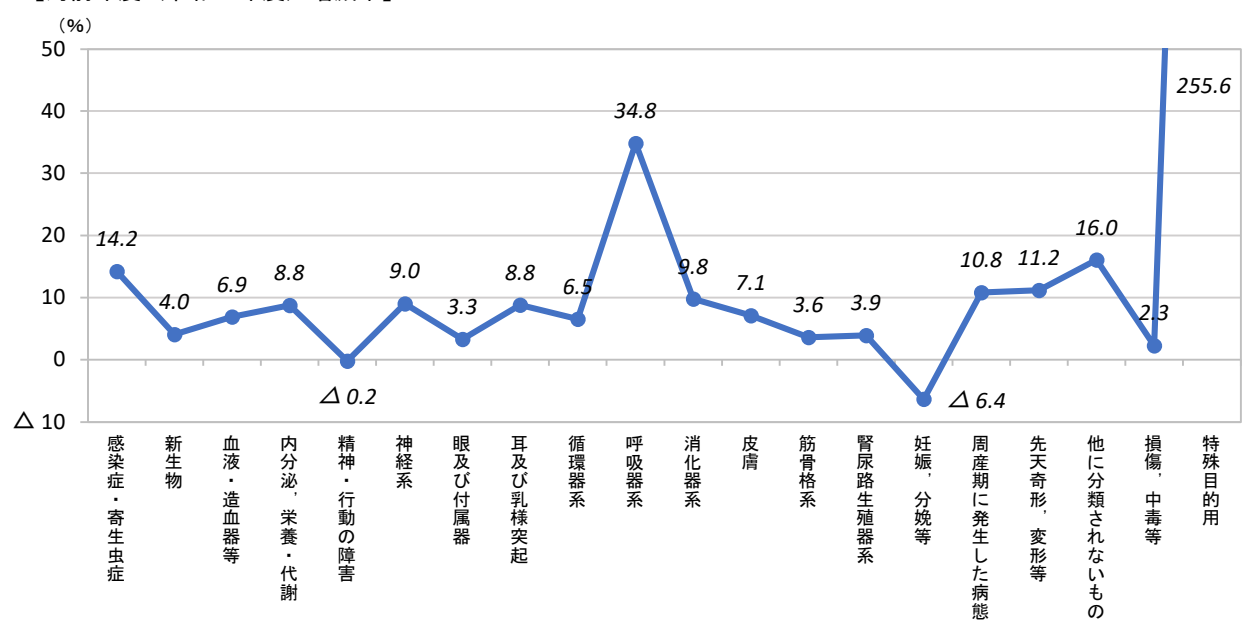
2 疾病分類別医科医療費の動向

令和3年度の医科医療費（入院と入院外の計）について、疾病分類別に対前年度の増減額及び増減率をグラフにすると、次のとおりとなる（47 ページ表-44 参照）。

【対前年度（令和2年度）増減額】



【対前年度（令和2年度）増減率】

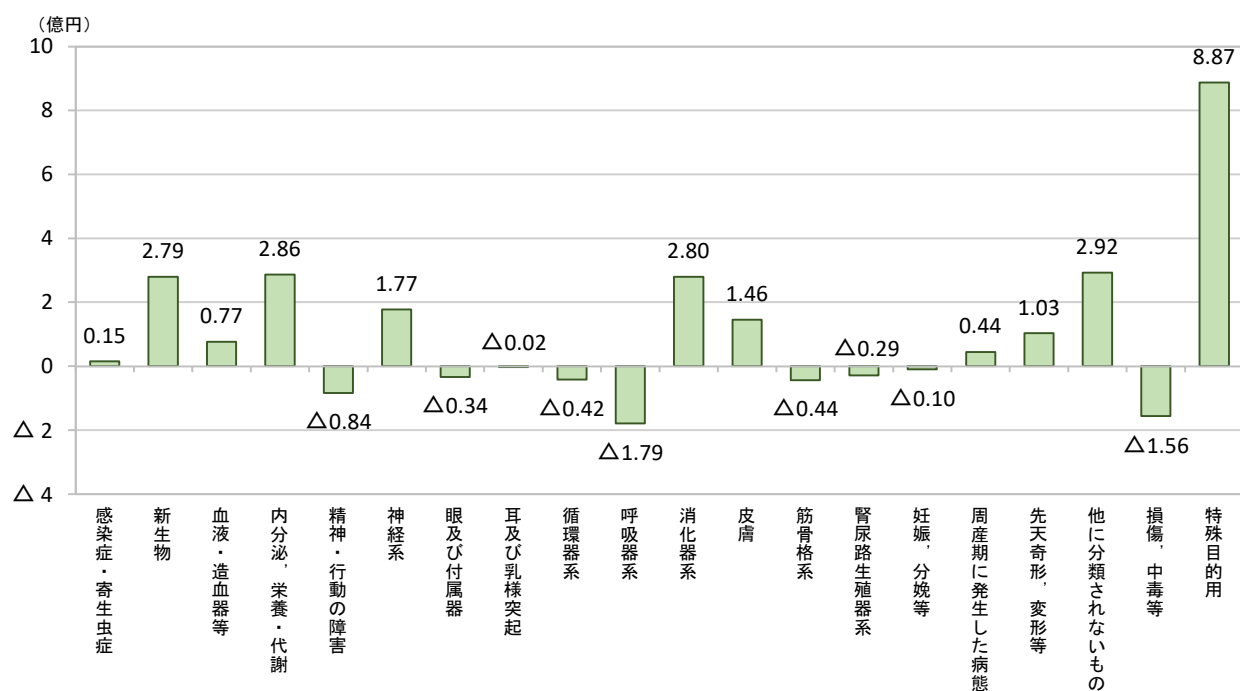


精神・行動の障害並びに妊娠、分娩及び産じょくを除き、いずれの疾病分類も前年度から増加しており、特に呼吸器系の疾患では11.6億円（34.8%）と大幅に増加している。これは、前年度から増加した医療費（59.8億円）のうち19.5%にあたる。

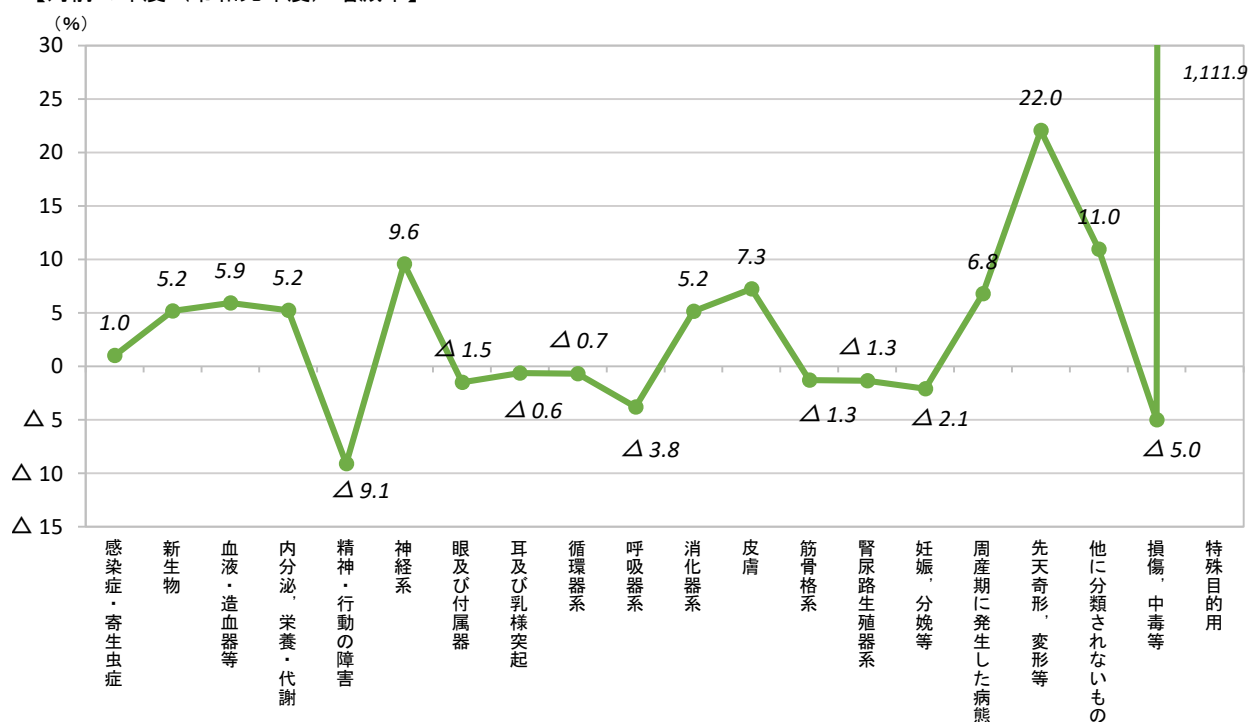
なお、先述のとおり新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は特殊目的用コードに分類され、同分類に計上された医療費のほとんどが新型コロナに係るものと考えられるが、前年度比で6.4億円（255.6%）増の8.9億円となっており、前年度から増加した医療費のうち10.7%にあたる。

令和3年度の医科医療費（入院と入院外の計）について、疾病分類別に対前々年度の増減額及び増減率をグラフにすると、次のとおりとなる。

【対前々年度（令和元年度）増減額】



【対前々年度（令和元年度）増減率】



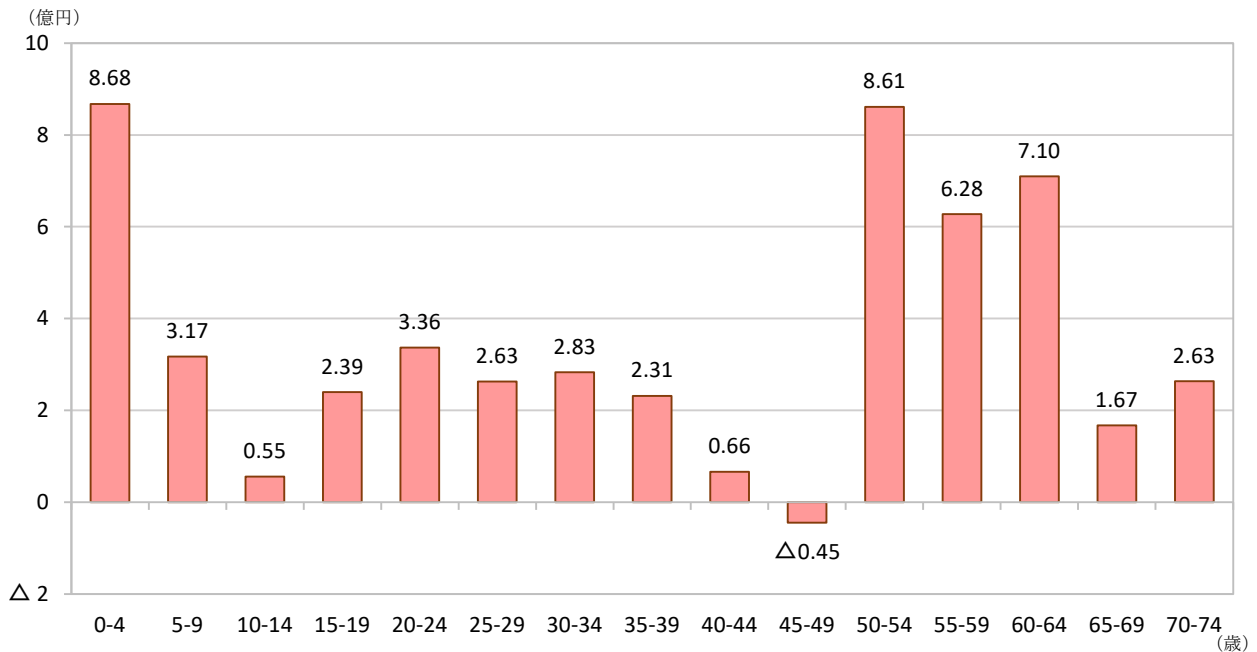
若干の差異はあるものの、特殊目的用コードを除きいずれの疾病分類も令和元年度の医療費と大きな差はなく、概ね同程度の金額となっている。

このうち呼吸器系の疾患を見ると、令和元年度との差は△1.8 億円（△3.8%）となっており、令和2年度に大きく減少したがコロナ前（令和元年度）の水準に迫るほどとなっている。

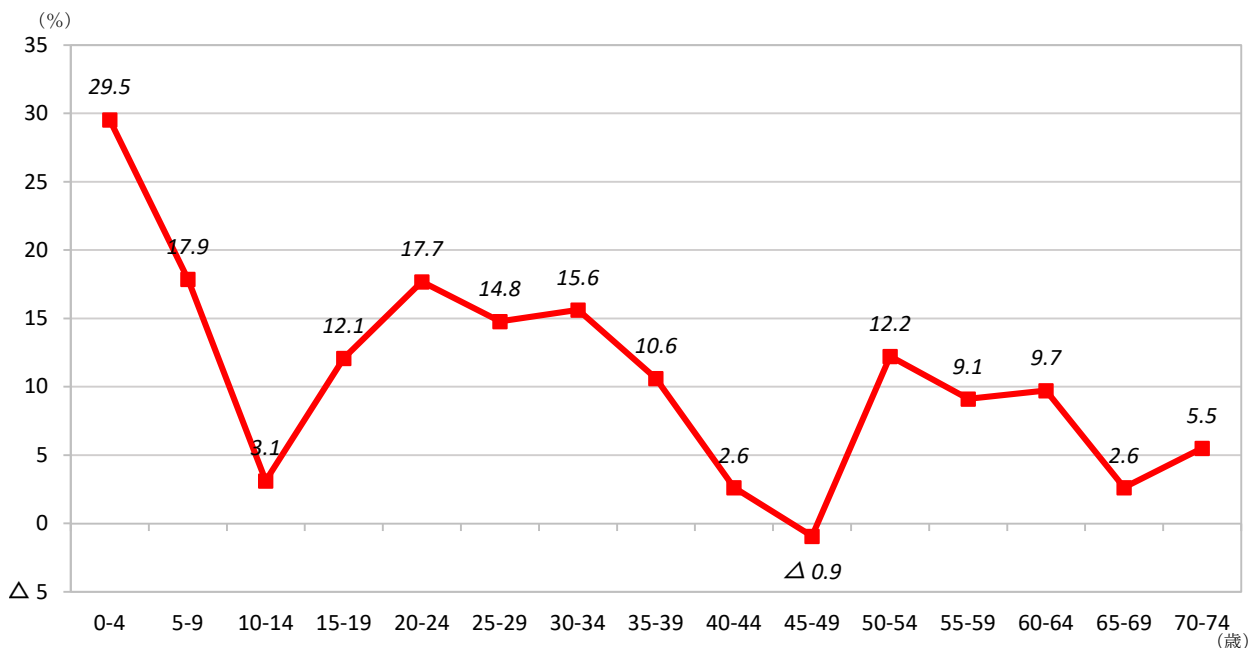
3 年齢階級別医療費の動向

令和3年度の医科及び歯科医療費（入院と入院外の計）について、年齢階級別に対前年度の増減額及び増減率をグラフにすると、次のとおりとなる（47 ページ表-44 参照）。

【対前年度（令和2年度）増減額】



【対前年度（令和2年度）増減率】



45-49 歳を除いた他の年齢階級で増加しているが、特に 0-4 歳では前年度比で 8.7 億円（29.5％）と大きく増加しており、前年度から増加した医療費（59.8 億円）のうち 14.5％を占める。

これは、小児の医療費の内訳をみると、呼吸器系の疾患が占める割合が高いが、先にみたように呼吸器系の疾患の医療費が大きく増加しており、このため小児の医療費も増加している。

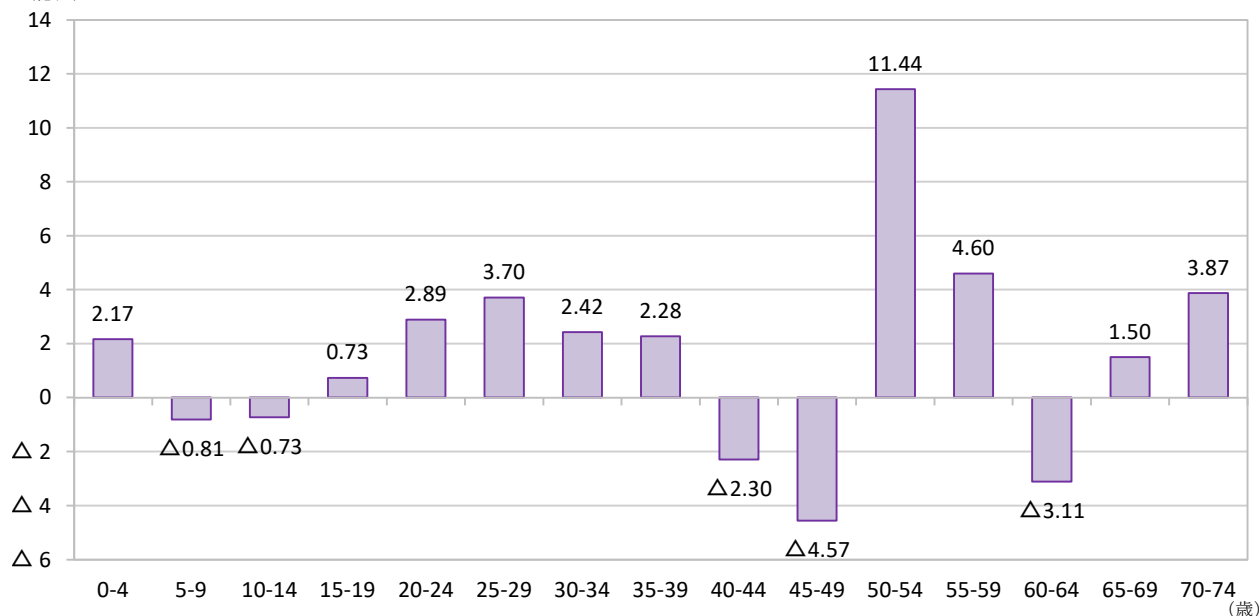
なお、0-4 歳の呼吸器系の疾患に係る医療費は、前年度比で 4.3 億円（79.4％）の増となっている。

また、医療費の高い年齢階級である 50-54 歳、55-59 歳、60-64 歳の増加額も大きく、前年度比でそれぞれ 8.6 億円（12.2％）、6.3 億円（9.1％）、7.1 億円（9.7％）の増となっている。これは、前年度から増加した医療費のうちそれぞれ 14.4％、10.5％、11.9％にあたり、このことも総医療費の増加に影響している。

令和3年度の医科医療費（入院と入院外の計）について、年齢階級別に対前々年度の増減額及び増減率をグラフにすると、次のとおりとなる。

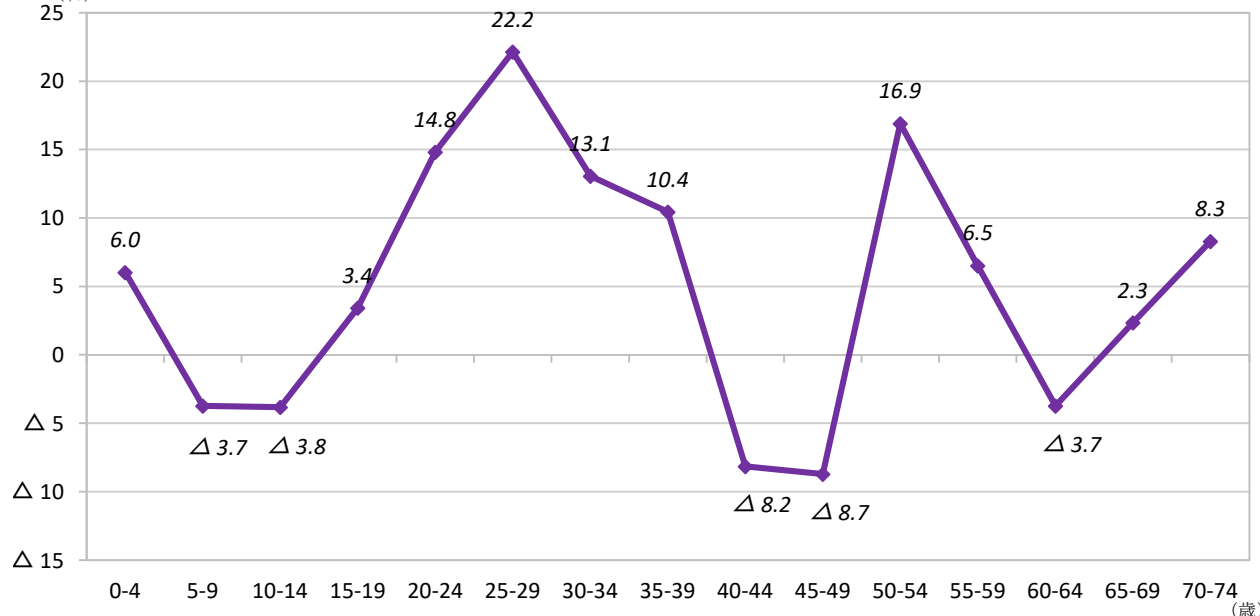
【対前々年度（令和元年度）増減額】

（億円）



【対前々年度（令和元年度）増減率】

（％）



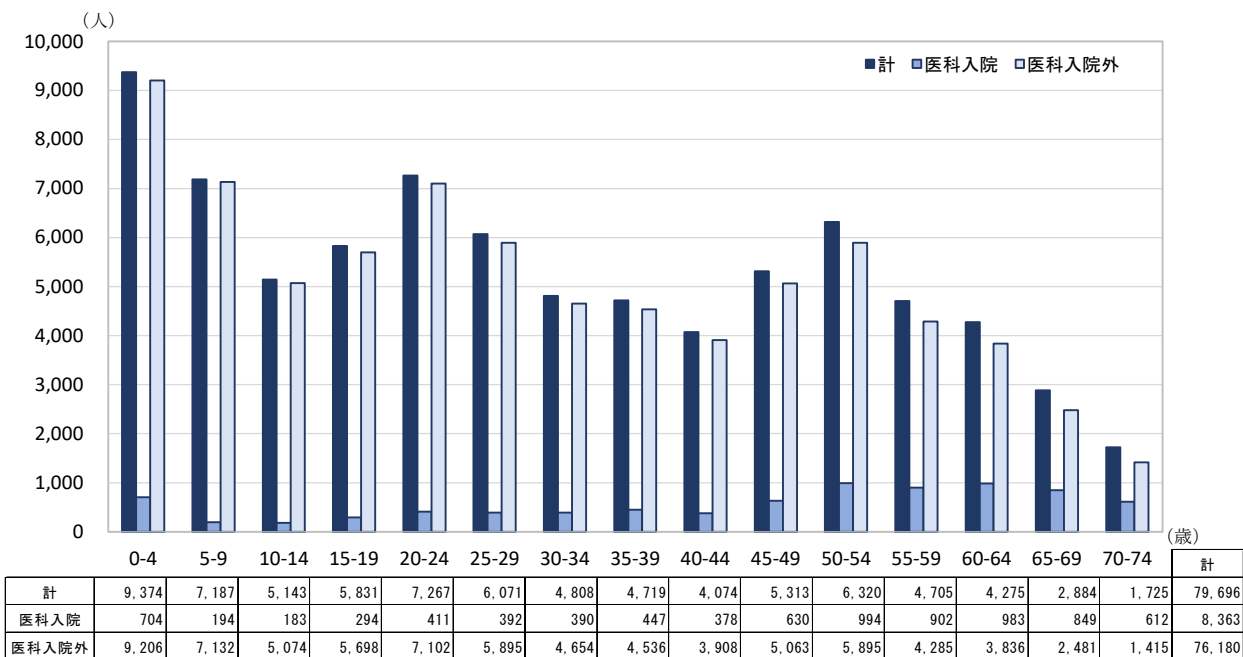
年齢階級によって傾向が異なるが、このうち50-54歳では前々年度比で11.4億円（16.9％）と大きく増加している。

また、20歳から39歳の年齢階級の増加率が高いが、これは、元々この年齢階級の医療費は低いなか、新型コロナに係る医療費が発生したこと及び歯科医療費が増加したことが影響している。

そのほか、小児を見ると、0-4歳で2.2億円（6.0％）の増加、5-9歳で0.8億円（3.7％）の微減となっている。小児に係る医療費は令和2年度に大きく減少したが、3年度ではコロナ前（令和元年度）と概ね同程度となっている。

4 新型コロナウイルス感染症の動向

(1) 実患者数

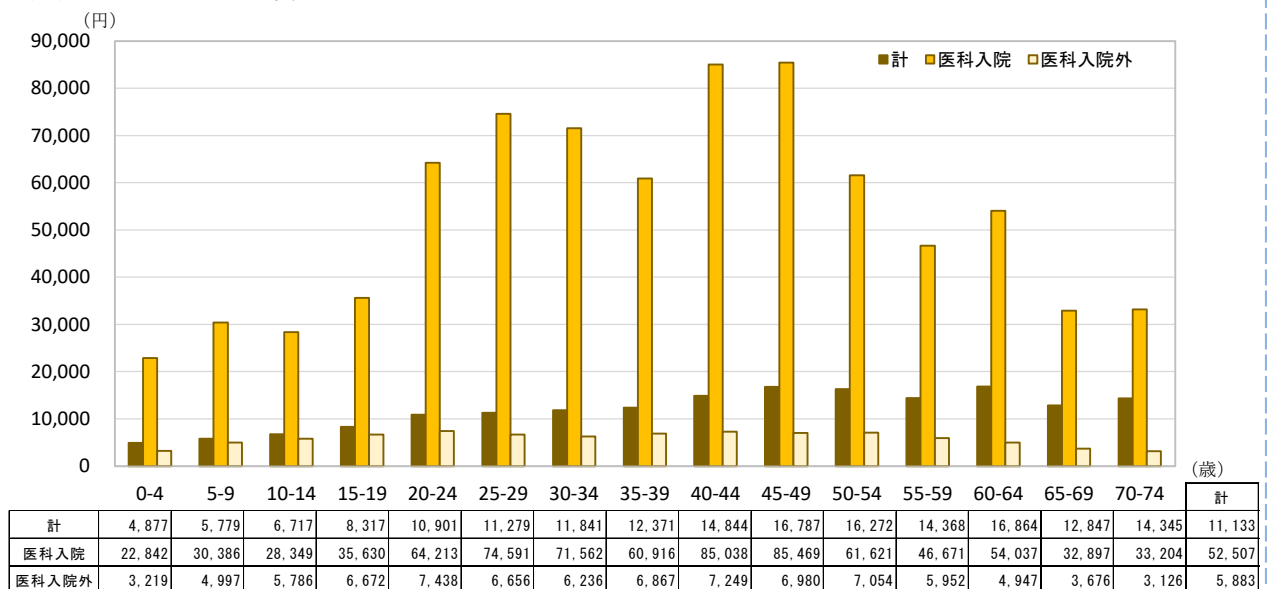


令和3年度における新型コロナ感染症の患者数を年齢階級別に見ると、0-4歳(9,374人)が最も多く、次いで20-24歳(7,267人)、5-9歳(7,187人)の順となっており、合計では79,696人となっている。

小児の患者数が多いが、これは、小児は発熱での受診が多いため受診時に新型コロナの検査が行われる割合が高く、その場合は診断名に「コロナ疑い」と記載されるため、結果的に患者数が多くなったと推察される。

※同一人物が入院と入院外に該当した場合、それぞれに「1人」と計上している。そのため、計の人数は入院と入院外を合算した値と一致しない。

(2) 1患者当たり医療費



令和3年度における新型コロナ感染症に係る1患者当たり医療費を年齢階級別に見ると、60-64歳(16,864円)が最も高く、次いで45-49歳(16,787円)、50-54歳(16,272円)の順となっており、平均では11,133円となっている。

入院医療費を見ると、45-49歳(85,469円)が最も高く、次いで40-44歳(85,038円)、25-29歳(74,591円)の順に続き、平均では52,507円となっており、入院外医療費を見ると、20-24歳(7,438円)が最も高く、次いで40-44歳(7,249円)、50-54歳(7,054円)の順に続き、平均では5,883円となっている。

※1患者当たり医療費は、医療費を実患者数で除して得た値である。